

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	医療福祉論Ⅱ	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-樋口 美智子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「医療福祉論Ⅰ」で学んだ「ソーシャルワークの価値・倫理」「医療福祉の概念」や「医療における尊厳と権利」を基盤として、保健医療分野におけるソーシャルワークの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得します。</p> <p>また、地域包括ケアシステムにおける多職種協働についてミクロ・メゾ・マクロの視点から理解します。</p>	<p>毎回、医療機関でのソーシャルワーク実践を紹介しています。他科目で学習した理論や技術、制度等が、どのように実践の中で活かされているかを学ぶことができます。特に医療ソーシャルワーカーを志望する学生は、実務的にその業務を理解することができます。</p> <p>「保健医療サービス」「医療福祉論Ⅰ」の既得が望ましいですが、内容を復習しながら進めますので、未履修者も歓迎します。</p>
到達目標	<p>①ソーシャルワークの価値・倫理に基づいて、病気や障がいを抱えながら生活する人々を理解し、説明できる。</p> <p>②保健医療分野におけるソーシャルワーク実践の過程を、事例を通じて説明できる。</p> <p>③相談援助に必要な基本的な知識・技術について説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	障がいの概念、生活障がいとソーシャルワーク、家族の理解	各キーワードの概念整理
	2	危機状況に陥りやすい背景を持つ人々への援助	基本的な理論の復習
	3	周産期における課題と援助	ライフステージの特徴や疾病の学習
	4	新生児期・乳幼児期・学童期における課題と援助	同上
	5	思春期・青年期における課題と援助	同上
	6	ソーシャルワーク記録とは何か	逐語録の作成
	7	ソーシャルワーク実践のための面接技法	基本的な技術の復習
	8	ケース スタディ①アウトリーチ・エンゲージメント	各キーワードの概念整理
9	信頼関係を結ぶ面接技術①②	グループワーク課題の作成と発表	
10	ケース スタディ②アセスメント・プランニング	各キーワードの概念整理	
11	核心をはずさない相談援助面接の技法①②	グループワーク課題の作成と発表	
12	ケース スタディ③インターベンション・モニタリング	各キーワードの概念整理	
13	ターミナルケアにおける面接	グループワーク課題の作成と発表	
14	ケース スタディ④エバリュエーション・ターミネーション・フォローアップ	各キーワードの概念整理	
15	カンファレンスの実際	グループワーク課題の作成と発表	
16	補講・試験・追試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：指定しません。プリントを配布します。</p> <p>参考文献： ・ 『支援者が成長するための50の原則-あなたの心と力を築く物語-』、川村隆彦著、中央法規、2007年、 ・ 『医療ソーシャルワーク実践50例-典型的実践事例によるわかり易い医療福祉-』、大本・田中・笹岡著、川島書店、1999年、 ・ 『実践的医療ソーシャルワーク論』、村上・大垣編、金原出版、2009年、 ・ 『相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック』、日本医療社会福祉協会編、新日本法規、2013年</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： ・ 出欠確認を毎回行います。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、次回までの時間外学習内容や課題提出日等を確認し、欠席届を次回までに提出すること。受講時は、質問・ディスカッション・グループワークでの協働等、積極的・協調的な参加を評価します。</p> <p>②学びを深めるために： ・ 保健医療分野におけるソーシャルワークに関する図書は、制度・政策論的内容と知識・技術論的内容に大別されます。各々をバランスよく学習すると良いでしょう。制度やサービス等については、その根拠法をその都度確認する習慣を身に着けましょう。</p>		
評価	<p>・ 平常点：出欠状況、質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（30%）</p> <p>・ 時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（20%）</p> <p>・ 個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（50%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目： ・ 「保健福祉政策論」「保健医療サービス」「医療福祉論Ⅰ」</p> <p>(2) 次のステージ： ・ 基本的な保健医療分野におけるソーシャルワークを学んだ後に、救急医療・小児医療・在宅医療・緩和医療等のテーマを見つけて専門性を深める学習を継続していきましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護概論	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-嘉数 世利子	2年	講義の修了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい 講義を通して、介護の意味・概念、介護技術の分類とその内容について理解する。また、特に障害別に介護にも注目し、特に高齢者を事例として考察する。さらに介護従事者として専門性、危機管理等についても考察する	メッセージ 介護支援は、直接対象者との直接的な接触や相互に全人的・人格的ふれあいを伴うことから、福祉業務における最も重要な援助技術の一つである。講義に際しては、自分の専門性を高める基本であることを認識して臨むこと
	到達目標 ① 介護の概念・意味・種類・内容等について理解する ② 介護者として倫理・実践上の原則等について理解する ③ 障害別の介護技術について理解する ④ 介護従事者の資質、倫理、危機管理等について理解する ⑤ 介護の専門性と他専門職との連携のあり方について理解する ⑥ 知的・精神面の障害、認知症に対する支援を理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 受講の心得や注意点など	講義の趣旨・受講の心得等の理解
	2	介護に関する制度・政策・現状等の再確認	示された課題の考察・準備
	3	介護従事者の役割・他専門職との連携	示された課題の考察・準備
	4	介護を受ける側の立場の理解	示された課題の考察・準備
	5	介護で思量する機器・補助器具等について	示された課題の考察・準備
	6	状態に応じた介護の特質	示された課題の考察・準備
	7	日常生活介護（食事、歩行、着脱など）	示された課題の考察・準備
	8	日常生活介護（入浴、排泄、整姿など）	示された課題の考察・準備
	9	身辺・安全・健康等の管理・支援	示された課題の考察・準備
	10	精神障害・発達障害等の介護	示された課題の考察・準備
	11	認知症高齢者の介護	示された課題の考察・準備
	12	介護とコミュニケーション技術	示された課題の考察・準備
	13	介護とリハビリテーション	示された課題の考察・準備
	14	介護従事者と地域サポートネットとの連携	示された課題の考察・準備
	15	介護従事者の倫理、危機管理、課題、まとめ	示された課題の考察・準備
16	テスト	講義のまとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に、必要な資料を配布する。また参考にすべき文献等についても、必要に応じて提示する
-------	---

学びの実践	学びの手立て ① 身体接触を伴う支援業務（介護）が接触を伴わない支援（相談援助）と並び、福祉業務の重要な専門性であること理解し講義に臨むこと ② 可能限り身近な人の介護を想定しながら、支援する側・支援される側の立場を想定しながら受講すること ③ マスコミで報道される介護現場での事故、事件等に注目し、その発生の要因・発生の過程・相互のあり方などについて常に考察すること ④ 自分を介護の専門従事者と想定し、専門性とは何か、専門性を高めるための学ぶ内容は課題等について常に考えること ⑤ 介護保険制度など、日本の介護業務の位置づけや動向等に関心を持ち、常に情報の収集や整理に努めること
-------	--

学びの実践	評価 評価は、①出席状況（20%）、②試験の得点（50%）、③課題・レポートの提出状況（30%）など総合的に判断して行う。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目は介護技術Ⅰ及びⅡのと対をなす科目であり、介護支援全体の理解はこれらの受講をもって完結するため、本科目を登録受講する場合は、これらの科目の受講も視野に入れること
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術 I	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-嘉数 世利子	2年	講義の修了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい 介護概論で学んだ内容を踏まえ、本講義では介護お技術面の基本的部分について学ぶ。	メッセージ 本講義は、視聴覚教材を活用した学びや介護現場での基礎的介護技術の実技を行います。また基礎介護機材の操作や現場での実体験を伴うため、指示を守り事故のないように注意に心がけること
	到達目標 ① 指定された時間や場所を確認の上で参加すること ② 指示された服装・装飾などに気をつけること ③ 自分の健康管理に気をつけ・健康や身体上配慮する点については講師に申し出ること ④ インフルエンザ等、他人に伝染性の疾病の場合は参加は控えること ⑤ その他、遅刻・欠席等の場合は必ず事前に申し出ること	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要の説明、受講の心得や注意点等の確認	介護概論の復習
	2	介護に関する知識・介護技術について再確認	学習に向けての予習・課題の整理
	3	介護全般に関する理解（視聴覚教材）	同上
	4	介護従事者の役割・位置づけの実際	同上
	5	身体介護の実際①（車イス等の移動介助、起居動作介助など）	同上
	6	身体介護の実際②（食事・着脱・整姿等の技術）	同上
	7	身体介護の実際③（入浴、清拭、排泄、整姿等の技術）	同上
	8	補装具・介護機器等の実際と操作法	同上
	9	リハビリテーションと介護	同上
	10	認知症の実際と介護技術	同上
	11	非常時の対応・救急法の基礎、危機管理の実際	同上
	12	介護とコミュニケーション技術	同上
	13	介護で必要な記録法、他の専門職との連携のあり方	同上
	14	介護従事者の心身の健康管理・危機管理	同上
15	講義のまとめ、講義のふり返し、課題の提示	講義のふり返し・まとめ	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に、必要な資料を配布する。また参考にすべき文献等についても、必要に応じて提示する
-------	---

学びの実践	学びの手立て ① 実体験や直接機材等に触れることが多い講義であることから、指示された事項を遵守すること ② 指示された身なり、時間や場所など、その他指示が守ること ③ 参加が適当でないと判断される場合は、講義の途中でも受講を取り消す ④ 現場職員との良好な関係やコミュニケーションの保持に努めること ④ 疑問や気づき等は講師に質問し、十分な理解の上で参加すること
-------	--

学びの実践	評価 評価は、①出席状況（20%）、②技術の習得状況（50%）、③レポート（10%）、受講態度（20%）など総合的に判断して行う。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ① この科目の受講は介護概論の受講修了者を原則とする ② 本科目は介護技術Ⅱと対をなす科目であり、登録はⅡとの同時登録・受講を原則とする
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術Ⅱ	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-嘉数 世利子	2年	講義の修了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、介護技術Ⅰでの成果を踏まえ、実際の介護現場で補助を通して、これまで学んだ介護理論や介護技術を確認し、将来専門職を目指して介護技術の精度を高めることを目的とする。	本講義は、介護の現場での体験学習があるため、指示された注意事項等を遵守し事故のないように注意に心がけること 入所者・利用者との直接接触もあることから、細心の注意を払うこと

到達目標
① 介護全般について理解し、それぞれの一定の技術の修得を目指す ② 介護職としての施設、対応のプロセス、規則や職員間の協働のあり方を理解する ③ 一定レベルの介護機材・補装具等に関する知識と操作の方法を習得する ④ 介護職として倫理観、実践上の原則等について理解する

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要の説明、受講の心得や注意点等の確認	講義概要・注意事項等の理解
	2	介護現場の理解（設備、機材、補装具、備品など）	指示された課題等の理解・準備
	3	介護現場の理解（各職種の職務分掌など）	同上
	4	介護関連事業の理解（入所・通所・短期・認知症対応、介護支援など）	同上
	5	通所介護での体験学習（各種の介護補助）	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	認知症対応型生活施設での体験学習	同上
	9	同上	同上
	10	同上	同上
	11	保健施設・リハビリテーションの体験学習	同上
	12	同上	同上
	13	同上	同上
	14	学生によるふり返り・介護業務に関する再確認	同上
15	講義のまとめ、課題の提示	講義のまとめ・反省等	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じ資料を配布する。参考文献等についても必要に応じて提示する
----	---

学びの手立て	① 実体験や直接機材等に触れることが多い講義であることから、指示された事項を遵守すること ② 指示された身なり、時間や場所など、その他指示が守ること ③ 適当でないと判断される場合は、講義の途中でも受講を取り消す ④ 現場職員との良好な関係やコミュニケーションの保持に努めること ⑤ 疑問や気づき等は講師に質問し、十分な理解の上で参加すること
--------	---

評価	評価は、①出席状況（20%）、②技術の習得状況（50%）、③レポート（10%）、受講態度（20%）など総合的に判断して行う。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目の登録受講は介護概論及び介護技術Ⅰの受講修了者を原則とする
-------	--

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が構築されてきたのかをたどることは、家族を構築してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	現代の社会事象を家族から読み解くことができるようになる。近代・宗教・経済・近代的ジェンダー・国民国家・アディクションという視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、家族とは何か?	シラバスをよく読むこと
	2	家族に関する統計を読む	基礎的な統計を把握しておく
	3	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	4	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
	5	沖縄における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	6	アロマザリングと守姉	配布資料を熟読すること
	7	贈与交換と家族	配布資料を熟読すること
8	生と死と老い	配布資料を熟読すること	
9	子ども観の変遷	配布資料を熟読すること	
10	近代的ジェンダーと家族	配布資料を熟読すること	
11	国民国家と家族	配布資料を熟読すること	
12	フィードバックとトピック	ニュースに関心を持っていること	
13	機能不全家族（『新世紀エヴァンゲリオン』）	指定された動画をチェックしておく	
14	近代家族とアディクション	配布資料を熟読すること	
15	家族の再構築（『千と千尋の神隠し』）	指定された動画をチェックしておく	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房） ②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫） ③グレゴリー・ペイトソン『精神の生態学』（2000年、新思索社）</p>		
学びの手立て	<p>現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていきます。近代という夢から醒めた後に、どのようなビジョンがもてるのかという問いを共有できることがのぞましい。毎回の受講の積み重ねが力になります。</p>		
評価	<p>毎回、配布資料の文脈にそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出します。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価を毎回します。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課します。リアクション・ペーパー（70%）、テスト（30%）。欠席回数は学務規定を参考にしてください。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が構築されてきたのかをたどることは、家族を構築してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	現代の社会事象を家族から読み解くことができるようになる。近代・宗教・経済・近代的ジェンダー・国民国家・アディクションという視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、家族とは何か?	シラバスをよく読むこと
	2	家族に関する統計を読む	基礎的な統計を把握しておく
	3	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	4	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
	5	沖縄における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	6	アロマザリングと守姉	配布資料を熟読すること
	7	贈与交換と家族	配布資料を熟読すること
8	生と死と老い	配布資料を熟読すること	
9	子ども観の変遷	配布資料を熟読すること	
10	近代的ジェンダーと家族	配布資料を熟読すること	
11	国民国家と家族	配布資料を熟読すること	
12	フィードバックとトピック	ニュースに関心を持っていること	
13	機能不全家族（『新世紀エヴァンゲリオン』）	指定された動画をチェックしておく	
14	近代家族とアディクション	配布資料を熟読すること	
15	家族の再構築（『千と千尋の神隠し』）	指定された動画をチェックしておく	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房） ②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫） ③グレゴリー・ペイトソン『精神の生態学』（2000年、新思索社）		
学びの手立て	現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていきます。近代という夢から醒めた後に、どのようなビジョンがもてるのかという問いを共有できることがのぞましい。毎回の受講の積み重ねが力になります。		
評価	毎回、配布資料の文脈にそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出します。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価を毎回します。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課します。リアクション・ペーパー（70%）、テスト（30%）。欠席回数は学務規定を参考にしてください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が構築されてきたのかをたどることは、家族を構築してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。学科外の学生の受講も歓迎します。
到達目標	統計や社会現象や表象を家族という視点から読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、統計を読む	シラバスをよく読むこと
	2	家族の構造	配布資料を熟読すること
	3	日本における近代家族	配布資料を熟読すること
	4	沖縄における近代家族	配布資料を熟読すること
	5	沖縄の家族と日本型家族の差異	配布資料を熟読すること
	6	郊外と格差社会と家族	配布資料を熟読すること
	7	トピック	ニュースに関心をもつこと
	8	子ども観の変遷	配布資料を熟読すること
	9	鑑からスーツへ	配布資料を熟読すること
	10	母親の社会史	配布資料を熟読すること
	11	家族とアディクション	配布資料を熟読すること
	12	ダブルバインドとロマンティック・ラブ（『カッコーの巣の上で』）	動画をチェックすること
	13	治療共同体アミティと家族（『隠された過去への叫び』）	動画をチェックすること
14	父親を考える（『そして父になる』）	動画をチェックすること	
15	贈与交換と家族	配布資料を熟読すること	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房） ②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫） ③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思索社）</p>		
学びの手立て	<p>現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていきます。近代という夢から醒めた後に、どのようなビジョンがもてるのかという問いを共有できることがのぞましい。その学びを深めるためには、毎回の受講の積み重ねが必要です。できるだけ欠席しないことがスキルのひとつです。</p>		
評価	<p>毎回、配布資料のコンセプトにそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出します。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価を毎回します。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課します。リアクション・ペーパー（70%）、テスト（30%）。欠席回数は学務規定を参考にしてください。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい この授業のねらいは二つ。一つは、英語の文献を読む力を身につけること、もう一つは、英語の文献を通じて、心理学の専門用語の知識を得ること。	メッセージ 英語の文献を読むには、まず、英語の文の構造を知ることが大切です。何が主語で何が述語かをしっかり把握すれば、長文でも理解できるようになります。文の構造を理解できるように授業にしたいと思います。
	到達目標 この授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。難しい外国語の文献は、単語だけ分かっていても、文の構造がわからなければ全体の意味がわかりませんので、まずは、文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。	

学びの準備	到達目標 この授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。難しい外国語の文献は、単語だけ分かっていても、文の構造がわからなければ全体の意味がわかりませんので、まずは、文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	Human Aggression p201～p203の6行まで
	3	Human Aggression p203、7行～ p205、5行まで
	4	Human Aggression p205、6行～p207、8行まで
	5	Human Aggression p207、9行～p208、33行まで
	6	Human Aggression p208、34行～p210、4行まで
	7	Human Aggression p210、5行～p211、最後の行まで
	8	Human Aggression p212、1行～p213、27行まで
	9	Human Aggression p213、28行～p215、19行まで
	10	Human Aggression p215、20行～p217、12行まで
	11	Human Aggression p217、13行～p218、最後の行まで
	12	Human Aggression p219、1行～p221、2行まで
	13	Human Aggression p221、3行～p222、最後の行まで
	14	Human Aggression p223、1行～p224、36行まで
	15	Human Aggression p224、37行～p226、最後の行まで
16	試験	
	時間外学習の内容	
	授業の範囲を予習しておく	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	
	前回の復習とその日の授業の予習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは、The Social Animal Ninth Edition, Elliot Aronson, Worth Publisher を用いる。この本は、心理学の紹介本で、英文の文章が美しいという点で評判の本です。主に、社会心理学の観点から心理学を紹介している書で、心理学専攻の学生には、是非読んでほしい一冊です。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 語学は、頑張れば頑張るほど必ず力がついてきます。才能よりも努力です。単語や述語を憶えることも大切ですが、だからといって、単語だけ一生懸命に憶えても、全体の文章の意味が分からなければ意味がありません。まず、多くの学生が苦手になっている英文法をわかりやすく解説して、英文の解釈ができるような授業にしたいと思います。毎回、小テストがありますが、振り返りのためには、大切な小テストです。是非、頑張って苦手の英語にチャレンジしてください。必ず辞書は持参してください。大学院に進む学生は、日頃から紙媒体の辞書を購入してください。院試の際に電子辞書の持ち込みを認めない大学がほとんどです。
-------	---

学びの実践	評価 小テスト (30%) 毎回、授業開始前に10分程度の小テスト（前回授業の振り返り）を行います。 期末試験 (70%)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習を通して、外国語の読解が容易になり、今後の心理学の学習に役立つと思われます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年		

学びの準備	ねらい 学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。	メッセージ 現場で臨床心理士をしている講師が英語を教えます。心理学の文献でよく見られる単語等を教えます。
	到達目標 心理学でよく使用される英語を知ることで、専門用語（英語）の語彙力が高まります。英語で書かれた心理学文献をスムーズに訳することが出来るようになります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録、オリエンテーション	配布資料の予習
	2	発達障がい（英語の文献を読み解く）	配布資料の英単語を調べる
	3	発達障がい（英語の文献を読み解く）	発達障がいの英語の文献を和訳する
	4	発達障がい（英語の文献を読み解く）小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
	5	小テスト（発達障がい）・心理アセスメント（英語圏の心理アセスメントを理解する）	配布資料の英単語を調べる
	6	心理アセスメント（英語圏の心理アセスメントを理解する）、課題提示（自宅学習）	復習、課題を自宅学習
	7	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）、課題提出	配布資料の単語を調べる
	8	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）	配布資料を和訳する
9	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）・小テスト準備	復習、小テストに備えた学習	
10	小テスト（カウンセリング）・集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）	配布資料の英単語を調べる	
11	集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）	配布資料を和訳する	
12	集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）、小テスト準備	復習、小テストに備えた学習	
13	小テスト（集団心理療法）虐待・ドメスティックバイオレンス・神話	配布資料の単語を調べる	
14	虐待・ドメスティックバイオレンス・神話、課題提示（自宅学習）	復習、課題を自宅学習	
15	課題提出、全体のまとめ	復習	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。原書を読む楽しさを学び、理解を深める。 Gelso, C. J. & Fretz, B. R. (1992) Counseling Psychology. Harcourt Brace College Publisher. その他、参考文献は講義の中で紹介する。		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること（電子辞書OK。スマホアプリ辞書OK）。ただし、授業と関連ないスマホ使用禁止。 意欲的な授業参加を求める。授業に集中し、講師の板書内容を積極的に書き留めること。		
	評価 各単元終了後、小テスト（3回）、課題（2回）。小テスト（60%）、課題（30%）、平常点10%。欠席（-2点）、遅刻（-1点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習 II
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	2年	shogo@oc.jc.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語でふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、かなりハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検2級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検2級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。3. 精神疾患やカウンセリングに関する理解を深めることができる。	

学びの準備	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。3. 精神疾患やカウンセリングに関する理解を深めることができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	外国語演習のオリエンテーション。米国と日本でのカウンセリングの価値観の違い	配布資料を読む。
	2	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	The Role and Responsibility of Psychologists	配布資料を読む。単語テスト
	5	Projective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	6	Objective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	7	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	8	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	9	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	10	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	13	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	14	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
	15	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。毎講義開始時間に、単語テストがあるので、遅刻しないこと。
-------	--

学びの実践	評価 単語テスト・・・30% 課題・・・20% 期末テスト・・・50%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 外国語演習Ⅰで学んだものを元に、英語で書かれた研究論文を読みこなすことができることがこの授業のねらいである。 さらに、最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことを目標とする。	メッセージ 現場で臨床心理士をしている講師が英語を教えます。心理学の文献でよく見られる単語等を教えます。
	到達目標 英語で書かれた文献を通して、外国（主に米国）での心理学の現状や心の病についてなど学習することが出来ます。 大学で現在学んでいる心理学と外国（主に米国）での心理学トピックを交差させることができ、学びが深くなります。 さらに、英語で心理学文献を読むストレスが低くなります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録・オリエンテーション	配布資料の予習
	2	心理学関連トピック 原書講読	配布資料の単語を調べる
	3	心理学関連トピック 原書講読	配布資料の和訳
	4	心理学関連トピック 原書講読	配布資料の和訳
	5	心理学関連トピック 原書講読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
	6	小テスト、心理学関連時事英語 原書講読	配布資料の単語を調べる
	7	心理学関連時事英語 原書講読	配布資料の和訳
	8	心理学関連時事英語 原書講読	配布資料の和訳
	9	心理学関連時事英語 原書講読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
	10	小テスト、心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の単語を調べる
	11	心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の和訳
	12	心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の和訳
	13	心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の和訳
14	心理学関連研究論文 原書購読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習	
15	小テスト、全体のまとめ	復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。参考文献は講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること（電子辞書OK。スマホアプリ辞書OK）。ただし、授業と関連ないスマホ使用禁止。 意欲的な授業参加を求める。授業に集中し、講師の板書内容を積極的に書き留めること。		
	評価 各単元終了後、小テスト（3回）。小テスト（90%）、平常点10%。欠席（-2点）、遅刻（-1点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	2年	shogo@oc.jc.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語にふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、ハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検2級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検2級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。 2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かすことができる。 3. 精神疾患やカウンセリングに関する理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	外国語演習オリエンテーション。子どもに見られる精神障害について。	配布資料を読む。
	2	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	5	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	6	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	7	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	8	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	9	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	10	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	13	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	14	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	15	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。		
	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。毎講義開始時間に、単語テストがあるので、遅刻しないこと。		
	評価 単語テスト・・・30% 課題・・・20% 期末テスト・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい この授業のねらいは二つ。一つは、英語の文献を読む力を身につけること、もう一つは、英語の文献を通じて、心理学の専門用語の知識を得ること。	メッセージ 英語の文献を読むには、まず、英語の文の構造を知ることが大切です。何が主語で何が述語かをしっかり把握すれば、長文でも理解できるようになります。文の構造を理解できるように授業にしたいと思います。
	到達目標 この授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。難しい外国語の文献は、単語だけ分かっていても、文の構造がわからなければ全体の意味がわかりませんので、まずは、文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	Chapter 8, p289～p290、35行まで	授業の範囲を予習しておく
	3	Chapter 8, p290、36行～p291、最後の行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	4	Chapter 8, p292、1行～p293の29行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	5	Chapter 8, p293、30行～p294の34行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	6	Chapter 8, p294、35～p296の17行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	7	Chapter 8, p296、18行～p297の30行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	8	Chapter 8, p297、31行～p298の42行まで	前回の復習とその日の授業の予習
9	Chapter 8, p298、43行～p300、11行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
10	Chapter 8, p300、12行～p301、30行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
11	Chapter 8, p301、31行～p303、14行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
12	Chapter 8, p303、15行～p304、32行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
13	Chapter 8, p304、33行～p306、12行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
14	Chapter 8, p306、13行～p307、33行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
15	Chapter 8, p307、34行～p308、34行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは、The Social Animal Ninth Edition, Elliot Aronson, Worth Publisher を用いる。この本は、心理学の紹介本で、英文の文章が美しいという点で評判の本です。主に、社会心理学の観点から心理学を紹介している書で、心理学専攻の学生には、是非読んでほしい一冊です。今回は、この書の中から、Liking, Loving, and Interpersonal Sensitivityのchapterを扱う。		
	学びの手立て 語学は、単語や述語を憶えることも大切ですが、だからといって、単語だけ一生懸命に憶えても、全体の文章の意味が分からなければ意味がありません。まず、多くの学生が苦手になっている英文法をわかりやすく解説して、英文の解釈ができるような授業にしたいと思います。毎回、小テストがありますが、振り返りのためには、大切な小テストです。是非、頑張って苦手の英語にチャレンジしてください。必ず辞書は持参してください。大学院に進む学生は、日頃から紙媒体の辞書を購入してください。院試の際に電子辞書の持ち込みを認めない大学がほとんどです。		
	評価 小テスト (30%) 毎回、授業開始前に10分程度の小テスト（前回授業の振り返り）を行います。 期末試験 (70%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習を通して、外国語の読解が容易になり、今後の心理学の学習に役立つと思われます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習心理学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎課程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても取り上げる。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。	メッセージ 学習というと、イコール勉強と考えがちですが、それだけではありません。レモンを見て唾が出るのも、小遣いが欲しくてせっせと手伝いをするのも、兄弟が叱られているのを見て自分はそれを真似しなくなるのも、すべて学習です。生活の様々な場面に学習原理を当てはめることができます。日常的な例もたくさん挙げながら、楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 学習の基本原理や関連する概念について十分に理解し、説明できるようにする。その上で、学習研究の現在の動向や臨床への応用、日常生活との関連性について興味や理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、学習心理学とは	資料の見直し、豆テストの復習
	2	学習心理学の歴史と心理学の中での位置付け	〃
	3	〃	〃
	4	記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）	〃
	5	〃	〃
	6	記憶の定着（リハーサルと符号化）	〃
	7	記憶の忘却	〃
	8	生得的行動パターン	〃
9	馴化の基本原則	〃	
10	古典的条件づけの基本原則	〃	
11	〃	〃	
12	高次条件づけ	〃	
13	古典的条件づけの臨床への応用	〃	
14	〃	〃	
15	古典的条件づけにおける生物学的制約	〃	
16	テスト	〃	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。講義毎に資料を配布する。指定図書「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著、磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳、二瓶社		
	学びの手立て 学習心理学 I・II の順で履修することが望ましい。ほぼ毎回、講義終了時にその日の内容についての豆テストを行う。質問等は随時受け付けますので、積極的に参加し、理解を積み重ねていくように心がけてください。		
	評価 期末試験（1回）の結果によって評価する。試験は持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「学習心理学 II」では、I で取り上げなかったオペラント条件づけ、観察学習について学びます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習心理学Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎課程の変化である。本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけについて概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や関連する概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても取り上げる。	メッセージ 学習というと、イコール勉強と考えがちですが、それだけではありません。レモンを見て唾が出るのも、小遣いが欲しくてせっせと手伝いをするのも、兄弟が叱られているのを見て自分はそれを真似しなくなるのも、すべて学習です。生活の様々な場面に学習原理を当てはめることができます。日常的な例もたくさん挙げながら、楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 学習の基本原理や関連する概念について十分に理解し、説明できるようにする。その上で、学習研究の現在の動向や臨床への応用、日常生活との関連性について興味や理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、4タイプの学習形態（Ⅰの復習を含む）	資料の見直し
	2	オペラント条件づけの基本原理	資料の見直し、豆テストの復習
	3	〃	〃
	4	オペラント条件づけの生物学的制約	〃
	5	強化スケジュール	〃
	6	〃	〃
	7	回避と罰	〃
	8	〃	〃
	9	行動療法への応用	〃
	10	オペラント条件づけの理論と研究	〃
	11	〃	〃
	12	模倣理論	〃
	13	パーソナリティ形成と観察学習	〃
	14	恐怖症や認知的発達と観察学習	〃
	15	観察学習の臨床への応用	〃
	16	テスト	〃
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。講義毎に資料を配布する。指定図書「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著、磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳、二瓶社		
	学びの手立て		
	学習心理学Ⅰ・Ⅱの順で履修することが望ましいが、Ⅱから履修した場合も理解できるよう、随時、Ⅰのおさらいをしながら講義を進めていきます。ほぼ毎回、講義終了時にその日の内容についての豆テストを行います。質問等は随時受け付けますので、積極的に参加し、理解を積み重ねていくように心がけてください。		
	評価		
	期末試験（1回）の結果によって評価する。試験は持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日常生活の中で、我々の行動や思考が変化していく様を、学習原理に当てはめて考察してみる態度をさらに磨いていってください。講義内では取り上げることのできなかったテーマ（運動学習、概念形成など）についても自分で調べてみるとよい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 臨床心理学の知見を、学校臨床での実践と関連付けて学んでいきます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校臨床心理学	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	牛田 洋一	3年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい 学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や、学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していきます。	メッセージ 講義は真剣に、しかし（学校）臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。
	到達目標 現在の小・中学校の現状を知り、不登校、いじめ、緊急支援など問題行動に対する臨床心理学的解決手段を知る。また、同時にストレスマネジメントなどのプロアクティブな支援のあり方についても学ぶことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは	シラバスを確認すること
	2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）	配布資料の確認と別途文献での確認
	3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）	同上
	4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学	同上
	5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコロジストとスクールカウンセラー	同上
	6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）	同上
	7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）	同上
	8	学校臨床最前線から（1）いじめ	同上
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場	同上	
10	学校臨床最前線から（1）不登校	同上	
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為	同上	
12	学校での今日的課題（1）：発達障害	同上	
13	学校での今日的課題（2）：選択性緘黙	同上	
14	学校での今日的課題（3）：ストレスマネジメント	同上	
15	まとめ：学校臨床心理学とは	全ての配布資料の再確認	
16	試験	総合評価60点未満で不可	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義のなかで適宜資料を配布する。 講義のなかで適宜紹介する。また、特に指定はないが臨床心理学の入門書、あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧めます。		
	学びの手立て 履修の心構え： ・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。 ・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多数になることがあります。出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。		
	評価 基本的に試験の結果を重視します（90%）。その他レポート、授業への参加姿勢など（10%）を加味し総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学校臨床での心理学的知見の実践のための科目であるため、「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」、「教育心理学」「心理面接法」などの履修と理解が望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 2年次以降、専門科目を学ぶ上で身につけておくべき知識や技術、姿勢を学びます。主に、発表をする時に行うこと（文献検索、資料収集、レジュメやパワーポイントの作成、資料の印刷、PCやスクリーンの設置方法など）を体験しながら学びます	メッセージ 大学では自分の考えを深めたりそれを発表する機会がたくさんあります。本科目では発表に関わることを体験しながら学びます。また、発表するだけでなく、質問する力も身につけていきましょう。
	到達目標 ①個別に研究したことをまとめることができる。 ②発表のスキルを高めることができる。 ③質問のスキルを高めることができる ④その他、卒論発表会に出席して他の学生の発表の様子を見ることで2年次以降の専門分野の学びを具体化することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。
	学びの手立て ①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。出席も重視します。 ②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、講演会や研修に積極的に参加しましょう。
	評価 個別研究発表内容（50%）、演習参加状況（50%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきましょう。 ②関連科目：1年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、大学で学ぶ意義・文献の読み方などを学んでいきます。	メッセージ この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。
	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
	3	研究論文の読み方1	配付資料の精読
	4	研究論文の読み方2	配付資料の精読
	5	レポートを書く技術1	配付資料の精読
	6	レポートを書く技術2	配付資料の精読
	7	専門演習について1	
	8	専門演習について2	
	9	口頭発表の方法	
	10	グループ発表1	配付資料の精読
	11	グループ発表2	配付資料の精読
	12	グループ発表3	配付資料の精読
	13	グループ発表4	配付資料の精読
	14	グループ発表についての振り返り	
15	講義全体の振り返り		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。			
学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定している所以他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。			
評価 出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分ごとの福祉分野に興味があるかを認識してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、大学で学ぶ意義・文献の読み方などを学んでいきます。	メッセージ この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。
	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
	3	研究論文の読み方 1	配付資料の精読
	4	研究論文の読み方 2	配付資料の精読
	5	レポートを書く技術 1	配付資料の精読
	6	レポートを書く技術 2	配付資料の精読
	7	専門演習について 1	
	8	専門演習について 2	
	9	口頭発表の方法	
	10	グループ発表 1	配付資料の精読
	11	グループ発表 2	配付資料の精読
	12	グループ発表 3	配付資料の精読
	13	グループ発表 4	配付資料の精読
	14	グループ発表についての振り返り	
	15	講義全体の振り返り	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年 その他、必要に応じて、資料を紹介・配付する。		
	学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定している所以他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。 遅刻や欠席をしないこと。		
	評価 出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。 日々の講義態度も評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「専門演習 I」につながります。「専門演習 I」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」から引き続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。	1年次の後期は、前期で身につけたコミュニケーション技能とグループでの学習・討論の姿勢をいかして、社会福祉に関する基礎的な学習を行います。2年次の専門的な学習や大学生にとっての基本的なスキル（レポートの書き方など）にも関わるので、頑張ってください。
到達目標	学士力（ジェネリックスキル）としての「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）を身につける。聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力を身につけること。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。 ②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。 ③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。 ④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。 ⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。 ⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。 ⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。 <p>また、基礎演習では2年次の専門演習に向けたオリエンテーションや、桃原ゼミ2～4年次との親睦交流および情報交換の場をつくり、ゼミが大学生活の拠り所になるようなプログラムも予定している。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミは前期の「フレッシュマンセミナー」と同じクラスに登録すること。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。</p> <p>個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること（とくに2年次の専門演習に向けたオリエンテーションなどのスケジュールには注意すること）。</p> <p>必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。</p> <p>与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
評価	以下の構成で総合的に評価する。平常点（受講姿勢等）が20点、グループ学習および発表への取り組み姿勢が20点、グループおよび個人に課せられた課題の提出状況が60点という構成となる。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習 I</p> <p>次のステージ：</p> <p>1年次では社会福祉や周辺関連分野の学問について基礎的なことを学ぶ。その中から、自己の関心領域を絞り込み、2年次以降の専門領域を確立する。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年		

学びの準備	ねらい 人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。
	テキスト・参考文献・資料など それぞれの授業のなかで紹介していく。 それぞれの授業のなかで紹介していく。
	学びの手立て
	評価 ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討議する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりすることで、こうした基礎力を身につけることを目標とする。</p>	<p>学問・社会・人とのつながりを意識しながら、常に問題意識を持ち、周囲と協働して課題解決できる力を身につけてほしい。</p>
到達目標	<p>大学で学ぶための基礎的なスキルを身につける。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。 心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生との共同作業やディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期科目の「基礎演習B」を継続して履修することで、この科目で達成できた基礎力を、さらに高めてゆくことができる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、大学生活への適応を支援しながら、大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらで得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むということではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく方法を考え、それを実践する力を養うことが、大学での「学び」においては特に重要です。この能力は、どのような社会のどのような領域においても求められる大事な能力です。本演習では、その基礎を学びます。</p>
到達目標	<p>次に掲げる6つの目標に到達することを目指す。①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要かつ適確な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジュメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>履修ガイドを読む</td></tr> <tr><td>2</td><td>対人交流グループワーク</td><td>ライティング課題1</td></tr> <tr><td>3</td><td>文章の書き方/一日研修会オリエンテーション</td><td>ライティング課題2</td></tr> <tr><td>4</td><td>メールの使い方・書き方</td><td>ライティング課題3</td></tr> <tr><td>5</td><td>キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～</td><td>ライティング課題4</td></tr> <tr><td>6</td><td>青年期の対人関係と悩み</td><td>ライティング課題5</td></tr> <tr><td>7</td><td>レポートの書き方①</td><td>ミニレポート1</td></tr> <tr><td>8</td><td>図書館オリエンテーション</td><td>ライティング課題6</td></tr> <tr><td>9</td><td>レポートの書き方②</td><td>ミニレポート2</td></tr> <tr><td>10</td><td>心理学実験室見学ツアー</td><td>ライティング課題7</td></tr> <tr><td>11</td><td>調べ学習オリエンテーション</td><td>グループミーティング・文献検索</td></tr> <tr><td>12</td><td>職業調べ①</td><td>グループミーティング・資料作成</td></tr> <tr><td>13</td><td>職業調べ②</td><td>グループミーティング・資料作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>職業調べ学習発表会</td><td>グループミーティング振り返り</td></tr> <tr><td>15</td><td>心理学と職業オリエンテーション(合同ゼミ)</td><td>ミニレポート3</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む	2	対人交流グループワーク	ライティング課題1	3	文章の書き方/一日研修会オリエンテーション	ライティング課題2	4	メールの使い方・書き方	ライティング課題3	5	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題4	6	青年期の対人関係と悩み	ライティング課題5	7	レポートの書き方①	ミニレポート1	8	図書館オリエンテーション	ライティング課題6	9	レポートの書き方②	ミニレポート2	10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7	11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索	12	職業調べ①	グループミーティング・資料作成	13	職業調べ②	グループミーティング・資料作成	14	職業調べ学習発表会	グループミーティング振り返り	15	心理学と職業オリエンテーション(合同ゼミ)	ミニレポート3	16	予備日	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む																																																	
	2	対人交流グループワーク	ライティング課題1																																																	
	3	文章の書き方/一日研修会オリエンテーション	ライティング課題2																																																	
	4	メールの使い方・書き方	ライティング課題3																																																	
	5	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題4																																																	
	6	青年期の対人関係と悩み	ライティング課題5																																																	
	7	レポートの書き方①	ミニレポート1																																																	
	8	図書館オリエンテーション	ライティング課題6																																																	
	9	レポートの書き方②	ミニレポート2																																																	
	10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7																																																	
	11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索																																																	
	12	職業調べ①	グループミーティング・資料作成																																																	
13	職業調べ②	グループミーティング・資料作成																																																		
14	職業調べ学習発表会	グループミーティング振り返り																																																		
15	心理学と職業オリエンテーション(合同ゼミ)	ミニレポート3																																																		
16	予備日																																																			
テキスト・参考文献・資料など																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の2冊をあげておきます。 藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座一増版 北大路書房 溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ 																																																				
学びの手立て																																																				
<p>まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人攻撃ではなく、共通の課題解決のために建設的な意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすことが大事。傍観者にならず、関与すること。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。</p>																																																				
評価																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出欠状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 ・発表…30点 ・ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点 <p>以上を総合して評価する。ただし、演習科目なので、出欠状況を重視する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させてほしい。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつなげてほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	対人交流グループワーク	ライティング課題1
	3	文章の書き方/一日研修会オリエンテーション	ライティング課題2
	4	メールの使い方・書き方	ライティング課題3
	5	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題4
	6	青年期の対人関係と悩み	ライティング課題5
	7	レポートの書き方①	ミニレポート1
	8	図書館オリエンテーション	ライティング課題6
	9	レポートの書き方②	ミニレポート2
	10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7
	11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索
	12	調べ学習①	グループミーティング・資料作成
	13	調べ学習②	グループミーティング・資料作成
	14	職業調べ発表会	グループミーティング・振り返り
	15	心理学と職業オリエンテーション	ミニレポート3・振り返り課題
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しない 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	対人交流グループワーク	ライティング課題1
	3	文章の書き方/一日研修会オリエンテーション	ライティング課題2
	4	メールの使い方・書き方	ライティング課題3
	5	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題4
	6	青年期の対人関係と悩み	ライティング課題5
	7	レポートの書き方①	ミニレポート1
	8	図書館オリエンテーション	ライティング課題6
9	レポートの書き方②	ミニレポート2	
10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7	
11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索	
12	調べ学習①	グループミーティング・資料作成	
13	調べ学習②	グループミーティング・資料作成	
14	職業調べ発表会	グループミーティング振り返り	
15	心理学と職業オリエンテーション	ミニレポート3	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「人間のこころや行動を理解するための心理学の知識や技術を学ぶ」ための基礎的演習に相当する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前期で身につけた基本的な学習スキルを活用して、さらに学びを深めていくことを目的とする。後期は、心理学の理論・学術用語をわかりやすく解説したり、日常生活で体験する出来事を心理学の理論・学術用語で説明したりするような課題を通して、必要な情報を収集・検索する力、文献を読みこなす力、調べたことをまとめたり、発表したりする力、相手の意見を聞き討議する力などを育成する。	学問・社会・人とのつながりを大事にしながら、常に問題意識を持ち、周囲と協働して課題解決できる力を身につけてほしい。
到達目標	専門的な理論・知識・情報を収集・検索する力を身につける。 調べたことをわかりやすくまとめて説明できる力を身につける。 相手の意見を聞き、討議する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。 心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 適宜紹介する。
学びの手立て	
自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生との共同作業やディスカッションに積極的に参加すること。	
評価	
出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「基礎演習A」に引き続いて履修する科目である。 次年度は「心理学基礎演習A」・「心理学基礎演習B」を履修する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらで得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むということではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく方法を考え、それを実践する力を養うことが、大学での「学び」においては特に重要です。この能力は、どのような社会のどのような領域においても求められる大事な能力です。本演習では、その基礎を学びます。
到達目標	次に掲げる6つの目標に到達することを目指す。①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要かつ適確な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジュメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	グループディスカッションのワーク①	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り
	10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート
	11	レポートの書き方①	予習課題
	12	レポートの書き方②	復習課題
	13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート
	14	キャリア形成について考える	ミニレポート
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の3冊をあげておきます。 藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座一増版 北大路書房 溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人攻撃ではなく、共通の課題解決のために建設的な意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすことが大事。傍観者にならず、関与すること。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。</p>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。 ・遅刻や欠席等、出欠状況が特に重視されます。 ・ライティング課題など、きちんと課題をこなし、提出することが評価の前提となります。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させてほしい。 ・共通科目・心理学の各専門科目での学びにつなげてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	グループディスカッションのワーク①	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り
	10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート
	11	レポートの書き方①	予習課題
	12	レポートの書き方②	復習課題
	13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート
14	キャリア形成について考える	ミニレポート	
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、特に指定しない。 参考文献は、講義時に適宜紹介する。		
	学びの手立て 基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションで互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。		
	評価 平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>
到達目標	<p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	グループディスカッションのワーク①	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り
	10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート
	11	レポートの書き方①	予習課題
	12	レポートの書き方②	復習課題
	13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート
14	キャリア形成について考える	ミニレポート	
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜、紹介する。 参考図書は適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。</p>		
評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア・カウンセリング	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。	メッセージ 臨床心理士として働いている講師がキャリア・カウンセリングについて講義します。キャリア・カウンセリングの理論家を一人ずつ紹介するとともに、厚生労働省の施策や現状についても説明します。産業・組織心理臨床の話も織り交ぜながら講義します。
	到達目標 理論や実践を学ぶだけでなく、自己理解にもつながります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録・オリエンテーション	教科書の予習
	2	キャリア発達の各アプローチ	1章復習（再読）
	3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン／ライフ・スペース理論的アプローチ」	2章復習（再読）
	4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」	3章復習（再読）
	5	ジョン・クルンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」	4章復習（再読）
	6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」	5章復習（再読）
	7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」	6章復習（再読）
	8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジション」	7章復習（再読）
	9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」	8章復習（再読）
	10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」	9章復習（再読）
	11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」	10章復習（再読）
	12	キャリア教育（国の施策、文科省）	配布資料復習
	13	キャリア教育（国の施策、文科省）	配布資料復習
14	産業・組織心理臨床、産業カウンセリング	配布資料復習	
15	産業・組織心理臨床、産業カウンセリング、課題（ワーク）提出	配布資料復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】※要購入 渡辺 三枝子（2007）「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」ナカニシヤ出版 【参考文献】配布資料となります Richard N Bolles（2011）What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯・スマホ等の利用不可。意欲的な授業参加を求める。		
	評価 課題の提出必須。課題（ワーク）90%、平常点10%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学Ⅱ	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	email:kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>主として、心理学専攻の学生を対象とした授業で、教育の場面での心理学を考える。教育心理学Ⅰをよりも内容的に深められる授業としたい。子どもや青年期の心理や子どものやる気をどう高めるか、性格、子どもの社会性などについて考えたい。</p>	<p>可能な限り、様々のテーマについて、グループ、あるいは、全体での議論や活動が活発に行われるような授業としたい。受講者それぞれが積極的に意見の言える、参加型授業を目指したい。</p>
到達目標	<p>心理学を学んで、将来どの方面に進むかという進路を考えた場合、幅広い分野でどんなことが起こっているのかを知る必要がある。教育心理学は、教育場面での心理学を想定しているが、教育場面での情報もあらかじめ知っておくと、将来的に役立つと考えられる。この授業では、学校の実情を紹介しながら、教育現場でどうということが要求されているかを受講者に伝え、教育現場についての理解を深めさせたい。このような体験は、将来、教育分野に進んだ場合に、幅広い対応が可能になると思われる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、教育心理学とは？	
	2	子どもの自己中心性	子どもの自己中心性について考える
	3	青年期の心理：自分らしさがみえない	自分が自分らしいと思えるか考える
	4	言語能力の発達：言葉をどう習得するか	子どもの言語習得について考える
	5	性格：自分の長所は何か	自分の良さについて考えてみよう
	6	自己主張と性格	自分はいまうまく主張できているか
	7	犯罪と性格	犯罪と性格は関係があるか
8	コンピテンス	生きる力とは何か考えてみよう	
9	動機づけ：やる気を高める	効果的な叱り方はあるのだろうか	
10	社会性と社会的スキル	社会性はどう身につくか考えよう	
11	自己概念と自尊感情	自分をどう評価しているか考えよう	
12	障害児の心理と教育：インクルージョン	障害を持つ人をどう見えているか	
13	教育評価	評価は必要なのか考えてみよう	
14	教育相談の実際：カウンセリングマインド①	いろいろな面接法を考えよう	
15	教育相談の実際：カウンセリングマインド② まとめ	いろいろな面接法を考えよう	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献：1. 心理学からのアプローチ、東江成之、北王路書房、3090円 2. 教職に生かす教育心理—子どもと学校の今—、古川聡 編著、福村出版、2,200円 3. 教育心理学の最先端 自尊感情の育成と学校性格の充実、荒木紀幸 編著、あいら出版、2,700円 4. 教育評価 梶田叡一、有斐閣双書、2,100円 5. 障害児保育、藤永保 監修、萌文書林、1,900円 6. ベーシック現代心理学 成年の心理学、落合良行・伊藤裕子・齋藤誠一、有斐閣、3,000円</p>		
学びの手立て	<p>教育心理学は、教育場面での心理学と考えれば良いでしょう。心理学の分野であるが、半分は教育の分野でもあるので、教育現場での児童・生徒のことが話題にあがることが多いので、学校教育についての参考書に目をとっておくとよいでしょう。また、学習をさらに深めたいと思う学生は、学校現場での学習支援等に関わると、学校の実態が分かるようになるでしょう。実態が分かると、心理の専門家として、どのようなことが教育現場から要求されているか理解できると思われれます。</p>		
評価	<p>期末試験70%、授業内レポート20点、平常点10%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育現場に役立つ心理学としては、まず、発達心理学や臨床心理学が役立つと思われるので、その分野での学習を深めてほしいと思います。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシー1. および、3. 4. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 グループアプローチ	期別 後期	曜日・時限 月5	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい グループアプローチとは個人の心理的治療・教育・成長・人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、グループの機能・過程・ダイナミクス・特性などを用いる各種技法の総称とされている。この講義では、主に対人親密化過程の促進、シャイネスや対人緊張の改善など、コミュニケーションの問題に焦点を当て、実技を通して体験的に学ぶ	メッセージ 様々なグループ活動を実際に体験しながら学ぶ講義です。参加者それぞれにとって学びのある講義です。初対面の人とのかかわりが苦手な人、人見知りを改善したい人はもちろんのこと、自分らしさとは何か考えたい人、グループを動かす工夫や技法を学びたい人も大歓迎です。
	到達目標 ①集団中での‘自分らしい自分’について考える。②自分の‘新しい引き出し’を見つける。 ③コミュニケーション能力が高まる。④人見知り、シャイ、対人緊張が和らぐ。 ⑤参加メンバーとの交流が深まる。⑥集団に関わる支援の技法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/グループアプローチとは	配布資料の復習
	2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成
	3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成
	4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成
	5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成
	6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成
	7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成
	8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成
	9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成
	10	ロールプレイングを用いた技法①	リフレクションシートの作成
	11	ロールプレイングを用いた技法②	リフレクションシートの作成
	12	ロールプレイングを用いた技法③	リフレクションシートの作成
	13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①	リフレクションシートの作成
	14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②	リフレクションシートの作成
15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③	リフレクションシートの作成	
16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）	最終レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では使用しない。 適宜、プリント資料を配布する。 参考文献；サイコドラマの技法 高良聖 岩崎学術出版		
	学びの手立て 実習が中心となるため、毎回出席することが受講の条件です。 急激に自分を変化させる必要はありません。常に明るく、元気に、活動的にふるまう必要もありません。自分のペースで人とかわりながら、自分自身を見つめながら参加することが大切です。 自分の気持ちに湧き上がってきたことに対し、良い悪いで評価せず、それはそれとして受け入れることが大切です。		
	評価 体験型の講義であるため、まずは実習で行うプログラムに参加することが重要となる。プログラムにおける他者の関わりのある方については、評価の対象としない。どのようにかかわったのかという目に見える結果より、プログラムを通して何を感じ、何を考えたのかを重視する。毎回のプログラムでの体験の振り返りシートおよび、講義終了後の感想レポートを総合して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 それぞれのゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動、オープンキャンパスや、専攻の一日研修会などグループ活動を企画・運営に参加し、学んだことを実践に生かせる。自己理解を深めるため就活に活かせる。
-------	---

科目基本情報	科目名 健康スポーツ科学論	期別 前期	曜日・時限 水1	単位 2
	担当者 笹澤 吉明	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ sasazawa@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。	メッセージ 本講義は、スポーツ科学や健康科学を学び、健康増進や自己実現に向けた準備に繋がる講義内容である。特に社会福祉を学ぶ学生や学校の教員を目指す学生にとって、利用者や児童生徒の健康管理に直結する内容であるため、非常に意義深い講義である。また、運動生理学やトレーニング論にも触れるので、トップアスリートを目指す学生にとっても有益な知見が学べる講義でもある。
	到達目標 健康の概念、健康管理、生活習慣病の予防、肥満、栄養学、体力、トレーニング、スポーツ障害、熱中症、女性や高齢者の運動など、幅広いスポーツ科学や健康科学の学習内容が身に付く。医学入門的な知識も身に付くことから、自身の健康管理や、スポーツ指導者、教員、社会福祉実践者にとって必要な基礎的内容の習得ができる。健康問題やスポーツ事象について時事にあった内容も取り上げるので、新聞やその他の情報を考察しながら学ぶことによって、より実践的な健康スポーツ科学の知識と知恵が獲得できるであろう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学の必要性と意義）	テキストの復習
	2	健康とは①（健康の背景）	テキストの予習・復習
	3	健康とは②（新健康フロンティア戦略、健康日本21）	テキストの予習・復習
	4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏）	テキストの予習・復習
	5	適切な生活習慣②（メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）	テキストの予習・復習
	6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）	テキストの予習・復習
	7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価）	テキストの予習・復習
	8	健康・体力の維持増進②（運動の仕組み、トレーニング）	テキストの予習・復習
	9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類）	テキストの予習・復習
	10	競技スポーツのトレーニング②（専門的トレーニングの要素及び方法）	テキストの予習・復習
	11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し）	テキストの予習・復習
	12	栄養と健康・スポーツ②（健康のための食事と健康）	テキストの予習・復習
	13	運動・スポーツの安全性	テキストの予習・復習
	14	運動・スポーツによる外傷、障害	テキストの予習・復習
	15	女性・高齢者の健康とスポーツ	テキストの予習・復習
16	期末テスト	テスト勉強	

テキスト・参考文献・資料など
健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院。参考文献は・鈴木正成、スポーツの栄養・食事学、同文書院・鈴木正成、勝利への新スポーツ栄養学、チクマ秀版社・McArdle, W.D.ら著、田口貞善ら訳、運動生理学-エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス、杏林書院・日本睡眠学会編、睡眠学ハンドブック、朝倉書店・その他は授業で適宜紹介

学びの手立て
出席を講義の初めに口頭でとるので遅れないように。返事は挙手とハイというはっきりした声をお願いします。スポーツや健康に関わる講義なので関連した書籍等は読んでおくこと。また、学んだ内容を自身の生活や練習・トレーニングに結び付け良く考察すること。過去問題集をテスト前には配布しますが、大事な知見がその内容です。テストのためだけでなく、自身の生活のためにしっかりと身に付けてください。必ず役立つ知見ばかりです。

評価
出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する。期末試験70%、レポート20%、授業態度10%で評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
「スポーツ演習（笹澤担当）」とは深く関連しています。この講義はスポーツ科学の応用、運動生理学・生化学、健康の三本柱である運動・栄養・休養の詳細な科学も学べますので関連付けて学ぶことをお勧めします。また、「サッカーI」「サッカーII」の体育実技では、講義で学んだ理論を背景に、サッカーを通して楽しく実践し、体力の向上や健康増進の実践に役立てます。合わせてお勧めします。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	権利擁護と成年後見制度	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島田 考人	2年	s.naruto1028@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者に対する権利擁護のための各種制度の理解。 ・具体的事例における各種制度の利用。 	<p>超高齢社会の進展に伴い、高齢者に対する権利擁護の必要性は年々増加しています。そこで、高齢者に対する権利擁護のための具体的法制度及びその利用方法等について学びます。具体的制度の中には、今後、保健・福祉の道へ進むか否かにかかわらず、社会人として身に付けておくべき知識が多く含まれています。弁護士としての実務経験を踏まえながら、抽象論ではなく具体的な授業を行います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者に対する権利擁護のための各種制度の概要が説明できる。 ・具体的事例を通して、高齢者、障害者の権利擁護の方法を説明できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	憲法の基本原理の理解	
	3	民法の理解 1	
	4	民法の理解 2	
	5	民法の理解 3	
	6	行政法の理解	
	7	成年後見制度の理解	
8	虐待防止法の理解		
9	生活保護法の理解		
10	財産管理・身上監護の理解		
11	知的・精神障害者と成年後見		
12	社会保険制度の理解		
13	家庭裁判所の実務		
14	社会福祉士・精神保健福祉士と成年後見制度		
15	まとめ		
16	期末試験		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	特に指定なし。毎回レジメを用意する。	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・既履修科目及び社会生活との関連性を意識すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠及び期末試験で評価する。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術療法	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習 レポート作成
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
	15	まとめ	復習
	16	期末試験	テスト勉強
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。適宜レジュメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。他学生の作品や意見を軽んじることなく大切に受け止め合う態度を望みます。 ・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。 ・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。 ・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けるようなことはしないでください。		
	評価 授業への参加姿勢・実習時のミニレポート（50%）、課題レポート・期末試験（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関心を持った技法についてより詳しく調べてみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術療法	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習 レポート作成
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
	15	まとめ	復習
	16	期末試験	テスト勉強
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。適宜レジュメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。他学生の作品や意見を軽んじることなく大切に受け止め合う態度を望みます。 ・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。 ・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。 ・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けるようなことはしないでください。		
	評価 授業への参加姿勢・実習時のミニレポート（50%）、課題レポート・期末試験（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関心を持った技法についてより詳しく調べてみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代社会と福祉	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳(16) 岩田 直子(16)	2年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>科目の位置付け：国家資格関連科目ではありますが、社会福祉士、精神保健福祉士、教職の諸課程を履修する学生ばかりでなく、広く現代社会における福祉のあり方を学びたい学生にとっても有意義な科目です。</p> <p>授業の意義：多分野にわたる専門科目のベースとなる知識を得る内容です。合わせて、現代社会を分析する横断的視野を養います。</p>	<p>そもそも社会福祉はどのように生まれてどのように展開したのか、社会の中で社会福祉はどのような役割を担ってきたのか、これからどのようなことが期待されているのか等々、社会福祉を学ぶ学生が抱く疑問を学術的に掘り下げながら解き明かします。社会福祉専攻の専門科目として学ぶ学生にとっても広く現代社会を福祉の側面から学びたい学生にとっても視野を広げる時間になります。</p>
到達目標	<p>人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法を総合的に理解することができる。具体的には、①福祉制度・政策の理念、②福祉の原理をめぐる理論、哲学、倫理、③社会福祉の歴史的展開、④利用者本位の支援および総合的・包括的にサービスを提供するための専門知識、⑤サービス提供者間並びに地域社会資源とのネットワーク形成を実現する技術について学びを深め理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	福祉政策の理念と概念	
	3	福祉制度と福祉政策の関係	
	4	福祉政策と政治の関係	
	5	福祉の原理をめぐる理論	
	6	福祉の原理をめぐる哲学と倫理	
	7	前近代社会と福祉①日本	
	8	前近代社会と福祉②英国を中心に	
	9	近代社会と福祉①日本	
	10	近代社会と福祉②米英北欧を中心に	
	11	現代社会と福祉①戦後日本	
	12	現代社会と福祉②社会福祉基礎構造改革以降	
	13	需要とニーズの概念	
	14	資源の概念	
	15	前期末試験	
	16	今日の社会問題の特徴	
	17	福祉政策の歴史的変遷と現代的課題	
	18	今日の福祉政策の国際比較～北欧、英国、米国を中心に～	
	19	福祉政策における計画策定の意義と課題	
	20	福祉政策遂行における政府・市場・市民の役割	
	21	福祉政策の手法・政策決定過程・政策評価	
	22	福祉サービス供給の特徴～政府、企業、NPO、ボランティア～	
	23	協働による生活課題の解決に向けて①県内の事例紹介	
	24	協働による生活課題の解決に向けて②県外の事例紹介	
	25	福祉供給過程、利用過程の課題	
	26	沖縄社会の生活課題と社会福祉の役割	
	27	途上国の生活課題と社会福祉の役割	
	28	関連分野①住宅政策	
	29	関連分野②教育政策	
30	関連分野③労働政策		
31	後期末試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 最新版：社会福祉士養成講座編集委員会（編）『現代社会と福祉（新・社会福祉士養成講座）』 中央法規出版 その他、講義時に随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て ①履修の心構え：受講にあたり、遅刻をしない、私語を慎む、課題提出の締め切りを守る。 ②学びを深めるために：受講にあたっては広く現代社会が抱える諸問題に関心を持ち、新聞や関連文献を積極的に読みましょう。講義以外にも講演会やシンポジウム、研究会等に積極的に参加しましょう。</p>
	<p>評価 前期末・後期末試験（40％）、前期・後期レポート（40％）、授業態度および参加状況（リアクションペーパー等）（20％）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 ①関連科目：社会福祉専攻専門科目 ②次のステージ：関連科目を積極的に履修し、社会福祉学の多岐にわたる学術的成果を学ぶ。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学および臨床心理学への関心を高め、その知識と技法を社会生活に応用する力を身につけるための実践的専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	行動療法	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。	メッセージ 基本的に板書したものをノートに取る方法で講義は進められる。書かれたものを受動的に写すだけでなく、理解しながら必要なことを補筆すること。
	到達目標 行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について理解すること。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	行動療法とは
	2	行動療法の歴史
	3	行動療法の基礎となる学習理論
	4	行動療法の技法①系統的脱感作法
	5	事例
	6	行動療法の技法②リラクゼーション法
	7	行動療法の技法③暴露反応妨害法
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例	
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング	
10	認知行動療法とは、	
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み	
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録	
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、他	
14	アルコール依存の認知行動療法①	
15	アルコール依存の認知行動療法②	
16	テスト	
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など	
	参考文献： 行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二共編 培風館	
	学びの手立て	
	評価 成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習心理学、臨床心理学、
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者に対する支援と介護保険制度	通年	火5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉 (16) 保良 昌徳 (16)	2年	前期はyasura@okiu.ac.jp、後期はi.ashitomi@okiu.ac.jpへ連絡する。	

学びの準備	ねらい 本科目は前期／高齢者の特性を中心とした講義を展開し、後期は介護保険制度を中心とした講義を展開する。なお、介護保険制度については「社会保障」でも概説する	メッセージ 高齢社会において、必須な知識である老人福祉制度、高齢者の特性及び介護保険制度などを、身近なものとして学んで欲しい。
	到達目標 老人福祉法、介護保険制度について説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17	高齢社会を知る①	高齢社会とは何か
	18	高齢社会を知る②	高齢化率・倍化年数とは何か
	19	高齢社会を知る③	高齢社会がもたらす問題とは
	20	介護保険制度の基礎①	介護保険制度の理念を調べる
	21	介護保険制度の基礎②	介護保険制度とは何か
	22	介護保険制度の基礎③	介護保険制度の仕組み
	23	介護保険サービス①	在宅サービス種類
	24	介護保険サービス②	施設サービス種類
	25	介護保険サービス③	地域密着型サービスとは
	26	介護保険サービス④	地域包括ケアシステムとは①
	27	介護保険サービス⑤	地域包括ケアシステムとは②
	28	高齢者に関わるその他の制度①	高齢者虐待防止法について
	29	高齢者に関わるその他の制度②	
30	後期振り返り		
31	期末試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>新・社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」を指定教科書とする。購入の時期については第一回目のオリエンテーションにてアナウンスする。 参考文献等については、講義の中で随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>新聞等マスメディアに関心を持ち、特に高齢者に関する記事については熟読することが望ましい。</p>
	<p>評価</p> <p>原則として、前期・後期あるいは通年を通して講義の3分の1以上の欠席があった場合には、たとえ客観試験の成績が60点以上あった場合でも不可とする。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会保障制度を理解する科目としてより身近なものである。その他の関連科目には社会保障、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度などがある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニティ心理学	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山入端 津由	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科学研究法	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	1年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士の資格を取得した後で実際に働く上で必要となるレポート作成力を身につける。</p>	<p>本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に学術論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。この講義で今後の大学での学びや職業人として必要な技能を身につけてほしい。</p>
到達目標	<p>本講義では、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。その中で以下の能力を身につけることを目標とする。</p> <p>①学術論文の読解能力 ②自らの関心を社会科学と結びつけて捉え、問いをたてて論文執筆を企画する能力 ③収集した情報を整理し、それらの情報に基づいて合理的に自らの問いの答えを導き出していく能力</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（これから何を学ぶのか）	
	2	社会福祉とこの授業の関わりについて講義	配布された論文を読む宿題あり。
	3	宿題に出した論文の解説	
	4	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか	4～8週にかけて宿題あり。
	5	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方	
	6	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた	
	7	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか	
8	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール		
9	文献調査～レポート作成の作業		
10	文献調査～レポート作成の作業		
11	文献調査～レポート作成の作業		
12	文献調査～レポート作成の作業		
13	文献調査～レポート作成の作業		
14	文献調査～レポート作成の作業		
15	授業の最後に期末レポート提出		
16	期末レポートの返却・講評		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 適宜、配布する。</p> <p>【参考文献】 今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。 など</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 講義中の私語は、周囲に座っている学生の学びを妨害するので控えること。また、授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。</p> <p>②学びを深めるために インターネットで検索するだけでは確かな思考につながる情報は得られません。図書館で学術書や新聞に触れる習慣をつけてください。</p>		
評価	<p>課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①関連科目 本講義で習得する能力は社会科学系の専門科目を学ぶための基礎となる。</p> <p>②次のステージ 自分の身の回りの事柄を、文献資料に基づいて論理的に考えてみよう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会学」と聞くと、「社会科」を思い起こす者が少なくない。しかし、社会学は社会科とは異なる知識や思考作業が必要となる。自身が生きる日常世界とそれを取り巻く社会との関係に対し疑問や関心をもち、社会的な視点でその仕組みを解明する学問である。「わたしはこの世の中でどう生き／生かされているのか」という問いから、「自己」「他者」「自明性」を考えるための知識や方法を身につける。	「社会学は難しい」という言葉をよく耳にします。ところが「でも社会学は面白い」という言葉も聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。
到達目標	「社会的行為」とは何か、「社会構造」とは何かを理解する。また、その「行為」と「構造」の関係性を理解すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学概論Ⅰへの招待	「行為」と「構造」について考える
2	社会学の歴史－デュルケム、ジンメル、ヴェーバーを中心に	基本的な視点の系譜を考える	
3	自我とアイデンティティの社会学①－欲望と社会	「欲望の模倣」の例を考える	
4	自我とアイデンティティの社会学②－フロイトの自我論とミードの自我／客我論	欲望、自我、社会の関係を考える	
5	自我とアイデンティティの社会学③－パーソナリティと行為の複数文脈性	アイデンティティの流動性を考える	
6	現代社会を考える学習課題①	概論Ⅰ前半のポイントと課題提示	
7	演技と語彙の社会性①－ゴフマンの演技論	行為の演技的な側面を考える	
8	演技と語彙の社会性②－公共空間と親密空間	公共性と親密性の演技を考える	
9	演技と語彙の社会性③－文化資本としてのパフォーマンス	演技の文化的側面について考える	
10	行為と構造の関係①－記号、シンボルの関係	記号とシンボルの動きを考える	
11	行為と構造の関係②－痕跡と代補の暴力性と可能性	「脱構築」について考える	
12	現代社会を考える学習課題②	脱構築の具体的な課題提示	
13	「権力」から読み解く現代社会学①－ヴェーバーの権力論	「権力」概念の基本を考える	
14	「権力」から読み解く現代社会学②－フーコーの権力論	従順な主体としての規律化を考える	
15	社会学概論Ⅰの総括と期末課題	後半のまとめと前半との連続性	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。	
学びの手立て	リアクション・ペーパーは随時内容を確認し、平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
評価	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」①～②の提出と内容評価が各15点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会学概論Ⅱ 概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点をを用いて、具体的な社会現象を解説する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点、概念、理論を基本的な道具として、現代社会の諸相を解説する内容となる。とくに日常に見受けられる具体的な問題を提起していく。</p>	<p>「社会学は難しい」という言葉をよく耳にします。ところが「でも社会学は面白い」という言葉も聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。</p>
	到達目標	
	<p>概論Ⅰで身につけた「社会的行為」「社会構造」に関する理論と概念、「行為」と「構造」の関係性を捉える社会的な視点を用いて、現代社会における具体的な諸問題の分析力、読解力を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学概論Ⅱへの招待	社会学の基本的な視点を考える
	2	社会学概論Ⅰのおさらい	概論Ⅰのプリントのふりかえり
	3	現代社会とメディア①ーエンコーディング/デコーディング	メディアと社会との関係を考える
	4	現代社会とメディア②ーステレオタイプと擬似環境、アジェンダ・セッティング、沈黙の螺旋	社会学のメディア理論を考える
	5	現代社会を考える学習課題①	身近なメディア情報の分析
	6	モノと消費をめぐる社会的探求①ー消費概念の変遷	消費の捉え方の変遷を考察する
	7	モノと消費をめぐる社会的探求②ーボードリヤールの消費概念とヨコナラビの消費	消費、自己、社会の関係を考える
8	ジェンダーとセクシュアリティ①ージェンダー概念の変遷	ジェンダー理論の変化を考える	
9	ジェンダーとセクシュアリティ②ー一家父長制と性別役割分業	戦後日本のジェンダー問題を考える	
10	ジェンダーとセクシュアリティ③ーメディアから読み解く戦後日本のジェンダー規範	身近な事柄からジェンダーを考える	
11	現代社会を考える学習課題②	ジェンダーに関する分析の実践	
12	現代社会と差別①ー差別論の基礎	差別の基本的な問題を考える	
13	現代社会と差別②ーネットウヨクとヘイトスピーチ	排外的言動と自己との関係を考える	
14	現代社会と差別③ー傷つきやすさと抑圧移譲	差別を支える 行為と構造を考える	
15	概論Ⅱのポイントと総括	概論Ⅰとの連続性を確認する作業	
16	予備日	期末課題レポートの作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	<p>リアクション・ペーパーは随時内容を確認し、平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさながら書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。</p>		
	評価		
	<p>受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」①～②の提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：都市社会学、家族社会学、臨床社会学 社会学概論で学んだ基本的な概念、理論、視点を身につけて、社会学の諸領域に視野を広げる。</p>

科目基本情報	科目名 社会心理学 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 泊 真児	前期	火 5	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見、理論、研究方法、著名な研究者などについて概説し、「心理学検定」に合格できるような基礎知識の習得を目指す。取り上げるテーマは、自己、対人認知、態度、対人行動、友情と恋愛等を予定している。なるべく身近な心理現象を題材に、これらを社会心理学的視座から読み解くことを通して、科学的・客観的なものの見方を養うのが狙いである。	メッセージ ・社会心理学の研究テーマは普段の生活の中にあります。よって、日常のちょっとした疑問、気になること、不思議に思うこと等をメモに書き留めるなどして、講義の中で質問をしたり、リアクションペーパーに書いたりして、話題を共有しましょう。卒論の研究テーマも、こうした素朴な疑問から発展することがありますから、意識的に身近なテーマ探しをしてもらいたいと思います。
	到達目標 ①自己、対人関係など、社会心理学の一部の研究領域について、科学的な研究知見を基に理解し、人に説明することができる。 ②社会心理学分野の古典的かつ代表的な研究知見について理解し、その内容を簡潔に要約することができる。 ③人間の心理や行動を理解するにあたり、社会心理学的なもの見方、特に「状況要因」の持つ影響力について十分に考慮することができる。 ④社会心理学で用いられる様々な研究手法やデータ解析法について、基礎的な理解ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）
	2	自己とは何か？～自己過程の心理学(1)～
	3	自己を知るとは？～自己過程の心理学(2)～
	4	他者を知るとは？～対人認知の心理学(1)～
	5	他者を知るプロセスとは？～対人認知の心理学(2)～
	6	原因を求める心～帰属過程の心理学～
	7	態度と態度変容(1)～態度の概念・測定法・理論を中心に～
	8	態度と態度変容(2)～依頼・勧誘・説得の社会心理学～
	9	対人行動の動機と対人魅力とは？～対人行動の心理学(1)～
	10	対人関係の形成・維持に関わる要因とは？～対人行動の心理学(2)～
	11	対人関係の葛藤・ストレスコーピング～対人行動の心理学(3)～
	12	友情・恋愛・友人関係とは？～友人関係の心理学～
	13	人を好きになる心とは？：恋愛関係の進展を中心に～恋愛の心理学(1)～
	14	人を好きになる心とは？：恋愛関係の崩壊を中心に～恋愛の心理学(2)～
	15	全講義内容の振り返りとまとめ・試験案内
16	学期末試験（予定）	
	時間外学習の内容	
	シラバス・授業契約書の理解	
	今回の復習と次回の予習・課題	
	同上	
	同上	
	同上	
	同上	
	同上	
	同上	
	同上	
	同上	
	同上	
	全講義内容のまとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進めていきます。参考文献は以下の通りです。 (1)池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子 2010 社会心理学 有斐閣 (2)岡本浩一 1986 社会心理学ショート・ショート 新曜社 (3)遠藤由美 編著 2010 いちばんはじめに読む心理学の本②：社会心理学－社会で生きる人のいとなみを探る－ ミネルヴァ書房
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で紹介された研究例について、なぜそのようなテーマや方法で研究したのだろうかとか、自分だったらこういう風に研究してみたい等の発想を膨らませてみて下さい。 図書館に所蔵されている本や社会心理学系の学術論文（学会誌、紀要など）を積極的に検索し、どのような研究テーマがあるか調べ、実際に読んでみて下さい。社会心理学という分野をもっと身近に感じるはずですよ。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価は、平常点で45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 平常点は、授業内でのワークへの取り組み、意見表明や質問、リアクションペーパー等により評価します。 学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て不可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：次年度に開講される「社会心理学Ⅱ」を履修すると、社会心理学分野全般を学習することができる。その他、心理の専門科目として開講される「コミュニティ心理学」や「犯罪心理学」等を履修すると、社会心理学の方法論や知見が活かされている分野についての理解が深まるであろう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査の企画と設計	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	2年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。</p>	<p>社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義ではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点を置いて講義を行う。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を論文にまとめてもらう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。</p> <p>②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「社会調査の企画と設計」への招待	
2	標本抽出（サンプリング）の理論		
3	サンプリングの種類		
4	サンプリングの実際		
5	質的調査の考え方		
6	質的調査の種類		
7	質的調査の諸注意		
8	ドキュメント分析と観察法	宿題あり	
9	生活史法とライフコース分析	宿題あり	
10	面接とインタビューの技法	宿題あり	
11	調査実施の際の諸注意		
12	個別研究テーマの提出		
13	調査の企画と設計の発表・提出		
14	調査実施の効果とふりかえり		
15	本講義のまとめと課題提出		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>原則的に講義形式で進めるが、調査票作成および調査プロトコル作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、および活動には積極的に参加すること。</p>		
評価	<p>レポート、試験、グループ参加状況、出席状況などを総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 本講義で身につけた調査法の技能を、ぜひ各自の課題研究に生かしてほしい。</p> <p>(2) 次のステージ 各自の関心に即して収集したデータに基づいた考察を行い、具体的な支援や行動につなげられるようになることである。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査の基礎	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	1年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では量的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。</p>	<p>社会調査の基礎を学習する。本講義は社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心にアンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成などプロトコールの作成から調査実施まで総合的に講義する。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①社会調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。</p> <p>②自らの関心を量的調査によって明らかにする手法を身につけること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会調査とは？—その意義、目的—	
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク		
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—		
4	事前の情報収集の方法1		
5	事前の情報収集の方法2		
6	社会調査の基本的な道具		
7	研究テーマの設定法		
8	調査の企画、設計		
9	概念、変数、仮説の活用		
10	量的調査—調査票作成の事前準備		
11	質問文作成の基本ルール		
12	選択肢作成の基本ルール		
13	調査に関する様々な誤差1		
14	調査に関する様々な誤差2		
15	本講義のまとめ		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが好ましい。</p>		
評価	<p>レポート、試験、受講態度、出席状況などを総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 「社会調査の企画と設計」</p> <p>(2) 次のステージ 本講義で学ぶ量的調査に加え、数字では表せない深いデータを得る質的調査の方法にも関心を持ってほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	土 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。	統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	同上
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	同上
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	同上
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	同上
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	同上
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	同上
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	同上
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	同上
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（偏相関係数等）	同上
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定等）	同上
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定等）	同上
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラーレーション1）	同上	
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラーレーション2）	同上	
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	同上	
テキスト・参考文献・資料など	下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。 廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年		
学びの手立て	①履修の心構え 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
評価	平常点：50%、期末課題：50% 平常点：出席状況、受講態度、その他（小テスト等） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。
-------	---

科目基本情報	科目名 社会統計学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 土2	単位 2
	担当者 -宮平 隆央	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。講義ではサンプルデータで実際に多変量解析の作業を行い理解を深めていきます。	メッセージ 社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っています。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介して多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと考えています、
	到達目標 1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている 2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる 3. 統計解析等、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリット等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる	

学びの実際	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	同上
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	同上
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	同上
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	同上
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	同上
	8	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」1	同上
	9	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」2	同上
	10	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」3	同上
	11	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」4	同上
	12	似たものをまとめる「クラスター分析」1	同上
	13	似たものをまとめる「クラスター分析」2	同上
	14	似たものをまとめる「クラスター分析」3	同上
	15		同上
	16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	同上
	テキスト・参考文献・資料など 下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。 主テキスト 涌井良幸、涌井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社、2011		
	学びの手立て ①履修の心構え 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
	評価 平常点：50%、期末課題：50% 平常点：出席状況、受講態度、その他（小テスト等） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉学特講C	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-Hiroko H. Dodge	3年	講義の修了後または5414 (C. Wilcox研究室)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①世界・日本・沖縄県の高齢化や健康等について学ぶ ②健康に関する統計資料の読み方等について学ぶ ③統計法の基本を学ぶ	健康や疾病、高齢者問題、統計学についての事前学習を希望する。
到達目標	①健康の概念、高齢者の健康について理解する ②生命表を通して世界、日本、沖縄の状況を理解する ③疫学の基本を理解する ④病理の各種因子について理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	長寿とは、健康とは	講義の趣旨の理解
	2	生命表の読み方、はかりかた 1	講義の中で指示する
	3	生命表の読み方、はかりかた 2	同上
	4	沖縄と世界	同上
	5	疫学の基本、治験の基本：よみかた・はかり方	同上
	6	有病率と発症率：認知h その場合	同上
	7	病理と診断	同上
8	危険因子、環境因子、予備能力	同上	
9	最近の研究動向	同上	
10	沖縄と世界	同上	
11	統計学の基本	同上	
12	生物統計学の基本 1	同上	
13	生物統計学の基本 2	同上	
14	仮設の立て方	同上	
15	まとめ、ふり返り	講義のふり返り・まとめ	
16			
テキスト・参考文献・資料など	①適宜、資料を配布する。 ②必要に応じて参考文献を提示する。		
学びの手立て	講義のテーマである健康や疫学、統計法等について自分なりに関心を持ち事前学習すること		
評価	以下の内容をもって評価する。 ①出欠状況30%、②レポート30%、③講義の理解度40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会老年学、疫学、統計学などについて、さらに深めることを期待する
-------	---

科目基本情報	科目名 社会福祉の基礎	期別	曜日・時限	単位
		前期	水4	2
	担当者 桃原 (3) 安次富 (3) クレイグ (2) 知名 (2) 保良 (2) 岩田 (2) 比嘉 (2)	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	本講義は7名の教員で担当するが、問い合わせは専攻主任の桃原まで連絡すること。	

学びの準備	ねらい 社会福祉学の基礎を様々な専門領域から学ぶ。	メッセージ 本科目は1年次の必修科目です。絶対に履修しなければならない科目です。講義は、社会福祉専攻教員が2～3コマずつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示します。将来、自分がどういった領域に進むべきか、また2年次でどの専門演習ゼミを希望するのか参考にして下さい。
	到達目標 社会福祉学の基礎および各専門領域の特色を理解し、2年～4年次で履修する専門演習ゼミの選択の参考にする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回目の講義オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義オリエンテーションは必ず出席するようにしてください。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しません。各教員独自の資料を配付提供する予定です。担当教員が講義の中で随時紹介します。
	学びの手立て 7名の教員が担当するそれぞれの講義内容によって異なります。その注意事項等を必ず聞き漏らさないように気をつけて下さい。
	評価 平常点 (講義への出席状況や受講態度など) および各教員の課題 (レポート等) の提出をもって総合評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I および社会福祉士資格、精神保健福祉士資格関連科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障	通年	月5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富郁哉（18回）、比嘉邦子（14回）	2年	授業終了後及びi.ashitomi@okiu.ac.jpで受け付ける。	

学びの準備	ねらい 本講義のねらいは、まず、社会保障とは何かを理解することにある。また、社会保障制度の概念や体系、少子高齢化を背景とした我が国における社会保障制度の課題を学ぶ。さらに、医療保険制度、年金保険制度、労働保険制度、介護保険制度について知識を深める。	メッセージ 学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、自分達の生活上生じた問題の解決手段として活用できるように知識を深めてもらいたい。
	到達目標 一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人の一生とどのように関わるかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。行動目標：①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・社会保障とは	ナショナルミニマム
	2	社会保障制度の課題・概念	社会保障制度とは何か・定義
	3	社会保障制度の体系	社会保険・社会扶助
	4	社会保障給付のしくみ	社会保障給付費・年次推移
	5	社会保障給付費の分類	社会保障給付費3分類
	6	医療保険制度①	医療保険制度とは
	7	医療保険制度②	社会保険方式・公的医療保険
	8	医療保険制度③	公的医療保険制度の体系
	9	医療保険制度④	国民健康保険
	10	医療保険制度⑤	医療保険料の徴収
	11	医療保険制度⑥	現物給付と現金給付
	12	医療保険制度⑦	出産育児一時金
	13	医療保険制度⑧	療養の給付範囲
	14	医療保険制度⑨	保険外併用療養費
	15	医療保険制度⑩	高額療養費制度
	16	前期試験	
	17	年金保険制度①	年金制度沿革
	18	年金保険制度②	年金保険制度の概要・体系
	19	年金保険制度③	国民年金制度
	20	年金保険制度④	厚生年金制度
	21	年金保険制度⑤	その他の年金制度
	22	年金制度の管理運営体制	年金制度の課題
	23	年金制度振り返り	
	24	労働保険制度①	労働災害補償制度
	25	労働保険制度②	労働災害補償制度
	26	労働保険制度③	雇用保険制度
	27	労働保険制度④	雇用保険制度
	28	労働保険制度⑤	雇用保険制度
	29	労災保険・雇用保険の管理運営体制	労働保険制度の課題
30	労働保険制度振り返り		
31	後期試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 中央法規出版新社会福祉士養成講座「社会保障」及び各教員からの配付資料</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 履修の心構え：本科目は前期「医療保険制度」を安次富が担当し、後期を「労働保険制度」「年金制度」を比嘉が担当する。両制度共に相談援助の知識としては当然ではあるが、身近な生活問題に密着した制度であるとしてとらえて学習に取り組んでもらいたい。学びを深めるために：日頃から新聞、テレビニュース、雑誌などでとりあげられる社会保障について積極的に関心を示し知識として蓄えてもらいたい。</p>
	<p>評価 前期評価、後期評価として別々に評価し、最終的に総合評価とする。評価は、客観試験（前期2から3回実施・後期は1回）80%、受講態度等（出席状況・講義中の私語・遅刻）20%とする。出席回数が全講義回数の3分の2に満たない場合には、学則第14条に則り評価を「不可」とする。また、出席票の代筆を確認した場合には、試験点数、出席状況に関わらず「不可」とする。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 （1）関連科目：本科目は社会保障として開講するが、その他の社会保障制度と関連づけて学んで欲しい。「高齢者の生活支援と介護保険制度」「保健医療サービス」「障害者福祉」など （2）次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題（病気になったら、職場でけがしたら、失業したらなど）の解決手段に役立てる。相談援助業務には必須の知識である。</p>

※ポリシーとの関連性 本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる知識を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会理論と社会システム	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	1年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、人と社会の関係をどうとらえるかを学び、家庭や地域といった身の周りの社会システムや社会問題を社会学の視点から捉えなおすことである。人々の関係性や生活に対する理解を深め、現代の社会問題がどのようなものなのかを知っておくことは社会福祉に関わるための基礎となるので、ぜひ社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に答えを見つけるつもりで受講してほしい。</p>	<p>本講義では、関連する資料や参考文献の内容を盛り込みながら、人々の関係性や生活世界、現代社会の抱える社会問題の捉え方について解説し、社会学の視点への理解を深める。不定期にコメントカードの提出を、期末に課題レポートを行って授業に対する理解を確認する。</p>
到達目標	<p>①社会学において人と社会の関係がどうとらえられてきたのかを学ぶ。 ②①で日常的な視野にとどまらない学術的な視点を学んだことを通して、家庭や地域といった身の周りの社会システムや社会問題について複眼的に捉え、各自の考察を深める。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学とはなにか：これから学ぶこと	
	2	生活の理解：生活のとらえ方	
	3	生活の理解：家族	
	4	生活の理解：地域	
	5	人と社会の関係：社会的役割	
	6	人と社会の関係：社会的行為	
	7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯	
	8	中間テスト（小論文）	
	9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方	
	10	社会問題の理解：日本社会と社会問題（1）	
	11	社会問題の理解：日本社会と社会問題（2）	
	12	社会問題の理解：共生社会と権利	
	13	現代社会の理解：社会のグローバル化と社会問題	
14	現代社会の理解：社会変動（1）		
15	現代社会の理解：社会変動（2）、期末レポート提出		
16	期末レポートの返却・講評		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版、2010年。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 講義中の私語は、周囲に座っている学生の学びを妨害するので控えること。 中間テスト、期末レポートとも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。 ②学びを深めるために 高校社会科の復習をしておく、理解が深まりやすい。</p>		
評価	<p>中間テストおよび期末レポートのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 (1) 関連科目「社会学概論」などの理論を学ぶ科目 (2) 次のステージ 本講義で身につけた知識や考察は社会福祉士の資格を取得するためのみならず、ディプロマ・ポリシーに掲げられた「高度化かつ多様化する国際社会」を生きる上での基礎となるので、ぜひ自らの社会生活を捉えなおす契機としてほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害学	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>障害学は、従来の医療・社会福祉等の視点に基づく「障害」「障害観」等を障害当事者の視点から問い直し、新たな視点を追究しています。換言すると、障害独自の視点の確立を指向し、また、文化としての障害、障害者として生きる価値に着目しています。講義ではこの障害学研究成果を紹介しながら共に障害に対する新たな視点を考えていきたいと思います。</p>	<p>本講義では、「障害」「障害観」「障害者の経験」等を、経済、文化、政治、ジェンダー、アートなど多角的な視点から分析します。障害者福祉とは異なる視点を学んだり、広く社会を見つめなおしたりする機会になります。障害に関してあたりまえだと思っていることが実はあたりまえではないことがわかります。</p>
到達目標	<p>障害、障害観、障害の経験等を多角的に研究してきた障害学の学術的成果を理解することができます。優性思想、能力主義といった社会の価値観を障害の視点から問い直す思考を養うことができます。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション ～障害学とは</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>障害学誕生の歴史的背景</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>経済学の視点から障害を問い直す</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>障害疑似体験を考える</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>優生思想と優生政策～出生前診断の議論を中心に～</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>ろう文化～言語的少数者の主張～</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>肢体不自由者から健常者文明への問いかけ～青い芝の会の主張～</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>知的障害者のセルフアドボカシー～ビープルファーストの主張～</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>精神科医療の歴史と障害観</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>障害女性の複合的差別</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>障害と開発～途上国の障害者の生活状況～</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>地域での暮らしを実現するために</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>障害とアート</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>メディアが描く障害者像</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>介助者/支援者とは</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション ～障害学とは		2	障害学誕生の歴史的背景		3	経済学の視点から障害を問い直す		4	障害疑似体験を考える		5	優生思想と優生政策～出生前診断の議論を中心に～		6	ろう文化～言語的少数者の主張～		7	肢体不自由者から健常者文明への問いかけ～青い芝の会の主張～		8	知的障害者のセルフアドボカシー～ビープルファーストの主張～		9	精神科医療の歴史と障害観		10	障害女性の複合的差別		11	障害と開発～途上国の障害者の生活状況～		12	地域での暮らしを実現するために		13	障害とアート		14	メディアが描く障害者像		15	介助者/支援者とは		16	まとめ		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション ～障害学とは																																																				
2	障害学誕生の歴史的背景																																																				
3	経済学の視点から障害を問い直す																																																				
4	障害疑似体験を考える																																																				
5	優生思想と優生政策～出生前診断の議論を中心に～																																																				
6	ろう文化～言語的少数者の主張～																																																				
7	肢体不自由者から健常者文明への問いかけ～青い芝の会の主張～																																																				
8	知的障害者のセルフアドボカシー～ビープルファーストの主張～																																																				
9	精神科医療の歴史と障害観																																																				
10	障害女性の複合的差別																																																				
11	障害と開発～途上国の障害者の生活状況～																																																				
12	地域での暮らしを実現するために																																																				
13	障害とアート																																																				
14	メディアが描く障害者像																																																				
15	介助者/支援者とは																																																				
16	まとめ																																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>主要参考文献（教科書の指定はありません） 石川准、長瀬修編著（1999）『障害学への招待～社会、文化、ディスアビリティ』明石書店。 倉本智明、長瀬修編著（2000）『障害学を語る』エンパワメント研究所。 立岩真也他（2004）『否定されるいのちからの問い～脳性マヒ者として生きて：横田弘対談集～』現代書館。 横塚晃一（2007）『母よ！殺すな』生活書院。</p>																																																				
学びの手立て	<p>①履修の心構え：障害学は障害者福祉論の延長線上にあると勘違いする学生がいますが、異なる視点であることを理解した上で受講しましょう。レポートの内容を重視して評価することを理解して受講しましょう。 ②学びを深めるために：毎回参考文献を紹介しします。基本、大学図書館に整備されていますので積極的に手にとって読むようにしましょう。</p>																																																				
評価	<p>レポート60%、感想文等40%</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①関連科目：社会福祉専門科目にこだわらず、他学科の科目や共通科目の中から社会の有り様を問い直す科目を積極的に履修しましょう。 ②次のステージ：卒業論文をはじめ研究活動につなげることを期待します。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 社会福祉従事者が総合的包括的に、また、中核として活躍するため
に求められる障害者福祉分野の理念、理論、知識、を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>障害の定義並びに障害者の生活状況を理解した上で、ニーズの解決に向けた社会福祉の取り組みを学びます。主に制度政策の取り組みを学びますが、障害者福祉に関する理念、定義を含めて包括的に基礎知識を得ることを目的としています。</p>	<p>本科目は、障害者福祉が目指す社会像を多角的に学びます。また、障害者の生活実態を踏まえた上でニーズ解決に向けたサービスについて理解を深めるための知識を学びます。資格に関係なく広く障害者福祉を学びたい学生も歓迎します。</p>
到達目標	<p>①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解することができる。 ②障害者福祉制度の発展過程について理解することができる。 ③相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～講義概要および障害者福祉のキーワード	科目の理解
	2	障害の定義、障害の社会モデル/医学モデル	講義振り返り、参考文献参照
	3	障害者福祉制度の発展過程①国内の動向	講義振り返り、参考文献参照
	4	障害者福祉制度の発展過程②国際的動向	講義振り返り、参考文献参照
	5	障害者基本法、障害者基本計画について	講義振り返り、参考文献参照
	6	障害者総合支援法①概要	講義振り返り、参考文献参照
	7	障害者総合支援法②組織及び団体の役割と実際	講義振り返り、参考文献参照
	8	障害者総合支援法③多職種連携、ネットワーキングと実際	中間試験に向けて準備
	9	中間試験	中間試験出題問題の振り返り
	10	障害者福祉施策の実際①教育	講義振り返り、参考文献参照
	11	障害者福祉施策の実際②労働	講義振り返り、参考文献参照
	12	障害者福祉施策の実際③バリアフリー/ユニバーサルデザイン	講義振り返り、参考文献参照
	13	障害者福祉施策の実際④権利擁護、虐待防止	講義振り返り、参考文献参照
14	障害者福祉施策の実際⑤地域生活	講義振り返り、参考文献参照	
15	まとめ	期末試験に向けて準備	
16	前期末試験	期末試験出題問題の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>最新版 新・社会福祉士養成講座〈14〉 障害者に対する支援と障害者自立支援制度（中央法規） その他、参考文献、資料は講義時間に随時紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心がまえ：本科目は主に障害の定義、障害者福祉の歴史、今日の障害者福祉関連法律法を学びます。手話や点字、その他生活支援技術は他の科目で学びましょう。事例検討についても他の科目で学びましょう。 ②学びを深めるために：毎回参考文献を紹介します。基本、大学図書館に整備されていますので積極的に手にとって読むようにしましょう。</p>		
評価	<p>中間試験（40%）、期末試験（40%）、レポート（20%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①関連科目：国家資格関連科目を履修しましょう。 ②次のステージ：実習や研究活動に活用しましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	神経心理学	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>神経心理学とは、ひとの認知、感情、行動の過程（機能：ソフト面）とその基礎となる脳（構造：ハード面）を関連づけて理解することを通して、ひとの認知、感情、行動（心理的過程）の理解をより深めていこうとする学問分野である。本講では、心理学と脳科学の双方の知見を対応させ、こころと脳の関連について理解を深め、神経心理学的視点を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <p>①神経心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、神経心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②神経心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、神経心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	<p>「こころ」と「脳」は、自分にとって最も身近であるが、自分では分かりにくい存在です。近年、脳に関する話題は豊富ですが、こころと脳についてまだわからないことも多いのです。神経心理学の知識を理解し、まだわからないことを知り、こころと脳について理解を深めることを楽しみつつ、神経心理学の視点からこころと脳について意識的に考える視点を身につけてほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/こころと脳に関するイメージ	シラバス等の内容理解/今回の復習
	2	脳の外観を知る	今回の復習/1章の予習
	3	神経系の構造と構成細胞：テキスト①1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
	4	脳の進化と発達：テキスト①2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
	5	感覚のしくみ：テキスト①3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
	6	運動のしくみ：テキスト①4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
	7	記憶と可塑性：テキスト①5章	5章の復習/観察課題
	8	脳について想像してみよう①	ワークの完成/観察課題
	9	脳について想像してみよう②	ワーク完成/観察課題/②1章予習
	10	ヒトの脳の構造と機能：テキスト②1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
	11	脳を見る：テキスト②2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
	12	言語思考のしくみ：テキスト②3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
	13	情動と感情：テキスト②4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
	14	脳の病気：テキスト②5章	5章の復習/観察課題/全体の復習
15	もう一度、こころと脳/まとめ	全体の復習/期末課題	
16	予備日		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：下記、テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し持参すること。 理化学研究所脳科学総合研究センター（2011）. 脳科学の教科書 神経編（岩波ジュニア新書）岩波書店 理化学研究所脳科学総合研究センター（2013）. 脳科学の教科書 こころ編（岩波ジュニア新書）岩波書店 参考文献：必要に応じて資料を配布する。その他、以下の①、②の参考図書を参照するとよい。 ①森岡周（2010）. 脳を学ぶ―「ひと」がわかる生物学 協同医書出版社 ②池谷裕二（2015）. 大人のための図鑑―脳と心のしくみ 新星出版社</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習、復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク（課題について考える）を行います。「ひとのこころと脳」について「よく読み、よく観察し、よく考える」ことに積極的に取り組む気持ちで受講してください。 他学科、他専攻学生の受講に際しては、共有科目の心理学Ⅰ、Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>平常点（出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50% 期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学概論、知覚心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、学習心理学Ⅰ・Ⅱ、認知心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。 次のステージ：神経心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、神経心理学で学んだ知識と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学概論	通年	水4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃 (16) 赤嶺遼太郎 (16)	1年	前期mshino@okiu.ac.jp/後期ptt1003@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>心理学の歴史、研究法、各分野の重要研究、理論を学び心理学の全体像をつかむ。前期は「歴史、研究法、感覚・知覚、記憶、学習、思考、知能、動機づけ、情動、心と脳」、後期は「発達、人格（パーソナリティ）、社会、臨床」の各分野の基礎知識を学ぶ。心理学の基礎知識をもちいて人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点（人の心と行動を科学的に分析的に理解する）を身につける。</p>	<p>心理学的視点で人や社会、自分自身について考える面白さをお伝え出来るよう、古典的な心理学から最近のトピックまで幅広く紹介しながら学習を進めていきます。関心のある分野を見つけて、自分で調べたり、周りの人に説明したり、知識や技術を積極的に使うことでより学ぶことができます。</p>
	到達目標	
	<p>①心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、心理学の各分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる ②心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	予習法（2度読み・用語調べ）理解
	2	心理学の歴史と研究法1	歴史・研究法の資料を予習
	3	心理学の歴史と研究法2	感覚・知覚の資料を予習
	4	感覚・知覚1	感覚・知覚の資料を予習
	5	感覚・知覚2	記憶の資料を予習
	6	記憶1	記憶の資料を予習
	7	記憶2	記憶の資料を予習
	8	学習1	記憶の資料を予習
	9	学習2	思考と創造性の資料を予習
	10	思考と創造性1	思考と創造性の資料を予習
	11	思考と創造性2、知能	動機づけ・情動の資料を予習
	12	動機づけ・情動1	動機づけ・情動の資料を予習
	13	動機づけ・情動2	こころと脳の資料を予習
	14	こころと脳1	こころと脳の資料を予習
	15	こころと脳2	期末課題によるこれまでの復習
	16		
	17	後期オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	18	発達心理学1	用語調べ
	19	発達心理学2	用語調べ
	20	発達心理学3	用語調べ
	21	パーソナリティ心理学1	用語調べ
	22	パーソナリティ心理学2	用語調べ
	23	パーソナリティ心理学3	用語調べ
	24	中間テスト・心理学最近のトピック	これまでの復習
	25	社会心理学1	用語調べ
	26	社会心理学2	用語調べ
	27	社会心理学3	用語調べ
	28	臨床心理学1	用語調べ
	29	臨床心理学2	用語調べ
30	臨床心理学3	用語調べ	
31	基礎心理学と臨床心理学	用語調べ	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。授業時に必要な資料を配布する ・参考図書 鹿取広人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）（2015） 心理学第〔5版〕 東京大学出版会 無藤隆（2004） 心理学 有斐閣 重野純（編）（2012） 心理学〔改訂版〕 キーワードコレクション 新曜社 田島信元（1989） 心理学キーワード有斐閣双書 有斐閣
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修に関する大学の規則を理解しておいて下さい。講義中は周囲の迷惑にならないよう配慮して下さい。 ・人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する学生は教職用クラスを受講してください。 <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で適宜参考図書を紹介します。関心のある分野の参考図書を積極的に読みましょう。 ・心理学の専門的な参考文献（資料や図書）を読んで理解するには、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は、ワークシート（20%）、ポートフォリオ（30%）、期末課題レポート（30%）、振り返りレポート（20%）の合計で評価。 ・後期は、中間テスト（30点満点）、期末テスト（70点満点）の合計点で評価。 ・前期、後期とも、課題やテストを用いて、上記の到達目標の①～④の達成度を評価する。 ・前期と後期の点数を平均して、通年の評価とする。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：心理学史、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、生理心理学、神経心理学、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、人格心理学、臨床心理学Ⅰ・Ⅱなど、心理学概論の知識と結びつけながら学ぼう。</p> <p>(2) 次のステージ：心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続し、各専門科目を学ぼう。加えて共通科目を幅広く学び人や社会について多面的に捉え考える力をつけよう。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力と身につけるための、実験、観察、調査などの実証的方法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学基礎演習A	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた実習を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法について理解する。	メッセージ 毎回の実験とレポート作成に真摯に取り組んでほしい。
	到達目標 実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	全体オリエンテーション
	2	実験法オリエンテーション
	3	実習①-1 所属ゼミでの実習内容の説明と実施
	4	実習①-2 結果のまとめと解釈
	5	実習①-3 レポートの書き方と考察：解説編
	6	合同ゼミ：文献検索・表記の仕方
	7	実習①-4 レポートの書き方と考察：演習編
	8	実習①-5 レポートの添削フィードバック
		時間外学習の内容
		実験実施・データ収集
		レポート作成
		文献検索
		レポート作成
		レポート作成
		実験実施・データ収集
		レポート作成
		レポート作成
		実験実施・データ収集
		レポート作成
		レポート作成
		グループ課題作成
	テキスト・参考文献・資料など 参考図書：心理学実験指導研究会編（1985）「実験とテスト＝心理学の基礎」培風館 日本心理学会 認定心理士資格認定委員会（編）（2015）「認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎」金子書房 小西真司・西口利文編（2007）「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版	
	学びの手立て 疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。	
	評価 出席状況と提出されたレポートによって評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学研究法、心理統計学
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」基礎演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学基礎演習A	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学における実験的研究の基礎を習得する。 心理学の基礎実験・実習を体験し、得られたデータを分析・考察して実験報告書(レポート)に毎回まとめることを通して、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。	メッセージ 心理学研究の理論や技法を学ぶ上で、中核をなす科目である。 実験実習、データ分析、レポート作成が繰り返されるので、しっかりと学んでほしい。
	到達目標 心理学における実験的研究の基礎を習得する。 心理学の実験的技法・実証的手法の体系的知識を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション 心理学研究法とは	配布資料復習 課題レポート
	2	実験法オリエンテーション	配布資料復習 課題レポート
	3	実習①-1 行動観察 実習内容の説明と実施	実習実施
	4	実習①-2 行動観察 結果のまとめと解釈	結果分析
	5	実習①-3 行動観察 レポートの書き方と考察(解説)	レポート作成
	6	文献検索 表記の仕方 (図書館にて実習)	文献検索課題の提出
	7	実習①-4 行動観察 レポートの書き方と考察(演習)	レポート自己添削 修正作業
	8	実習①-5 行動観察 レポートの添削フィードバック	最終レポート作成
	9	実習②-1 ミュラーリエル錯視実験 実習内容の説明	実習実施
	10	実習②-2 ミュラーリエル錯視実験 実験実施	結果分析
	11	実習②-3 ミュラーリエル錯視実験 結果のまとめと解釈	レポート作成
	12	実習③-1 パーソナルスペース 実習内容の説明	実習実施
	13	実習③-2 パーソナルスペース 実験実施	結果分析
	14	実習③-3 パーソナルスペース 結果のまとめと解釈	レポート作成
15	質問紙法オリエンテーション	配布資料復習 課題レポート	
16	総合まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 西口利文・松浦均(2008)「心理学実験法・レポートの書き方」ナカニシヤ出版 松浦均・西口利文(2008)「観察法・調査的面接法の進め方」ナカニシヤ出版 中澤潤(1997)「心理学マニュアル 観察法」北大路書房		
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲や態度を持ち続けてほしい。 実験実習に参加し、収集したデータを分析・考察してレポートを書く作業が毎回続くので、遅刻・欠席は厳禁である。		
	評価 毎実習ごとにレポートを必ず提出すること(全3回)。出席点とレポートで100%の評価を行う。実習を体験し指定期限内に毎回レポートを提出した場合に限って、成績評価対象となる。レポートは指導教員の指示に沿って科学論文の要件(各課題の目的・方法・結果・考察・引用文献の各項目に分けて記述)を満たすこと。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 前年度の「基礎演習A」・「基礎演習B」に引き続いて履修する必修科目である。 関連科目として「心理統計学基礎」・「心理学研究法I」を履修することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学基礎演習A	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的な心理学研究方法を用いた幾つかの実習を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法について理解する。 。具体的には、実験法、観察法、質問紙法の各研究方法から6つのテーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を作成する。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところについて心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身に付けましょう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	シラバス、実施要項を理解する
	2	実験法とは（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実習①-1 実験テーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	4	実習①-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	5	実習①-3 レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	6	文献検索・表記の仕方	文献検索課題/レポートの草稿作成
	7	実習①-4：レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	8	実習①-5：レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	9	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	10	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	11	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	本レポートの作成
	12	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	13	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	14	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	本レポートの作成
15	質問紙調査法オリエンテーション/実習③レポート提出	資料理解・グループミーティング	
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60% ※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。心理学基礎演習Aで学んだことを。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた幾つかの実習を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法について理解する。具体的には、実験法、観察法、質問紙法の各研究方法から6つのテーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を作成する。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところについて心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身に付けましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる</p>		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション	シラバス、実施要項を理解する	
	2	実験法オリエンテーション	配布資料の理解・課題へ取り組み	
	3	実習①-1：所属ゼミで実習内容の説明と実施	実験・実習実施・データ収集	
	4	実習①-2：結果のまとめと解釈	データの整理・結果の読み取り	
	5	実習①-3：レポートの書き方と考察（解説）	レポートの草稿作成	
	6	合同ゼミ：文献検索・表記の仕方（図書館ツアー）	文献検索課題/レポートの草稿作成	
	7	実習①-4：レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成	
	8	実習①-5：レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成	
	9	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集	
	10	実習②-2	データの整理・結果の読み取り	
	11	実習②-3	本レポートの作成	
	12	実習③-1/実習②レポート提出	実験・実習実施・データ収集	
	13	実習③-2	データの整理・結果の読み取り	
	14	実習③-3	本レポートの作成	
	15	質問紙法オリエンテーション（合同ゼミ）/実習③レポート提出	資料理解・グループミーティング	
16	予備日			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

学びの実践	評価
	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理統計学基礎基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。</p> <p>次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。心理学基礎演習Aで学んだことを。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	泊 真児	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた幾つかの実習を体験し、心理学のもの見方、考え方、研究方法について理解する。具体的には、実験法、観察法、質問紙法の各研究方法から6つのテーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を作成する。これらの実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけるのがねらいである。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	シラバス、実施要項を理解する
	2	実験法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実習①-1 実験テーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	4	実習①-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	5	実習①-3 レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	6	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	7	実習①-4：レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	8	実習①-5：レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	9	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	10	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	11	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	本レポートの作成
	12	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	13	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	14	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	本レポートの作成
15	質問紙調査法オリエンテーション/実習③レポート提出	資料理解・グループミーティング	
16	3・4年（卒論）所属ゼミのオリエンテーション		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60% ※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた幾つかの実習を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法について理解する。 具体的には、実験法、観察法、質問紙法の各研究方法から6つのテーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を作成する。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところについて心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/心理学研究法とはオリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実験法とは（合同ゼミ）実習④-1：質問紙の構成・留意点	配布資料の理解/関連文献の熟読
	3	実習実習④-2：質問紙の内容の検討1 グループミーティング/質問紙検討①-1	実験テーマの説明
	4	実習④-3：質問紙の内容の検討2	Gミーティング/質問紙検討
	5	実習④-4：質問紙の作成	Gミーティング/質問紙作成
	6	実習④-5：質問紙法の実施と入力	Gミーティング/実査と入力
	7	実習④-6：質問紙法のデータ整理と分析	Gミーティング/データ整理・分析
	8	実習④-7：質問紙法の結果のまとめと考察	Gミーティング/発表準備
	9	実習④-8：質問紙法のポスター発表会	Gミーティング/振り返り
	10	実習⑤-1/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習⑤-2	データの整理・結果の読み取り
	12	実習⑤-3	本レポートの作成
	13	実習⑥-1/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習⑥-2	データの整理・結果の読み取り
15	実習⑥-3	本レポートの作成/振り返り	
16	予備日/実習⑥レポート提出		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎基礎、心理学研究法Iを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法IIを履修すること。心理学基礎演習Aで学んだことをその他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	泊 真児	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的な心理学研究方法を用いた幾つかの実習を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法について理解する。具体的には、実験法、観察法、質問紙法の各研究方法から6つのテーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を作成する。これらの実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけるのがねらいである。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/心理学研究法とはオリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	質問紙法とは？（合同ゼミ）実習④-1：質問紙の構成・留意点	配布資料の理解/関連文献の熟読
	3	実習実習④-2：質問紙の内容の検討1・グループミーティング/質問紙検討①-1	研究計画書の改訂
	4	実習④-3：質問紙の内容の検討2	グループミーティング/質問紙検討
	5	実習④-4：質問紙の作成	グループミーティング/質問紙作成
	6	実習④-5：質問紙法の実施とデータ入力	グループミーティング/実査と入力
	7	実習④-6：質問紙法のデータ整理と分析	Gミーティング/データ整理・分析
	8	実習④-7：質問紙法の結果のまとめと考察	グループミーティング/発表準備
	9	実習④-8：質問紙法のポスター発表会	グループミーティング/振り返り
	10	実習⑤-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習⑤-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習⑤-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成
	13	実習⑥-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習⑥-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習⑥-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り	
16	予備日/実習⑥レポート提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

学びの実践	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60% <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。</p> <p>その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学基礎演習B	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的な心理学研究方法を用いた幾つかの実習を体験し、心理学のものの方、考え方、研究方法について理解する。具体的には、実験法、観察法、質問紙法の各研究方法から6つのテーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を作成する。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところについて心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身に付けましょう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1：質問紙の構成・留意点	配布資料の理解/関連文献の熟読
	3	実習④-2：質問紙の内容の検討1	グループミーティング/質問紙検討
	4	実習④-3：質問紙の内容の検討2	Gミーティング/質問紙検討
	5	実習④-4：質問紙の作成	Gミーティング/質問紙作成
	6	実習④-5：質問紙法の実施と入力	Gグループミーティング/実査と入力
	7	実習④-6：質問紙法のデータ整理と分析	Gミーティング/データ整理・分析
	8	実習④-7：質問紙法の結果のまとめと考察	Gミーティング/発表準備
	9	実習④-8：質問紙法のポスター発表会	Gミーティング/振り返り
	10	実習⑤-1/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習⑤-2	データの整理・結果の読み取り
	12	実習⑤-3	本レポートの作成
	13	実習⑥-1/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習⑥-2	データの整理・結果の読み取り
15	実習⑥-3	本レポートの作成/振り返り	
16	予備日/実習⑥レポート提出		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSAの支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。 ・心理学基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用すること。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎基礎、心理学研究法Ⅰ、心理学研究法Ⅱを履修すること。</p> <p>次へのステージ：心理学専門演習ⅠA・B、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すること。心理学基礎演習A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p> <p>授業外での研究室訪問は早めにスタートするとよい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学基礎演習B	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>前期に引き続き、心理学における実験的研究の基礎を習得する。心理学の基礎実験・実習を経験し、得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通して、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。さらに、研究成果のプレゼンテーション（ポスター作成・研究発表）の実習も行う。</p> <p>到達目標</p> <p>心理学における実験的研究の基礎を習得する。実験的技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。心理学研究発表の仕方を学ぶ。</p>	<p>心理学研究法の理論や技法を学ぶ上で、中核をなす科目である。実験実習、データ分析、レポート作成が繰り返されるので、しっかりと学んでほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	3・4年ゼミ説明会	ゼミ訪問の準備
	2	実習④-1 質問紙法 質問紙の構成・留意点	配布資料の復習
	3	実習④-2 質問紙法 質問紙の内容の検討（1）	変数の追加
	4	実習④-3 質問紙法 質問紙の内容の検討（2）	項目の作成
	5	実習④-4 質問紙法 質問紙の作成	実施計画作成
	6	実習④-5 質問紙法 質問紙法の実施と入力	データ入力
	7	実習④-6 質問紙法 質問紙法のデータ入力と分析	データ分析
	8	実習④-7 質問紙法 質問紙法の結果のまとめと考察	考察とポスター作成
	9	実習④-8 質問紙法 質問紙法のポスター発表会	発表会準備 振り返り
	10	実習⑤-1 訓練の転移 実習内容の説明	実験実施
	11	実習⑤-2 訓練の転移 実験実施	結果分析
	12	実習⑤-3 訓練の転移 結果のまとめと解釈	レポート作成
	13	実習⑥-1 視覚的短期記憶 実習内容の説明	実験実施
	14	実習⑥-2 視覚的短期記憶 実験実施	結果分析
15	実習⑥-3 視覚的短期記憶 結果のまとめと解釈	レポート作成	
16	総合まとめ		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>西口利文・松浦均（2008）「心理学実験法・レポートの書き方」ナカニシヤ出版 鎌原雅彦（1998）「心理学マニュアル 質問紙法」北大路書房</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けてほしい。実験実習に参加し、収集したデータの分析・考察を行って毎回レポートを書くという作業が続くので、遅刻や欠席は厳禁である。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>毎実習ごとにレポートを必ず提出すること（全3回）。出席点とレポートで100%の評価を行う。実習を体験し指定期限内に毎回レポートを提出した場合に限って、成績評価対象となる。レポートは指導教員の指示に沿って科学論文の要件（各課題の目的・方法・結果・考察・引用文献の各項目に分けて記述）を満たすこと。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>前期開講「心理学基礎演習A」に引き続き履修する必修科目である。関連科目として「心理統計学基礎」・「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的方法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学基礎演習B	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた実習を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法について理解する。	メッセージ グループで行う場合は、全員が積極的に意見を出し合うこと。
	到達目標 実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	3, 4年ゼミ合同説明会	
	2	実習④-1 質問紙の構成・留意点	質問紙の構成
	3	実習④-2 質問紙の内容の検討1	
	4	実習④-3 質問紙の内容の検討2	
	5	実習④-4 質問紙の作成	質問紙作成
	6	実習④-5 質問紙法の実施と入力	質問紙法実施・データ収集・入力
	7	実習④-6 質問紙法のデータ整理と分析	
	8	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察	レポート作成 ポスター作成
	9	実習④-8 質問紙法のポスター発表会	
	10	実習⑤-1	実験実施・データ収集
	11	実習⑤-2	
	12	実習⑤-3	レポート作成
	13	実習⑥-1	実験実施・データ収集
	14	実習⑥-2	
15	実習⑥-3	レポート作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など 参考図書：心理学実験指導研究会編 (1985) 「実験とテスト＝心理学の基礎」培風館 日本心理学会 認定心理士資格認定委員会 (編) (2015) 「認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎」金子書房 小西真司・西口利文編 (2007) 「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版			
学びの手立て 疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。			
評価 出席状況と提出されたレポートによって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学研究方法、心理統計学、心理検査法、心理学専門演習Ⅰ、Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学研究法 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講では、心理学の分野において実証的研究をしていく方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法についての概要と具体的な技法について理解していく。まず、基本的な研究の展開の仕方、研究論文の様式、研究倫理について理解する。続いて、実験法、観察法、調査法、3種の研究法に関する知識と技術とそれぞれの特徴を理解する。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところについて心理学的研究法に従って収集したデータからこそ、ひとのこころについての客観的で科学的な理解が得られること知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的に・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる</p> <p>②実験、観察、調査、などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけることができる</p> <p>③実験、観察、調査、などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスなどの理解/次回の予習
	2	心理学研究法とは何か	今回の復習/次回の予習
	3	研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理①	今回の復習/次回の予習
	4	研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理②	今回の復習/次回の予習
	5	実験法①	今回の復習/次回の予習
	6	実験法②	今回の復習/次回の予習
	7	実験法③	今回の復習/次回の予習
	8	準実験と単一事例実験①	今回の復習/次回の予習
	9	準実験と単一事例実験②	今回の復習/次回の予習
	10	質的調査－観察法①	今回の復習/次回の予習
	11	質的調査－観察法②	今回の復習/次回の予習
	12	質的調査－観察③	今回の復習/次回の予習
	13	量的調査－質問紙法①	今回の復習/次回の予習
	14	量的調査－質問紙法②	今回の復習/次回の予習
15	量的調査－質問紙法③	今回の復習/全体の復習/期末課題	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ 有斐閣</p> <p>②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会</p> <p>③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク(課題について考える)を行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。 心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外での課題やワークに取り組みながら、研究法で学んだこと、心理学基礎演習Aでの実験・実習を結びつけて、実際にやってみて学ぶようにしてください。 他学科、他専攻学生の受講に際しては、必ず初回の授業で担当教員に相談をしてください。
--------	--

評価	<p>平常点(出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況)…50%</p> <p>期末課題(ポートフォリオとレポート課題の内容)…50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習Aを履修すること。</p> <p>次のステージ：引き続き、心理学基礎演習B、心理学研究法IIを履修する。心理学研究法Iで学んだことを、心理学基礎演習B、心理学専門演習IA・B、心理学専門演習IIA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学研究法Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講は、心理学研究法Ⅰで学んだ各種研究法に関する基礎知識をベースに、心理学の研究の方法、手続き、研究の進め方などについてさらに理解を深め、心理学の研究力を身につけることを目的とする。主要な心理学研究法から、調査法(質問紙法)、調査的面接法、検査法についての概要と具体的な技法について理解を深める。続いて各研究法に関する知識と技術とそれぞれの特徴を理解する。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところについて心理学的研究法に従って収集したデータからこそ、ひとのこころについての客観的で科学的な理解が得られること知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる</p> <p>②実験、観察、調査、などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけることができる</p> <p>③質問紙法、面接法実験、検査法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認	シラバスなどの理解/次回の予習
	2	リサーチクエストの設定：研究する意味・研究テーマの選定・設定	今回の復習/次回の予習
	3	文献レビュー	今回の復習/次回の予習
	4	研究デザインと研究計画の策定(研究デザインと研究計画の吟味と具体化)	今回の復習/次回の予習
	5	研究デザインに基づく研究の実施	今回の復習/次回の予習
	6	研究成果の報告①	今回の復習/次回の予習
	7	研究成果の報告②・研究のつながりと楽しみ	今回の復習/次回の予習
	8	質的研究法：調査的面接①	今回の復習/次回の予習
	9	質的研究法：調査的面接②	今回の復習/次回の予習
	10	質的研究法：調査的面接③	今回の復習/次回の予習
	11	検査法①	今回の復習/次回の予習
	12	検査法②	今回の復習/次回の予習
	13	検査法③	今回の復習/次回の予習
	14	質的研究法：フィールドワーク	今回の復習/次回の予習
15	まとめ	今回の復習/全体の復習/期末課題	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書等を常に参照すること。</p> <p>①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし—有斐閣アルマ 有斐閣</p> <p>②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門—調査・実験から実践まで— 東京大学出版会</p> <p>③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク(課題について考える)を行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。 心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外での課題やワークに取り組みながら、研究法で学んだことと、心理学基礎演習Bでの実験・実習を結びつけて、実際にやってみて学ぶようにしてください。 他学科、他専攻学生の受講に際しては、必ず初回の授業で担当教員に相談をしてください。
--------	---

評価	<p>平常点(出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況)…50%</p> <p>期末課題(ポートフォリオとレポート課題の内容)…50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習Bを履修すること。</p> <p>次のステージ：引き続き、心理学研究法Ⅱ、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修する。心理学研究法Ⅰで学んだことを、心理学専門演習ⅠA・B、心理学専門演習ⅡA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	3年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習 I A の目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、社会心理学や臨床社会心理学的なテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。I A では、グループでの研究活動を通して、文献の検索法・読み方、レジュメのまとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方等を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。</p>	<p>2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえて、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことによって、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション & ゼミメンバー紹介	授業計画の理解・振り返り
	2	対人交流グループ・ワーク	授業内容の振り返り・レポート課題
	3	グループ研究のテーマの検討	研究テーマの立案・話し合い
	4	研究テーマに関連する文献の検討(1)	文献の精読・レジュメ作成
	5	研究テーマに関連する文献の検討(2)	文献の精読・レジュメ作成
	6	研究テーマに関連する文献の検討(3)	文献の精読・レジュメ作成
	7	研究テーマに関連する文献の検討(4)	文献の精読・レジュメ作成
	8	研究テーマに関連する文献の検討(5)	文献の精読・研究計画書の策定
	9	研究デザインの検討(1)	研究計画書の策定
	10	研究デザインの検討(2)	研究計画書の再検討
	11	研究デザインの検討(3)	研究計画書の確定
	12	研究デザインの具体化作業(1)：実験・調査計画書等の策定	実験・調査等の実施準備
	13	研究デザインの具体化作業(2)：実験・調査計画書等の策定	実験・調査等の実施準備
	14	研究計画の実施準備：依頼状の作成・計画の最終チェック・実験や調査等の準備	実験・調査等の実施準備
15	研究計画の実施：研究協力の依頼・データ収集(1)	データ収集・実査・データ入力等	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	<p>①ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員とゼミ長に連絡を入れること。 ③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。 ④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。</p>
--------	--

評価	<p>・授業への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、出席することを前提に質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。 ・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。 ・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II を履修し、学習内容について定着を図ることが大切です。 次のステージとして、心理学専門演習 I B の履修へつなげて、卒業研究へと展開しましょう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的にしている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。	自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえることをたえず意識してほしい。		
学びの準備	到達目標			
	心理学の専門研究論文を精読できる力を身につける。 関心のある事象を心理学的な視点でとらえ、関連する論文を検索できる力を身につける。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的にしているため、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。		
		テキスト・参考文献・資料など 杉本敏夫 (著) 「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社 各自のテーマに沿って紹介する。		
		学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。		
学びの実践	評価	授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	後期科目「心理学専門演習ⅠB」を続けて履修し、卒業論文に向けた研究構想を明確にしてゆく。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文のテーマを設定する。そのために先行研究の精読ができ、疑問点・問題点をあげることができるようにならないといけない。テーマは以下のものとする。1、大学生の対人交流に関する研究；2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、公的自己意識、回避行動、自己呈示、役割など）；5、グループアプローチに関する研究；4、動作法に関する研究	いよいよ卒業論文作成についての取り組みがスタートします。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。
到達目標	①心理学論文を読み、要約し、疑問点・問題点をあげることができる。 ②自分の研究テーマについて、明確に理解し、先行研究の中に位置づけ、説明できる。 ③自分の研究テーマについて、問題を解決するために具体的な方法論を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下の内容で授業を展開する。 以下の内容は、心理学専門演習ⅠA（前期）、B（後期）、心理学専門演習ⅡAおよびBを通して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 3、グループ研究計画の作成途中経過の報告と検討 4、グループ研究の実施とデータのとめ途中経過の報告と検討 5、グループ研究の発表 6、卒業論文計画の報告と検討 7、卒業論文調査・実験の実施とデータのとめ途中経過の報告と検討 8、卒業論文結果・考察の報告と検討 9、卒業論文発表準備と練習 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グループでの話し合い 2、文献精読、文献要約 3、グループ研究の実施とデータまとめ 4、プレゼンテーションの準備 5、報告・発表資料の作成 6、文献集め
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理学専門演習ⅠB（後期）、心理学専門演習ⅡAおよびB 卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	メッセージ 毎回、事前に論文を読み、質問を考えておくように。
	到達目標 現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに臨床心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文①中途障害関連 輪読	
	2	論文①輪読	
	3	論文①輪読	
	4	論文②中途障害と心理的適応関連 輪読	
	5	論文②輪読	
	6	論文②輪読	
	7	論文③高次脳機能障害関連 輪読	
	8	論文③輪読	
9	論文③輪読		
10	論文④高次脳機能障害リハビリテーション関連 輪読		
11	論文④輪読		
12	論文④輪読		
13	論文⑤糖尿病と心理関連 輪読		
14	論文⑤輪読	夏休み読書課題決定	
15	論文⑤輪読	夏休み読書課題	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：「心理社会的リハビリテーションのキーワード」、M.G.イーゼンバーグ編 野中 猛・池淵恵美 監訳 (1997) 岩崎学術出版社 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」 上田幸彦著 (2011) 風間書房		
	学びの手立て		
	評価 授業への出席状況と、ディスカッションへの積極性から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ストレスマネジメント、行動療法、発達臨床心理学、神経心理学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講では卒業研究の前段階として、小グループによるグループ研究を行い、心理学の各研究法を理解し実証的手法を身につけることを目的とする。グループでの研究協働を通し、心理学の研究過程（文献検索・読み込み、リサーチクエスチョン・研究テーマの設定、研究デザイン・研究計画の策定、実験、調査などの実施、データの収集・分析・考察、研究報告書の執筆、研究発表）を体験的に学ぶ。	今までの心理学の専門的学習内容をもとに卒業論文研究に取り組む準備をしよう。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法で研究することを意識して、日常の体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り卒業論文のテーマを考えよう。グループ研究の基本は自発的な取り組みとゼミ仲間、教員との協働です。仲間と共に研究活動に打ち込み研究力を伸ばそう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③卒業論文研究に向けて、現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基本的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業計画などの理解/テキスト予習
	2	心理学の研究の流れと研究論文について	テキストの指定範囲の予習・復習
	3	問題意識とリサーチクエスチョンについて	指定範囲の予習・復習
	4	文献検索と文献レビューについて-1	テキスト復習・文献検索・読み込み
	5	文献検索と文献レビューについて-2	文献検索・読み込み/レビュー作成
	6	グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表-1	文献検索・読み込み/レビュー作成
	7	グループ研究②文献の読み込みと文献レビュー発表-2/研究グループの編成	グループミーティング・資料作成
	8	グループ研究③研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討-1	Gミーティング・研究デザイン作成
	9	グループ研究④研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討-2	Gミーティング・研究計画書作成
	10	グループ研究⑤研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の発表（構想発表会形式）-1	Gミーティング・研究計画書作成
	11	グループ研究⑥研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の発表（構想発表会形式）-2	Gミーティング・研究計画書作成
	12	グループ研究⑦研究計画の具体化（実験・調査などの準備）	Gミーティング・研究準備
	13	グループ研究⑧研究計画の具体化（実験・調査などの準備）	Gミーティング・研究準備
	14	グループ研究⑨研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動
15	グループ研究⑩研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社 参考図書（下記①～④を常に参照するとよい。その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する） ①高野陽太郎・岡隆(2004). 心理学研究法—こころを見つける科学のまなざし 有斐閣アルマ 有斐閣 ②都筑学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ③心理学基礎演習シリーズVol.1.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、グループ研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、グループごとの指導・個別指導・助言を組み合わせて進める。 ・グループ研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・グループ研究では、メンバーの研究協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各メンバーが自分の役割を責任を持って果たし、自発的に協力し合って研究活動をする）が重要になる。 ・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。グループやメンバー個人で課題や困りごとを抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で、グループの、自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
--------	--

評価	<p>到達目標①と②：構想発表、デザイン発表、研究計画書などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、グループ研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・Bの履修と学習内容の復習。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学の各分野、共通科目を含めた諸学問分野の知識や情報が重要になる。次のステージ：引き続き心理学専門演習ⅠBを履修する。グループ研究を通して身につけた心理学的視点と研究力の基本をもとに、卒業論文研究のテーマを考えよう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	3年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	I Bは、前期に取り組んだグループ研究を応用・発展させる段階と位置づけ、4年次の卒論作成にスムーズに移行できるようなゼミ活動をしていきたいと考えています。具体的には、前期のグループ研究の成果をまとめ、要望に応じて新たなグループ研究を行う。各自の卒論テーマに関わる文献の発表・討議を行いながら、卒業研究テーマを絞り込んでいく作業を進める、等を考えています。	今までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえて、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中の何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に卒業研究のテーマに取り組むことによって、4年次の学びの集大成へと展開しましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休み課題に関する個人発表	次回の発表資料作成
	2	前期のグループ研究の成果のまとめ	次回の発表資料作成
	3	前期のグループ研究の成果発表会	成果発表の振り返り・ミニレポート
	4	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(1)	文献収集・精読、発表資料作成
	5	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(2)	同上
	6	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(3)	同上
	7	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(4)	同上
	8	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(5)	同上
	9	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(6)	同上
	10	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(7)	同上
	11	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(8)	同上
	12	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(9)	同上
	13	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(10)	同上
	14	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(11)	同上
15	卒論ブレデザイン発表・検討会に向けてのガイダンス	発表資料の作成・準備	
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> ①ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員とゼミ長に連絡を入れること。 ③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。 ④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、出席することを前提に質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。 ・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。 ・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II、心理学専門演習 IAを履修し、学習内容について定着を図ることが大切です。 ・次のステージとして、心理学専門演習 II Aを履修し、これまでの学びを卒業研究として結実させましょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学専門演習 I B	期別 後期	曜日・時限 月 2	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学専門演習 I Aに引き続いてグループでの研究協働を通し、心理学の研究過程（特に、研究実施、データの収集・分析・考察、研究報告書の執筆、研究発表）を体験的に学ぶ。グループ研究での学びにもとづき、卒業論文研究立ち上げのために、自分の興味関心のある領域において文献検索・レビューを行い、研究テーマ・研究デザイン・計画の策定を行い、卒業論文プレ構想発表を行う。	メッセージ グループ研究の基本、個々の自発的な取り組みとゼミ仲間、教員との協働を意識して、仲間と共に研究活動に打ち込み研究を完成させ、研究力を伸ばそう。心理学の専門的学習内容やグループ研究の体験を基に、日頃の疑問や関心を心理学的研究法で研究することを意識し、日常の体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り、卒論研究のテーマを考えよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③卒業論文研究に向けて、現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基本的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グループ研究の中間報告/夏休みの課題の報告	グループ研究計画検討・振り返り
	2	グループ研究⑪研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動
	3	グループ研究⑫研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動
	4	グループ研究⑬研究計画の実施・データ分析・結果の読み取り	Gミーティング・研究の諸活動
	5	グループ研究⑭研究計画の実施・データ分析・結果の読み取り	Gミーティング・研究の諸活動
	6	グループ研究⑮研究計画の実施・データ分析・結果の読み取り	Gミーティング・研究の諸活動
	7	グループ研究⑯研究計画の実施・結果のまとめと考察	Gミーティング・研究の諸活動
	8	グループ研究⑰研究計画の実施・結果のまとめと考察	Gミーティング・研究の諸活動
	9	グループ研究⑱研究計画の実施・研究発表準備（ポスター・発表資料作成、発表予演）	Gミーティング・研究の諸活動
	10	グループ研究⑲研究計画の実施・研究発表準備（ポスター・発表資料作成、発表予演）	Gミーティング・研究の諸活動
	11	グループ研究⑲研究計画の実施・研究発表	研究活動振り返り・卒論文献検索
	12	卒業論文研究デザイン・計画案発表①	卒論文献読み込み・資料作成
	13	卒業論文研究デザイン・計画案発表②	文献検索・読み込み・資料作成
	14	卒業論文研究デザイン・計画案発表③	卒業論文プレ構想発表準備
	15	卒業論文プレ構想発表①	卒業論文プレ構想発表準備
16	卒業論文プレ構想発表②	卒業論文プレ構想発表振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社 参考図書（下記①～④を常に参照するとよい。その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する） ①高野陽太郎・岡隆(2004). 心理学研究法—こころを見つめる科学のまなざし 有斐閣アルマ 有斐閣 ②都筑学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・ゼミは、毎時の発表（グループ研究の進捗、デザイン発表、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、グループごとの指導・個別指導・助言を組み合わせる。 ・グループ研究と卒論研究のテーマ検討はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・グループ研究ではメンバーの研究協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各メンバーが自分の役割を責任を持って果たし、自発的に協力し合って研究活動をする）が重要になる。 ・グループ研究、卒論研究のテーマ検討に関する疑問や課題は、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話を通して、自分の考えを整理し明確にしていこうとよい。
-------	--

学びの実践	評価 到達目標①と②：グループ研究の報告書、研究発表、各自の卒論の構想発表（研究デザイン・究計画書）などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、グループ研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II、心理学基礎演習 A・B、心理学専門演習 I Aの履修と学習内容の復習。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学を含む諸学問分野の知識や考え方を学ぶ。次のステージ：心理学専門演習 II A・Bを履修する。グループ研究を通して身につけた心理学的視点と研究力の基本をもとに、卒業論文研究の構想を十分に検討しよう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文のテーマを設定する。そのために先行研究の精読ができ、疑問点・問題点をあげることができるようにならないといけない。テーマは以下のものとする。1、大学生の対人交流に関する研究；2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、公的自己意識、回避行動、自己呈示、役割など）；5、グループアプローチに関する研究；4、動作法に関する研究	いよいよ卒業論文作成についての取り組みがスタートします。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。
到達目標	①心理学論文を読み、要約し、疑問点・問題点をあげることができる。 ②自分の研究テーマについて、明確に理解し、先行研究の中に位置づけ、説明できる。 ③自分の研究テーマについて、問題を解決するために具体的な方法論を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	以下の内容で授業を展開する。 以下の内容は、心理学専門演習ⅠA（前期）、B（後期）、心理学専門演習ⅡAおよびBを通して行う。 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 3、グループ研究計画の作成途中経過の報告と検討 4、グループ研究の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討 5、グループ研究の発表 6、卒業論文計画の報告と検討 7、卒業論文調査・実験の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討 8、卒業論文結果・考察の報告と検討 9、卒業論文発表準備と練習
	時間外学習の内容としては以下のような内容である。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。 1、グループでの話し合い 2、文献精読、文献要約 3、グループ研究の実施とデータまとめ 4、プレゼンテーションの準備 5、報告・発表資料の作成 6、文献集め
テキスト・参考文献・資料など	
小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社 適宜紹介する。	
学びの手立て	
卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。	
評価	
出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポート、卒業論文テーマの発表会でのプレゼンテーション内容などを総合的に判断し、評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学専門演習ⅠB（後期）、心理学専門演習ⅡAおよびB 卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であることを知ること、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	メッセージ 事前に論文をよく読み、積極的に質問、コメントをするように。
	到達目標 現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに臨床心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休み読書課題 発表①	
	2	〃 発表②	
	3	〃 発表③	
	4	〃 発表④	
	5	論文⑥偏見関連 輪読	各自選択した論文を読む
	6	論文⑥輪読	〃
	7	論文⑥輪読	〃
	8	論文⑦認知行動療法関連1 輪読	〃
	9	論文⑦輪読	〃
	10	論文⑦輪読	〃
	11	選択した論文紹介①	〃
	12	選択した論文紹介②	〃
	13	選択した論文紹介②	〃
	14	卒論構想発表①	〃
15	卒論構想発表②	〃	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：心理社会的リハビリテーションのキーワード M.G. イーゼンバーグ編 野中 猛・池淵恵美監訳 (1997) 岩崎学術出版社 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 (2011) 風間書房 「ストレス科学事典」日本ストレス学会編 (2011) 実務教育出版		
	学びの手立て		
	評価 出席状況と、夏休み読書課題レポート、選択論文レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学専門演習Ⅱ
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で学んだ研究方法を基に、各自の関心あるテーマについてデータを収集し、レポートにまとめる。こうした一連の活動を通して、卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目標としている。	メッセージ 心理学的視点でとらえた自分の興味・関心のある事象を、どのような心理学的手法で実証するかを、しっかりと考えてほしい。
	到達目標 心理学的視点でとらえた事象の詳細を検証する心理学的な研究手法を学ぶ。 自分の興味・関心のある事象を、心理学的に検証する方法について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み、大まかな研究計画を立てる。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指定する。 各自のテーマに沿って紹介する。
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。
	評価 演習への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより総合評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「心理学専門演習ⅠA」に引き続いて履修する科目である。 次年度は「心理学専門演習ⅡA」・「心理学専門演習ⅡB」を履修する。
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅡA	期別 前期	曜日・時限 月3	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文にまとめることを目的とする。まず、心理学の各専門分野の学習内容と自分の問題意識を関連づけた卒業論文のテーマを設定し、関連文献のレビュー、研究デザインの策定・発表を行う。次に、研究デザインに従い適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。	メッセージ 4年間心理学を専門的に学んできた集大成が卒業論文研究です。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法によって研究することで、新しい事実が明らかになり、人々に役立つ知識を発信することができます。卒論研究の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。仲間と共に研究生活に打ち込むことで研究力が大きく育ちます。ともに研究と成長を楽しみましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	年間計画・振り返り報告の準備
	2	卒論構想発表会の振り返り	研究デザイン等検討・文献レビュー
	3	卒業論文の研究デザインと研究計画についての検討	研究デザイン等修正・文献レビュー
	4	卒業論文の研究デザインと研究計画の策定	研究デザイン等修正・文献レビュー
	5	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）	研究デザイン等修正・文献レビュー
	6	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）	研究デザイン等修正・文献レビュー
	7	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）	研究デザイン等完成・文献レビュー
	8	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
	9	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
	10	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
	11	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
	12	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
	13	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
	14	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
	15	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい ①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 ③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書 ⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒業論文研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
-------	---

学びの実践	評価 到達目標①と②：構想発表、デザイン発表、研究計画書などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒業論文研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠA・ⅠB。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学の各分野、共通科目を含めた諸学問分野の知識や情報が重要になる。次のステージ：卒業論文研究を通して身につけた心理学的視点と研究力を社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅡA	期別 前期	曜日・時限 月3	単位 2
	担当者 泊 真児	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 4年間の学習成果の集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの方や考え方、表現の仕方を身につけることがねらいです。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主に社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究計画の策定、データの収集と分析、考察、論文執筆と発表まで、一連のプロセスを学習します。	メッセージ 卒業研究は、学生自身が自発的に研究活動を進められるかどうかにかかっています。自分が頑張らなければ、少しも前には進みません。周囲の人の力を借りながらも、肝心な所は独力でやり抜く姿勢が強く要求されますので、卒論を完成させた暁には、大きな達成感を得られるはずで、卒論を通しての成長を期待しています。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究として結実させることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：オリエンテーション	授業計画・卒論スケジュールの確認
	2	2週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(1)	文献収集・精読、レジメ作成
	3	3週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(2)	同上
	4	4週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(3)	同上
	5	5週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(4)	同上
	6	6週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(5)	同上
	7	7週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(6)	同上
	8	8週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(7)	同上
	9	9週目：卒業論文のデザイン発表会(1)	同上
	10	10週目：卒業論文のデザイン発表会(2)	同上
	11	11週目：卒業論文のデザイン発表会(3)	同上
	12	12週目：卒業論文のデザイン発表会(4)	同上
	13	13週目：卒業論文のデザイン発表会(5)	同上
	14	14週目：研究デザインの具体化作業（実験・調査・面接等の準備）	研究材料の準備・作成、実施準備
	15	15週目：予備研究の準備・実施	同上、データ収集・整理など
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	①ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに（事前に）教員とゼミ長に連絡を入れること。 ③卒業研究を計画的に進めるには、体調やスケジュール管理が重要です。自らの進路選択との兼ね合いで、就職活動や受験、実習等で忙しくなる時期と卒論とをうまく両立する工夫が求められます。 ④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。
--------	---

評価	毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方（積極性等）、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修し、学習内容の定着を図ることが大切です。これらを総動員して卒論に展開させましょう。 ・次のステージとして、心理学専門演習ⅡBを履修し、卒業研究を仕上げてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	4年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。	自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。		
到達目標	卒業論文のテーマを確定する。 テーマにふさわしい心理学的研究方法を明確にする。 方法が定まれば、心理学的な実験・調査・観察・面接等でのデータ収集準備を行う。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。			
	テキスト・参考文献・資料など 個別に助言・提示する。 松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社 白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房			
学びの手立て				
自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。				
評価				
提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。				
学びの継続	次のステージ・関連科目 前年度の「心理学専門演習ⅠA」・「心理学専門演習ⅠB」に引き続いて履修する科目である。			

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文をまとめることとなります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>1、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>4月～6月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討） 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までは、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	<p>ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できることを示す。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 構想が決定した後は、早めにデータ収集に取り組めるように準備を進めていくこと。
	到達目標 夏休み中にデータ収集を行えるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論構想発表①	ゼミ発表準備
	2	〃 ②	〃
	3	〃 ③	〃
	4	〃 ④	〃
	5	卒論進捗状況（方法）発表 ①	〃
	6	〃 ②	〃
	7	〃 ③	〃
	8	〃 ④	〃
	9	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表①	〃
	10	〃 ②	〃
	11	〃 ③	〃
	12	〃 ④	〃
	13	卒論進捗状況（データ収集）発表①	〃
	14	〃 ②	〃
15	〃 ③	〃	
16			
テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版			
学びの手立て 卒論の進め方、データ分析の仕方などわからない場合は、大学院生、担当教員に積極的に聞くこと。			
評価 出席状況と論文作成過程での取り組み方から判断する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文をまとめることとなります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>1、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>4月～6月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討） 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までは、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	4年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	4年間の学習成果の集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの方や考え方、表現の仕方を身につけることがねらいです。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主に社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究計画の策定、データの収集と分析、考察、論文執筆と発表まで、一連のプロセスを学習します。	<ul style="list-style-type: none"> 卒論作成のためのゼミですから、出席、参加状況を重視します。 進捗状況によっては、個別面談を行うことがあります。 教員やゼミ仲間に相談したり、協力を求めたりしながら、お互いに支え合って卒業研究を進めましょう。 自分勝手な判断で動くことのないようにしてください。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究として結実させることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	依頼状の作成、研究の実施準備
	2	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	研究の実施準備
	3	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	同上
	4	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	同上
	5	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	同上
	6	データの入力・整理・分析・図表などの作成	データ整理・資料作成など
	7	データの入力・整理・分析・図表などの作成	同上
	8	卒業論文中間報告会(1)	発表資料作成
	9	卒業論文中間報告会(2)	同上
	10	卒業論文中間報告会(3)	同上
	11	データ分析結果の読み取りと考察、卒業論文本体の執筆	データ分析・卒論執筆
	12	データ分析結果の読み取りと考察、卒業論文本体の執筆	同上
	13	データ分析結果の読み取りと考察、卒業論文本体の執筆	同上
	14	ポスター発表会の準備および発表抄録原稿の作成	プレゼン資料・抄録原稿の作成
	15	卒業論文発表会に向けての予行演習	プレゼン資料作成
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに（事前に）教員とゼミ長に連絡を入れること。 卒業研究を計画的に進めるには、体調やスケジュール管理が重要です。自らの進路選択との兼ね合いで、就職活動や受験、実習等で忙しくなる時期と卒論とをうまく両立する工夫が求められます。 研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。
--------	---

評価	毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方（積極性等）、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> 関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修し、学習内容の定着を図ることが大切です。これらを総動員して卒業論文作成に活かしましょう。

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文にまとめることを目的とする。まず、心理学の各専門分野の学習内容と自分の問題意識を関連づけた卒業論文のテーマを設定し、関連文献のレビュー、研究デザインの策定・発表を行う。次に、研究デザインに従い適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。	4年間心理学を専門的に学んできた集大成が卒業論文研究です。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法によって研究することで、新しい事実が明らかになり、人々に役立つ知識を発信することができます。卒論研究の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。仲間と共に研究生活に打ち込むことで研究力が大きく育ちます。ともに研究と成長を楽しみましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文のアウトライン作成）	卒論研究のための諸研究活動
	3	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文のアウトライン作成）	卒論研究のための諸研究活動
	4	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	5	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	6	卒論研究の実施（データ整理・データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	7	卒論研究の実施（データ整理・データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	8	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	9	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	10	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	11	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	12	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	13	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	14	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆／卒業論文提出）	卒業論文発表会のための準備
15	卒論研究の実施（卒業論文発表会の準備・予演／卒業論文の加筆・修正）	卒業論文発表会のための準備	
16	卒業論文発表会（2月）／卒業論文抄録集原稿提出	卒業論文最終提出のための準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい</p> <p>①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣</p> <p>②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書</p> <p>⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒業論文研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。

学びの実践	評価
	<p>到達目標①と②：卒業論文発表、卒業論文（ゼミ論）、抄録などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%）</p> <p>到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒業論文研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠA・ⅠB。研究結果の解析、考察には、自己の問題意識と心理学の各分野、諸学問分野からの多面的な検討が重要になる関連領域の知識を振り返ろう。次のステージ：卒業論文研究を通して身につけた心理学的視点と研究力を社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。</p>

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	4年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で作成した卒業論文の研究デザインに沿って、データを収集し、得られたデータの分析と整理を行い、卒業論文を執筆する。その後、卒業論文発表会に向けて、ポスターや論文抄録を作成し、最終発表を行う。受講学生が主体性を持って、自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。	メッセージ 自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。
	到達目標 卒業論文デザインに沿って、実験・調査・観察・面接等の手法で、データを収集する。収集したデータを、心理学的な方法で分析・考察し、論文を作成する。作成した論文をわかりやすくまとめ、最終発表を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期に作成した研究デザインに沿って収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行い、12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 個別に助言・提示する。 松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社 白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けてほしい。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加してほしい。
	評価 提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「心理学専門演習ⅡA」に引き続き履修する科目である。
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、調査などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を示す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 12月初旬にはデータ分析を終わり、後半には考察に取り組み始めるように進めること。
	到達目標 卒論を完成させ、卒論発表会で発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論進捗状況（データ分析）発表①	
	2	〃 発表②	
	3	〃 発表③	
	4	〃 発表④	
	5	〃 発表⑤	
	6	〃 発表⑥	
	7	〃 発表⑦	
	8	〃 発表⑧	
9	卒論進捗状況（考察）発表①		
10	〃 発表②		
11	〃 発表③		
12	〃 発表⑤		
13	〃 発表⑥	卒論提出	
14	卒論発表会 予演 ①		
15	〃 予演 ②		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版		
	学びの手立て		
	評価 論文作成過程での取り組み、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学と職業	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	各ゼミ担当教員か、または、専攻主任の泊 (stomari@okiu.ac.jp) に問い合わせること	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は心理学の学びが社会とどのように繋がるかについて、心理専門職を中心に学ぶことを目的としている。調べ学習で様々な心理の専門職について学習した後、実際に、それらの施設を見学し、現場で活躍している心理専門職の先輩方の講話を聴く。これらの知識の習得と体験を通して、学生個々人の将来設計や今後の大学生活の目標設定、学習のモチベーションアップにつなげてほしい。</p>	<p>本講義を受講するにあたり、大学の授業の中で学んでいることが、社会の現場の中でどのように活用されているか、また、どのような学びを積み重ねていくことが心理専門職につながるのか等を、特に意識しながら学んでほしい。</p>
到達目標	<p>①見学先の施設・機関について、適確に理解し、人に分かりやすく説明することが出来る。 ②見学先の施設・機関に専門職として仕事に就くための基本的な道筋を理解することが出来る。 ③見学先の施設・機関に入所・通所している方々について、偏りのない適正な認識を持つことが出来る。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1回：オリエンテーション 2回：矯正施設の見学① (少年院) 3回：少年院の心理職の講話 4回：矯正施設の見学② (少年鑑別所) 5回：少年鑑別所の心理職の講話 6回：福祉施設の見学 (児童自立支援施設) 7回：児童自立支援施設の心理職の講話 8回：精神科病院の見学① 9回：精神科病院の見学② 10回：精神科病院の心理職の講話 11回：教育施設の見学 12回：適応指導教室の心理職の講話 13回：病院で働く臨床心理士の講話① 14回：病院で働く臨床心理士の講話② 15回：教育機関で働く臨床心理士の講話③ 16回：レポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>基礎演習Aで扱った、心理関連の職業調べ学習の内容を復習しておくこと</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>現場を見学させていただくにあたり、学生としてふさわしいマナーや態度が非常に重視されます。遅刻や欠席、受講態度など、諸注意事項について、オリエンテーションをしっかりと受けていただきます。学びを深めるために、見学先において気づいたこと、普段から気になっていること等、直接現場でしか聴けないことや確認できないことを積極的に質問してください。</p>
	<p>評価</p> <p>受講態度、出席状況が評価に大きく影響します。さらに、振り返りの時間でのコメント、各プログラム終了後の感想・レポートを総合的に判断し、評価します。全てのプログラムに参加することを前提として評価しますので、体調やスケジュール管理に留意してください。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本専攻の提供科目の中で、特に臨床心理学系の専門科目や福祉専攻の提供科目など関連科目を履修するとよい。精神保健福祉士 (PSW) の資格課程の履修などが、学習の継続や発展につながる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講B	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-白井 利明	2年		

学びの準備	ねらい 現代に生きる青年の理解及び大人との共同の在り方についての考え方を深める。将来のことを考える青年期において、時間的展望（見通し）は、重要である。時間的展望の仕組みや意義、生涯発達や文化の視点から時間的展望を深め、それぞれの生き方に資するものとする。	メッセージ 集中講義のため、短期集中的な学習となるが、予習、復習に時間を配分してほしい。
	到達目標 青年心理学を概説し、理解を促すが、資料の読み取りや討議、発表形式を取り入れ、学びを深めるように支援する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（授業の概要説明、グループ分け）
	2	青年期はいつからいつまでか
	3	青年期は歴史的にいつ誕生したか
	4	生涯発達の中の青年期
	5	時間的展望とはなにか：定義と原理
	6	時間的展望はなぜ必要なのか：動機づけ
	7	時間的展望はどこから生まれるか：親子関係、友人関係
	8	時間的展望はどこから生まれるか（語り）
	9	時間的展望の共有（親子関係）
	10	時間が過ぎるのはなぜ早いか（自伝的記憶）
	11	高齢者と時間的展望（自伝的記憶）
	12	人生の意味づけと時間的展望
	13	時間的展望を巡る討議1
	14	時間的展望を巡る討議2
	15	授業のまとめ
	16	最終試験
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。参考文献として、以下を参照してください。白井利明 2001 <希望>の心理学—時間的展望をどうもつか— 講談社現代新書。日本発達心理学会（編）子安増生・白井利明（編） 2011 発達科学ハンドブック 第3巻 時間と人間 新曜社。白井利明 2014 社会への出かた—就職、自立、自分さがし— 新日本出版社。白井利明・都筑 学・森 陽子 2012 やさしい青年心理学 新版 有斐閣。白井利明（編）2015 よくわかる青年心理学 第二版 ミネルヴァ書房。	
	学びの手立て 自分をみつめる機会を持つ。資料を読み取り、グループおよび全体で討議するので、積極的にグループにかかわり、発言することが求められる。	
	評価 授業での主体的な参加状況（20%）、最終試験（80%）によって評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容を基盤に、心理臨床や福祉など、それぞれの専門領域の研究の展開に役立ててください。
-------	---

※ポリシーとの関連性 個別だけでなく集団への働き方を学ぶことは、心理学を学ぶ学生にとっては重要だと思われる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講C	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	email:kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>近年、子どもたちの社会性が欠如してきたと言われ、教育現場でも、不登校、いじめ、非行、引きこもりなどの問題が多発し、大きな社会問題となっている。</p> <p>本授業では、受講者間での活動を通じて、自然な人間関係を構築できるような交流を体験させ、集団でのポジティブ体験をねらう。毎回異なる活動を提示し参加型の授業を目指す。</p>	<p>参加型授業で、毎回、グループ活動を行う。参加しなければ実際にどういう内容なのか学べない。遅刻したりすると、活動の途中からの参加となり、活動自体がどういうものかわからなくなるので、欠席や遅刻をしないようにしたい。</p>
到達目標	<p>本授業は、社会的スキル訓練（SST）を用いた集団カウンセリングであるが、将来、個別面接だけでなく、集団への働き方も学ぶことによって、いろいろな現場でいろいろな対象に対する対応が容易になるとと思われる。本授業では、集団カウンセリングの一つである集団に対する働き方を学ぶ。</p>	

学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ
学びの実践	1	オリエンテーション、非言語コミュニケーション：表情伝言ゲーム
	2	言語コミュニケーション：他己紹介、共通点探し
	3	言語コミュニケーション：絵の内容を伝える
	4	言語コミュニケーション：ピンゴゲーム
	5	問題解決スキル：問題解決のステップと問題解決のシナリオ
	6	怒りのマネジメント：怒りの表出・身体と行動、怒りの対処法
	7	自尊感情：いいところ探し
	8	自尊感情：この人は誰でしょう。
	9	自尊感情：リフレーミング、つぶやき
	10	自尊感情：心からの贈り物
	11	ストレス・マネジメント：ストレッサ
	12	アサーション・トレーニング：ロールプレイ
	13	自他の価値観の違いに気づく：若い女性と水夫
	14	自己の価値を高める：春夏秋冬
	15	自己の価値を高める：私の大切なもの
	16	試験
実践	テキスト・参考文献・資料など	時間外学習の内容
	<p>テキスト： やってみよう ソーシャルスキルトレーニング33 学級経営に生かすSST』 新里健、島袋有子 2008 株式会社 グリーンキャット</p>	<p>第1週～第4週</p> <p>コミュニケーションを考える</p> <p>コミュニケーションを考える</p> <p>コミュニケーションを考える</p> <p>どのように問題解決を行うか考える</p> <p>怒りの収め方を考える</p> <p>自己評価をどう高めるか考えよう</p> <p>自己評価をどう高めるか考えよう</p> <p>自己の長所に目を向けてみよう</p> <p>他者の良さを探してみよう</p> <p>何にストレスを感じるか考えよう</p> <p>自己主張の仕方を考える</p> <p>他者との価値観の違いに気づこう</p> <p>他者との価値観の違いに気づこう</p> <p>他者との価値観の違いに気づこう</p>
学びの手立て	<p>教育現場での児童・生徒だけでなく、様々な集団へどのように働きかけたら良いか、日頃から考えておくことが良いでしょう。様々な文献や参考書に目を通し、どういうワークが有効か、どういうワークが楽しいのか考えておく良いでしょう。外国の文献には特に独創的なワークが紹介されているので、ネット等でも調べてみてみましょう。</p>	
評価	<p>期末試験80%、平常点10%</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本授業だけでなく、他の集団カウンセリングを学ぶ、幅広いアプローチの仕方を身につけた方が良いでしょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学理論と心理的支援	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	1年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい 人の成長・発達と心理との関係、及び、日常的支援の方法と実際について理解し、心理的支援の実際についても理解することを目的とする。	メッセージ 積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思ひます。
	到達目標 心理学の理論と心理的支援についての基礎的な理解をもとに、支援の現場における主体的な意見を持てるようになる。積極的な参加による意見交換を通じた相互理解の体験から、具体的内容に対する主体的な態度を示せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などについて説明する
	2	人の心理学的理解：認知・思考
	3	人の心理学的理解：感情・情緒
	4	人の心理学的理解：自己理解・他者理解
	5	人の成長・発達と心理：人間発達について
	6	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
	7	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
	8	日常生活と心の健康：心の健康とは？
	9	日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
	10	日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
	11	心理的支援の方法と実際：援助するというこゝ
	12	心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
	13	心理的支援の方法と実際：交流のワーク
	14	心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
15	まとめ	
16	期末試験	
	時間外学習の内容	
	ダイアグラム心理学 1-3章、9章	
	ダイアグラム心理学 3-4章、7章	
	ダイアグラム心理学 4-5、10章	
	ダイアグラム心理学 11-12章	
	生涯発達心理学序章、1章	
	生涯発達心理学 1章	
	テキスト・資料の復習	
	テキスト・資料の復習	
	テキスト・資料の復習	
	テキスト・資料の復習	
	テキスト・資料の復習	
	テキスト・資料の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定せず、適宜資料配布とするが、参考文献（図書）を購入することが望ましい。 前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版 石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介する。	
	学びの手立て 心理学の基礎理論を実際の生活の中で実感するよう心掛けてみましょう。心理的支援について考える時間を通して実際の支援における心構えや、支援を実施する側に移行する前の、支援の必要な状況について、自己の生活を通して実践的に考えてみましょう。	
	評価 毎回、所定のワークシートを課す。 レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 日々の生活の中で、心理学理論の応用の機会を愉しむ。支援を実践する状況を具体的に想定し、必要な実践について思考する機会を多く持つ。
-------	---

※ポリシーとの関連性

人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる心理学の実践力を身につけるための専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理検査法Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	3年	稲田梨沙 <r.inada@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理アセスメントの専門技法である心理検査について概説を行い、代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見の書き方について具体的に学ぶ。	実習が中心の科目である。皆出席であることが前提。毎回の課題レポートに加え、最終レポートまで複数の課題レポートが課されるので、全て提出できる意欲のある学生のみ受講すること。
到達目標	この科目を履修することによって、心理検査の概要及び代表的な心理検査について十分に理解ができ、臨床現場で心理検査を実施し、所見を作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	パーソナリティ理解のための心理検査	パーソナリティに関する調べ学習
	2	パーソナリティの構造とテストバッテリー	パーソナリティに関する調べ学習
	3	心理検査と倫理問題	課題ワークシート
	4	心理検査①-1 (質問紙法 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
	5	心理検査①-2 (質問紙法 理論的背景)	課題ワークシート (分析)
	6	心理検査①-3 (質問紙法 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	7	心理検査②-1 (作業検査法 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
	8	心理検査②-2 (作業検査法 理論的背景)	課題ワークシート (分析)
	9	心理検査②-3 (作業検査法 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	10	心理検査③-1 (投映法その1 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
	11	心理検査③-2 (投映法その1 理論的背景)	課題ワークシート (分析)
	12	心理検査③-3 (投映法その1 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	13	心理検査④-1 (投映法その2 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
14	心理検査④-2 (投映法その2 理論的背景)	課題ワークシート (分析)	
15	心理検査④-3 (投映法その2 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)	
16	最終レポート作成・提出	最終レポート作成・提出	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて資料を配布する。 上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック 第2版」 西村出版 氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社		
学びの手立て	①履修の心構え 皆出席が前提である。授業時間内に実習を行うので、遅刻厳禁。高度に専門的な科目なので、「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、あるいは受講中であること。卒業後に心理職を目指す学生は必ず受講すること。 ②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。		
評価	評価方法 出席状況、提出されたレポート等により総合的に評価する。 割合 平常点(出席状況等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、または受講中であることが望ましい。 次のステージ 「臨床面接法Ⅰ」「心理検査法Ⅱ」を引き続き受講するとよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシー1. および、3. に相当する。 人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理検査法Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する。	実習を伴う講義です。心理検査を実際に子どもを対象として施行できるようにするために、事前に心構え、知識、技術をみっちり学びます。そのためどうしても評価の厳しい講義となります。しかし、ハードルが高いだけに、得るものも多い講義であると思います。臨床心理学系の大学院進学、専門職を希望する学生はぜひ履修してほしい講義です。
到達目標	①知能検査実施における基礎知識、倫理的心構えについて理解する。 ②知能検査を実施できる。 ③知能検査のデータを読み取り、所見が書ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション /心理アセスメントとは	配布資料復習
	2	心理アセスメントと心理検査	配布資料復習
	3	心理検査と倫理問題①	リフレクションシートの作製
	4	心理検査と倫理問題②	リフレクションシートの作成
	5	知能とは	配布資料復習
	6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴 ・ 実習前試験	試験の振り返り・復習
	7	検査器具の取り扱いと実施	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	8	ウェクスラー式知能検査の実施方法	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	9	田中ビネー式知能検査の実施方法	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	10	知能検査の実際と結果のフィードバック	リフレクションシートの作成
	11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①	配布資料復習
	13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②	配布資料復習
	14	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方③	配布資料復習
15	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方①	レポートまとめ	
16	まとめ 人を理解すること	レポートまとめ	

実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配布する。 日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 /WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社 軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版
----	---

学びの手立て	1) 実習のある授業です。原則遅刻・欠席は認めません。 2) 実習の協力者を自分で探し、依頼し、協力を得ることが必要です。 3) 心理検査を行うということで、協力者やその保護者に何らかの負担を与えることがあります。そのことをよく念頭に置き、その状況に即した配慮をすることが求められます。 4) 検査実施については、入念な準備が必要です。予習・復習は不可欠です。 5) 実習前のミニレポートの提出と試験に合格しないと、実習に進むことができません。 6) すべての実習を体験し、レポートを提出（2つ）しなければ単位を認めることはできません。 7) 出席、レポートの条件が満たされてもレポートの内容が基準を満たさない場合単位を認めません。
--------	--

評価	検査所見レポート2つ…70% 実習前の試験（1回）、課題、振り返りのレポート…30%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床面接法Ⅰ」「障害児・者心理学」「発達臨床心理学」「学校臨床心理学」「心理学特講D」などの専門科目 課外の学習支援、発達障害児支援のボランティア活動に関連する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学基礎	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、心理統計学、心理学研究法という心理学研究において重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習A・Bや心理学専門演習I AB、心理学専門演習II ABで取り組むゼミ研究、卒業研究に繋がる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、演習、課題を通して、心理学専門科目の学習に必要な知識とデータ解析法の基礎を身につけることが目標です。</p>	<p>統計学はズバリ、「習うより、慣れろ！」です。講師の話をお聴きだけでなく、配付資料を読む、参考書籍を調べる、問題を解く等、予習や復習が非常に大切です。授業の中だけで理解しようとするのではなく、時間外学習をしっかりと行ってください。</p>
到達目標	<p>①統計学が、心理学を学ぶ上でなぜ必要なのか理解できるようになる。 ②1つ1つのデータを、数値や図表に表して整理・集約したり、その特徴を客観的に記述したりできる（記述統計）。 ③2変数間の関連性について、その特徴を図表化して表したり、少数の数値に集約して表現（数値要約）できる。 ④統計的検定の基本的な原理について理解できる（推測統計）。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業契約・オリエンテーション・統計学初歩：講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	次回講義内容の予習・資料の精読
	2	変数とデータ～心理学における測定と尺度水準～	次回の予習・資料精読・演習課題
	3	心理測定の信頼性・妥当性とΣ記号の意味	同上
	4	Σ記号を用いた計算&度数分布	同上
	5	度数分布とヒストグラム	同上
	6	量的データの数値要約：代表値とは何か？	同上
	7	量的データの数値要約：散布度とは何か？	同上
	8	量的データの数値要約：正規分布・偏差値とは何か？	同上
	9	量的データの数値要約：標準正規分布と標準得点	同上
	10	2変数間の関係の分析1：相関（散布）図の作成	同上
	11	2変数間の関係の分析2：相関係数による数値要約	同上
	12	2変数間の関係の分析3：質的変数のクロス集計表の作成	同上
	13	2変数間の関係の分析4：連関係数による数値要約	同上
14	統計的検定の基礎：推測統計・標本抽出・統計的検定の原理	同上	
15	全講義内容のまとめ・振り返り・試験案内	全学習内容の復習・模擬試験演習	
16	学期末試験（予定） ※期末レポート課題に変更する可能性もあります。		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。講義の中で、適宜紹介していきます。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 本講義では毎回、出欠状況を確認します。統計学はコツコツと地道に積み重ねることが大切であるため、遅刻や欠席をすると理解が困難になるからです。このルールが守れそうにない学生は履修をご遠慮ください。 演習課題や予習資料等、毎回資料が配布されますので、きちんとファイリングしてください。 講義内容の理解促進につながる予習や復習を、毎回欠かさずに行ってください。 		
評価	<p>成績評価は、平常点で45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。</p> <p>平常点は、出欠状況、授業への参加態度、授業内課題への取り組み、ホームワーク等により評価します。</p> <p>学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」を学ぶと、研究法とデータ分析法の関連について理解が深まる。次のステージとして、「心理統計学Ⅰ・Ⅱ」を履修すると、卒業論文に活かせるデータ解析法が学べる。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 ひとの心の中に起きている事柄を数量的に把握する為の知識・技能を養います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 亘武	2年	pyoshiro@nirai.ne.jp講義前日までにご連絡ください。	

学びの準備	ねらい 実験・観察データの統計的分析技法について知識と技術すなわち統計リタラシーを習得します。統計分析用のソフト（SPSS）の運用力を身につけます。	メッセージ 数量的に事象を観察し解釈する経験をしましょう。「計算する」という地味な作業をしながら「わかる」楽しみを体験しましょう。
	到達目標 各種の統計的分析の技法について学び、運用技能を習得することを目的としています。分析手法に関する理論的側面の理解と演算の演習を通してデータの分析を試みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと統計分析ソフト（SPSS）を使ってみる。	テキスト第1章を読む
	2	測定するためのモノサシ（尺度）とは？	尺度、その特徴について例示する
	3	基本統計量	基本統計量とは何か、まとめる
	4	分散と標準偏差の理論と演算（1）	基本統計量を求める
	5	分散と標準偏差の理論と演算（2）	基本統計量を求める
	6	分散と標準偏差の理論と演算（3）	基本統計量を求める
	7	正規分布とデータの標準化	テキスト第5章を読む
	8	中間的まとめと振り返り	前回までの講義について振り返る
9	データの散布と相関係数	第6章を読む、計算式を確認する	
10	相関と直線回帰分析	回帰方程式の成り立ちを調べる	
11	仮説検定（1）	帰無仮説、対立仮説について知る	
12	仮説検定（2）	第8章仮説検定の流れを辿る演習	
13	平均値の違いを調べる（1）	平均値の違いの分析法を知る	
14	平均値の違いを調べる（2）	仮説検定の手法で平均値の差を分析	
15	平均値の違いを調べる（3）	仮説検定の手法で平均値の差を分析	
16	期末考査	知識・技能の習得状況を確認する	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：山内光哉 2012 『心理・教育のための統計法』第3版 サイエンス社 ¥2550+税		
	学びの手立て ①履修の心構え：コンピュータ・リタラシーを習得していることが望ましい。理論の学習と計算作業が中心となります。 ②学びを深めるために：演習問題の課題を多数課します。しっかりと集中して課題に取り組みましょう。「心理統計学基礎」を履修していることが望ましい。		
	評価 評価方法：振り返りテストと期末テストの試験点数の合計を100点満点に換算しその60%、その都度の宿題や課題の実績を100点満点に換算しその40%、を合計した得点により評価する。テストは知識・理解に関する第1部と筆算およびパソコンを利用した演算を主とする第2部に分ける。第2部は、テキスト、ノート、参考書の持ち込みができます。受験者同士で相談することも許可します。ただし正解は個人によって異なる形式で出題されます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 このクラスで習得した統計学的分析の知識・技能を駆使して、専門の心理学関連論文をより深く読み取れるようにしましょう。また、「心理統計学Ⅱ」への学習に発展させましょう。卒業論文のための調査研究で得られたデータの分析に活用できることが期待されます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 亘武	2年	pyoshiro@nirai.ne.jp講義前日までにご連絡ください。	

学びの準備	ねらい 実験・観察データの統計的分析技法について知識と技術すなわち統計リタラシーを習得します。統計分析用のソフト（SPSS）の運用力を身につけます。	メッセージ 数量的に事象を観察し解釈する経験をしましょう。「計算する」という地味な作業をしながら「わかる」楽しみを体験しましょう。
	到達目標 各種の統計的分析の技法について学び、運用技能を習得することを目的としています。分析手法に関する理論的側面の理解と演算の演習を通してデータの分析を試みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと統計分析ソフト（SPSS）を使ってみる。	テキスト第1章を読む
	2	測定するためのモノサシ（尺度）とは？	尺度、その特徴について例示する
	3	基本統計量	基本統計量とは何か、まとめる
	4	分散と標準偏差の理論と演算（1）	基本統計量を求める
	5	分散と標準偏差の理論と演算（2）	基本統計量を求める
	6	分散と標準偏差の理論と演算（3）	基本統計量を求める
	7	正規分布とデータの標準化	テキスト第5章を読む
	8	中間的まとめと振り返り	前回までの講義について振り返る
9	データの散布と相関係数	第6章を読む、計算式を確認する	
10	相関と直線回帰分析	回帰方程式の成り立ちを調べる	
11	仮説検定（1）	帰無仮説、対立仮説について知る	
12	仮説検定（2）	第8章仮説検定の流れを辿る演習	
13	平均値の違いを調べる（1）	平均値の違いの分析法を知る	
14	平均値の違いを調べる（2）	仮説検定の手法で平均値の差を分析	
15	平均値の違いを調べる（3）	仮説検定の手法で平均値の差を分析	
16	期末考査	知識・技能の習得状況を確認する	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：山内光哉 2012 『心理・教育のための統計法』第3版 サイエンス社 ¥2550+税		
	学びの手立て ①履修の心構え：コンピュータ・リタラシーを習得していることが望ましい。理論の学習と計算作業が中心となります。 ②学びを深めるために：演習問題の課題を多数課します。しっかりと集中して課題に取り組みましょう。「心理統計学基礎」を履修していることが望ましい。		
	評価 評価方法：振り返りテストと期末テストの試験点数の合計を100点満点に換算しその60%、その都度の宿題や課題の実績を100点満点に換算しその40%、を合計した得点により評価する。テストは知識・理解に関する第1部と筆算およびパソコンを利用した演算を主とする第2部に分ける。第2部は、テキスト、ノート、参考書の持ち込みができます。受験者同士で相談することも許可します。ただし正解は個人によって異なる形式で出題されます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 このクラスで習得した統計学的分析の知識・技能を駆使して、専門の心理学関連論文をより深く読み取れるようにしましょう。また、「心理統計学Ⅱ」への学習に発展させましょう。卒業論文のための調査研究で得られたデータの分析に活用できることが期待されます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 亘武	2年	pyoshiro@nirai.ne.jp講義前日までにご連絡ください。	

学びの準備	ねらい 実験・観察データの統計的分析技法について知識と技術すなわち統計リタラシーを習得します。統計分析用のソフト（SPSS）の運用力を身につけます。	メッセージ 数量的に事象を観察し解釈する経験をしましょう。「計算する」という地味な作業をしながら「わかる」楽しみを体験しましょう。
	到達目標 各種の統計的分析の技法について学び、運用技能を習得することを目的としています。分析手法に関する理論的側面の理解と演算を通してデータの分析を試みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと診断的振り返り	既有知識の確認
	2	分散分析（1）分散分析の概念	テキスト第10章を読む
	3	分散分析（2）一元配置分散分析の演算法	テキスト第10章を読む
	4	分散分析（3）一元配置分散分析の演習	テキスト第10章を読む
	5	分散分析（4）分散分析と多重比較	テキスト第10章を読む
	6	分散分析（5）二元配置分散分析	テキスト第11章を読む
	7	分散分析（6）二次元配置分散分析と交互作用	テキスト第11章を読む
	8	中間的まとめと振り返り	テキスト第10、11章の振り返り
	9	カイ二乗検定（1）適合度の検定	テキスト第12章を読む
	10	カイ二乗検定（2）独立性の検定	テキスト第12章を読む
	11	カイ二乗検定（3）比率の等質性の検定	テキスト第12章を読む
	12	カイ二乗検定（4）カイ二乗の応用	テキスト第12章を読む
	13	様々な相関：相関の差の検定、多変量回帰分析	平テキスト第14章を読む
	14	因子分析入門	ネットで因子分析について下調べ
15	因子分析を用いた論文の研究	因子分析の適用例を読む	
16	期末考査	知識・技能の習得状況を確認する	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：山内光哉 2012 『心理・教育のための統計法』第3版 サイエンス社 ¥2550+税（「心理統計学Ⅰ」で使用したテキスト統計分析）			
学びの手立て ①統計分析手法の学習と計算作業が中心となります。 ②学びを深めるために：演習問題の課題を多数課されます。しっかりと集中して課題に取り組みましょう。「心理統計学基礎」を履修していることが望ましい。			
評価 評価方法：振り返りテストと期末テストの試験点数の合計を100点満点に換算しその60%、その都度の宿題や課題の実績を100点満点に換算しその40%、を合計した得点により評価する。テストは知識・理解に関する第1部と筆算およびパソコンを利用した演算を主とする第2部に分ける。第2部は、テキスト、ノート、参考書の持ち込みができます。受験者同士で相談することも許可します。ただし正解は個人によって異なる形式で出題されます。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 このクラスで習得した統計学的分析の知識・技能を駆使して、専門の心理学関連論文をより深く読み取れるようにしましょう。また、卒業論文のための調査研究で得られたデータ等の分析に活用できることが期待されます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 亘武	2年	pyoshiro@nirai.ne.jp講義前日までにご連絡ください。	

学びの準備	ねらい 実験・観察データの統計的分析技法について知識と技術すなわち統計リタラシーを習得します。統計分析用のソフト（SPSS）の運用力を身につけます。	メッセージ 数量的に事象を観察し解釈する経験をしましょう。「計算する」という地味な作業をしながら「わかる」楽しみを体験しましょう。
	到達目標 各種の統計的分析の技法について学び、運用技能を習得することを目的としています。分析手法に関する理論的側面の理解と演算の演習を通してデータの分析を試みます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと診断的振り返り	既有知識の確認
	2	分散分析（1）分散分析の概念	テキスト第10章を読む
	3	分散分析（2）一元配置分散分析の演算法	テキスト第10章を読む
	4	分散分析（3）一元配置分散分析の演習	テキスト第10章を読む
	5	分散分析（4）分散分析と多重比較	テキスト第10章を読む
	6	分散分析（5）二元配置分散分析	テキスト第11章を読む
	7	分散分析（6）二次元配置分散分析と交互作用	テキスト第11章を読む
	8	中間的まとめと振り返り	テキスト第10、11章の振り返り
	9	カイ二乗検定（1）適合度の検定	テキスト第12章を読む
	10	カイ二乗検定（2）独立性の検定	テキスト第12章を読む
	11	カイ二乗検定（3）比率の等質性の検定	テキスト第12章を読む
	12	カイ二乗検定（4）カイ二乗検定の応用	テキスト第12章を読む
	13	様々な相関：相関の差異の検定、多変量回帰分析	平テキスト第14章を読む
	14	因子分析入門	ネットで因子分析について調べ
15	因子分析を用いた論文の研究	因子分析の適用例を読む	
16	期末考査	知識・技能の習得状況を確認する	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：山内光哉 2012 『心理・教育のための統計法』第3版 サイエンス社 ¥2550+税（「心理統計学Ⅰ」で使用したテキスト統計分析）			
学びの手立て ①統計分析手法理論の学習と計算作業が中心となります。 ②学びを深めるために：演習問題の課題を多数課します。しっかりと集中して課題に取り組みましょう。「心理統計学基礎」を履修していることが望ましい。			
評価 評価方法：振り返りテストと期末テストの試験点数の合計を100点満点に換算しその60%、その都度の宿題や課題の実績を100点満点に換算しその40%、を合計した得点により評価する。テストは知識・理解に関する第1部と筆算およびパソコンを利用した演算を主とする第2部に分ける。第2部は、テキスト、ノート、参考書の持ち込みができます。受験者同士で相談することも許可します。ただし正解は個人によって異なる形式で出題されます。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 このクラスで習得した統計学的分析の知識・技能を駆使して、専門の心理学関連論文をより深く読み取れるようにしましょう。また、卒業論文のための調査研究で得られたデータの分析に活用できることが期待されます。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本科目では児童家庭福祉の基礎を学ぶことにより、子どもに現れてくる諸問題に対し効果的に対応できる能力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実際等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。</p>	<p>常日頃から、社会で起こる子どもに現れてくるの諸問題に関心をもってほしい。また、子どもやその保護者のもつ「真」のニーズは何かについて考えること。</p>
到達目標	子どもに現れてくる諸問題を多角的に捉えることができ、保護者(家庭)を含めた支援の方法を理解する。また、福祉機関をはじめとする関係機関等との連携の在り方も把握する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>①オリエンテーション ②現代社会と子ども家庭 その1 ③現代社会と子ども家庭 その2 ④子どもと家庭福祉とは何か その1 ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2 ⑥子どもと家庭福祉とは何か その3 ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1 ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2 ⑨子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3 ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1 ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2 ⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3 ⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 その4 ⑭子ども家庭への援助活動 ⑮振り返り ⑯テスト</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会 編集(最新年)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(最新版)』、中央法規。 ミネルヴァ書房編集部(最新年)：『社会福祉小六法 最新年版』、ミネルヴァ書房。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業に対して、積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業の最後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、児童虐待、不登校、障がい等)で構わないので、毎日「新聞」に目を通しスクラップして下さい。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。また、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられないので、注意すること。なお、スクラップの提出は任意だが、加点する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「スクールソーシャルワーク論」やその他社会福祉士関連科目とのつながりを意識すること。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人格心理学	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-榎木 宏之	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎心理学であり、個別性を重視する独自の視点を有する 人格・性格・パーソナリティという『その人らしさ』という個別性を重視する学問の成り立ちと現在進行形で発展している部分も理解する。	「個性とは一体何か？」ということを経験的な視点で多面的に見てみませんか？
到達目標	本講義では、「その人らしさ」を特徴づけるパーソナリティ（人格）に着目し、個人差のあるパーソナリティはどこに由来し、いかに測定されるのかを理解する。また、適応・不適応的なパーソナリティのあり方について心理学の諸理論を通して理解する。さらに、最近のパーソナリティ研究の動向を紹介し、「その人らしさ」を心理学的に探究する視点の獲得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回 オリエンテーション：パーソナリティとは何か	
	2	第2回 類型論と特性論（1）	
	3	第3回 類型論と特性論（2）	
	4	第4回 パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（1）	
	5	第5回 パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（2）	
	6	第6回 パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（3）	
	7	第7回 気質・脳とパーソナリティの関係	
8	第8回 パーソナリティの発達（1）		
9	第9回 パーソナリティの発達（2）		
10	第10回 パーソナリティのしくみと適応（1） - 精神力動論 -		
11	第11回 パーソナリティのしくみと適応（2） - 学習理論・社会認知理論 -		
12	第12回 パーソナリティと対人関係		
13	第13回 パーソナリティの病理		
14	第14回 文化とパーソナリティ		
15	第15回 パーソナリティの探究- 人格心理学の研究 -		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：指定なし。講義は主に配布資料を用いて行う。 ・【参考文献】 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊（2003）『性格心理学への招待 [改訂版] ～自分を知り他者を理解するために～』サイエンス社。		
	学びの手立て ・履修上の注意事項：遅刻や欠席をしないこと		
	評価 ・テスト、出席状況、受講態度を総合的に判断して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・毎回の講義で獲得するパーソナリティに関する理解を定着させるためにも、復習は重要である。 ・文学、芸術などにおける人間の営みにも触れることで、感受性を養うことも、心理学に対する理解に深みをもたらすと思われる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人体の構造と機能及び疾病	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉 (2) -石川 清司 (14)	2年	授業終了後に質問の時間を設定する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会福祉士国家資格取得を目指す。特に、医療現場において相談業務等を希望する者が、「人体の構造と機能及び疾病」について学習することによって、医療全般の基本的知識を習得することを目的とする。</p>	<p>社会福祉士が多職種とのチームで行動する際に、肉体的課題（病気・障がい）、精神的課題（こころ）、社会的課題（くらし）の全体を視野に入れて個々の問題の解決・調整・支援をするための基本姿勢を培うこととなります。</p>
到達目標	<p>1、人の成長・発達・老化を自然の流れとしてとらえることができる。2、身体の構造と機能の基本的仕組みがわかる。3、生活習慣病と日常生活における健康管理の必要性がわかる。4、社会生活に支障をきたす障がいとその対応策を知る。5、自らの健康管理に関する知識と人生観・社会観の確立をめざす。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	本学習の目的
2	身体の成長・発達と老化（医学概論）	学習の全体像	
3	身体構造と心身の機能	人の解剖と生理	
4	生活習慣病	生活習慣病とはなにか	
5	悪性新生物	がんと検診	
6	脳血管疾患・心疾患・高血圧	動脈硬化と病気	
7	糖尿病・内分泌・呼吸器・消化器疾患	病気と喫煙	
8	血液・腎・泌尿器疾患・膠原病	貧血、腎臓の働きと病気	
9	骨・関節・目・耳の病気・感染症	現代の感染症	
10	神経疾患と難病・先天性疾患・高齢者の病気	神経難病	
11	終末期医療	死とどう向き合うか	
12	視覚・聴覚・平衡機能・内部障害と肢体不自由	めまい	
13	知的・発達・高次機能・精神障害と認知症	増える認知症	
14	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの位置づけ	
15	健康のとらえ方・まとめ	まとめ	
16	期末試験	評価	
実践	テキスト・参考文献・資料など	新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」中央法規	
	学びの手立て	1、教科書中心の講義につき、指定された教科書を何度も読み返す。2、ノート of 整理は講義振り返りに重要である。3、一般教養としての知識を得る姿勢が必要である。	
	評価	社会福祉士の業務は他職種との共同作業です。情報収集とその整理は基本です。授業への出席と知識の整理で評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1)関連科目：保健医療サービス (2) 次のステージ：豊かな教養と「傾聴」の姿勢が求められるため、政治・経済・文学・哲学等貪欲に学ぶ。

※ポリシーとの関連性

本科目ではスクールソーシャルワークの基礎を学ぶことにより、子どもに現れてくる諸問題に効果的に対応できる能力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	スクールソーシャルワーク論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにスクールソーシャルワーク(以下、SSW)の基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。</p>	<p>現在の学校現場で何か起こっているのか関心をもちながら、受講してほしい。特に子どもの貧困や児童虐待が子どもの心身に与える影響について学ぶこと。</p>
到達目標	<p>学校現場で生じる子どもに現れてくる諸問題を把握する。また、子どもやその保護者(家庭)への支援について理解する。その際、教育委員会、児童相談所、福祉事務所等関係機関との連携のあり方も身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の目的、沖縄県のSSWr配置事業の現状等	※毎回復習を行うこと。
	2	学校における現代的課題 その1	
	3	学校における現代的課題 その2	
	4	SSWとは？ その1	(DVD視聴①) ➡レポートの提出
	5	SSWとは？ その2	
	6	SSWとは？ その3	
	7	SSWの歴史と動向	
8	学校教育の特徴		
9	教育(学校)が連携する機関とその機能		
10	SSWの基礎理論		
11	SSWの展開過程 その1	(DVD視聴②) ➡レポート提出	
12	SSWの展開過程 その2		
13	SSW実践 その1	(SSWrの講演) ➡レポートの提出	
14	SSW実践 その2		
15	SSWの課題と展望		
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>山野・野田・半羽編著(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。 山下ほか編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』学苑社。門田・奥村監修(2014)：『スクールソーシャルワーカー実践事例集』中央法規。米川編著(2015)：『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房。</p>		
学びの手立て	<p>授業に対して、積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業の最後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、子どもの貧困、児童虐待、不登校、障がい等)で構わないので、毎日「新聞」に目を通しスクラップして下さい。</p>		
評価	<p>授業態度、出欠状況、レポート及び学期末試験を総合して評価を行う。スクラップの提出は任意だが加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「スクールソーシャルワーカー認定資格」の指定科目である「スクールソーシャルワーク演習」「スクールソーシャルワーク実習指導」につながる。ただし、同科目に進むには、各種課題に取り組むなどして選抜されなければならない。詳しくは、『履修ガイド』参照のこと。</p> <p>関連科目：上記スクールソーシャルワーク関連科目の他、社会福祉士関連科目。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ストレス・マネジメント	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田(4) 神谷勝也(3) 滝友秀(2) 石田知士(2) 赤嶺遼太郎(2) 内藤子(2) 宮良尚子(1)	2年	上田まで	

学びの準備	ねらい 心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスの基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的支援技法について学ぶ。	メッセージ
	到達目標 受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対処し、自らの心身の健康の維持増進に学んだことを活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/ストレスとは何か	
	2	ストレスと身体・ストレス関連疾患	
	3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因	
	4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究	
	5	ストレス援助要因②対人関係とその研究	
	6	ストレスの測定と評価	
	7	対処法/リラクゼーション総論	
	8	理論：自律訓練法	
9	実技：自律訓練法	自律訓練法	
10	理論と実技：呼吸法	呼吸法	
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想	マインドフルネス瞑想	
12	理論：動作法		
13	実技：動作法		
14	理論と実技：認知行動療法①		
15	理論と実技：認知行動療法②		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 図解雑学ストレス ナツメ社 中野敬子著 ストレスマネジメント入門 金剛出版 日本ストレス学会編 ストレス科学事典 実務教育出版		
	学びの手立て 講義に出てくるストレス対処技法は実際に自分でやってみること。		
	評価 出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 生理心理学 臨床心理学 行動療法
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神疾患とその治療	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝 他オムニバス(社会人講師)	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい この講義では、いわゆる「精神医学」と言われる学問分野の基礎編を中心に講義します。福祉や心理実践において必要最低限の知識を提供していきます。	メッセージ さまざまな実践分野に応用可能な精神医学の知識を共有していきたいと思っています。
	到達目標 ①精神医学総論の習得 ②精神医学各論・疾病論の習得 ③精神医学の知識を実際の事例への応用の習得	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書第1章及び第2章
	2	精神医学論・精神障害の理解 1	教科書第1章及び第2章
	3	精神医学論・精神障害の理解 2	教科書第1章及び第2章
	4	精神疾患の症状と診断	教科書第3章
	5	器質性精神障害 1	教科書第4章第1節
	6	器質性精神障害 2	教科書第4章第1節
	7	精神物質使用による精神及び行動の障害 1	教科書第4章第2節
	8	精神物質使用による精神及び行動の障害 2	教科書第4章第2節
	9	統合失調症 1	教科書第4章第3節
	10	統合失調症 2	教科書第4章第3節
	11	精神疾患の治療	教科書第5章
	12	精神科医療機関の治療構造及び専門病棟・精神科治療における人権 1	教科書第6章、第7章、第8章
	13	精神科医療機関の治療構造及び専門病棟・精神科治療における人権 2	教科書第6章、第7章、第8章
	14	気分障害 1	教科書第4章第4節
	15	気分障害 2	教科書第4章第4節
	16	神経症障害、ストレス関連障害等 1	教科書第4章第5節
	17	神経症障害、ストレス関連障害等 2	教科書第4章第5節
	18	成人のパーソナリティおよび行動の障害他	教科書第4章第6節、第7節
	19	児童精神医学 1	教科書第4章第8節～第10節
	20	児童精神医学 2	教科書第4章第8節～第10節
	21	児童精神医学 3	教科書第4章第8節～第10節
	22	EPAと精神医学 1	事前の資料学習
	23	EPAと精神医学 2	事前の資料学習
	24	ジェンダーと精神医学 1	事前の資料学習
	25	ジェンダーと精神医学 2	事前の資料学習
	26	触法精神医学 1	事前の資料学習
	27	触法精神医学 2	事前の資料学習
	28	精神医学と地域実践 1	事前の資料学習
	29	精神医学と地域実践 2	事前の資料学習
30	精神医学と地域実践 3	事前の資料学習	
31	講義のまとめ・試験	講義の復習	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座1 精神疾患とその治療』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

※ポリシーとの関連性 「学科カリキュラムポリシー1の「社会福祉専門職を養成する教育」と2の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。」 [/]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神障害者の生活支援システム	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-兼浜 克弥	2年	ptt960@okiu.ac.jp にて受け付けします。	

学びの準備	ねらい 障害の概念をICFの視点から理解すると同時に、精神障害者の生活実態やニーズを把握し、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための生活支援システムを精神障害当事者と同じ視点に立ちながら、共に生き方を模索するという『精神保健福祉士』としての具体的な活動のポイントをマスターする。	メッセージ 精神障害者の生活支援について必要な基礎知識を学びながら、普段意識することのない「私たちの生活」を感じた時に気付く「人間らしく生きること」を学びます。
	到達目標 精神保健福祉士として、精神障害者をサポートしていく上で必要なスキルを獲得し、精神疾患になっても安心して生活できる社会のあり方を理解する。「もしも自分が精神障害者になったら・・・」という視点を大事に支援活動を行うことで、人間らしく生きるために必要な気づきを獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 講義の目的について	
	2	精神障害者の概念①	
	3	精神障害者の概念②	
	4	精神障害者の生活の実際①	
	5	精神障害者の生活の実際②	
	6	精神障害者の生活と人権	
	7	精神障害者の地域生活支援システム①	
	8	精神障害者の地域生活支援システム②	
9	精神障害者の居住支援①		
10	精神障害者の居住支援②		
11	精神障害の雇用・就業支援①		
12	精神障害の雇用・就業支援②		
13	行政における相談援助		
14	精神障害当事者との語らい①		
15	精神障害当事者との語らい②		
16	まとめ 試験またはレポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など ①統合失調症を持つ人への援助論～人とのつながりを取り戻すために 向谷地 生良 金剛出版 ②精神障害者の生活支援システム 日本精神保健福祉養成校協会 編集 ①をテキストとして使用します。講義内で読み合せしながら、精神障害者へのまなざしのコツを学びます。 ②精神保健福祉士として精神障害者を支援するために必要な基礎知識を学びます。(資料配布)		
	学びの手立て 講義参加者が感じたことを発言しやすい席の配置を工夫します。 講義内で把握した専門用語について、インターネット検索などを活用しながら再確認して頂く。 精神障害者の生活支援の現状の課題などを動画を通してさらに理解を深める。 精神障害者の生活支援における課題とは何か？その課題解決のために何が必要なのか？ 講義を通して感じた「？：疑問」を大事にしてもらいたい。		
	評価 出席、課題、講義中の参加態度（50%）、試験またはレポート（50%）によって評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義後半もしくは講義終了後に予定される現場実習にて感じる「？：疑問」と講義内容で感じた疑問「？：疑問」はどのように違うのか？その違いはなぜ起こったのか？を検証するために、『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』を履修することを勧めます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健の課題と支援	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 浩樹	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっています。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていただくような講義になります。</p>	<p>これまで社会福祉の対象としてきた高齢者や障害者だけではなく、職場や学校でのストレス・不応等のために精神的不調に陥り、支援実践の対象となってきている人達も少なくありません。身近な精神保健について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解がすすむ ②精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解がすすむ ③地域における精神保健実践について考えることができるようになる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書p2～p15を
	2	精神保健の概要と課題1	教科書p2～p16を
	3	精神保健の概要と課題2	教科書p2～p17を
	4	精神保健の概要と課題3	教科書p2～p18を
	5	精神の健康とその要因1	教科書p16～p51
	6	精神の健康とその要因2	教科書p16～p51
	7	精神の健康とその要因3	教科書p16～p51
	8	精神の健康への関与と支援1	教科書p52～p75
	9	精神の健康への関与と支援2	教科書p52～p75
	10	精神の健康への関与と支援3	教科書p52～p75
	11	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ1	教科書p76～p125
	12	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ2	教科書p76～p125
	13	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ3	教科書p76～p125
	14	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ4	教科書p76～p125
	15	前期のまとめ・前期試験	前期講義の復習
	16	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ1	教科書p126～p169
	17	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ2	教科書p126～p169
	18	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ3	教科書p126～p169
	19	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ1	教科書p170～205
	20	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ2	教科書p170～205
	21	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ3	教科書p170～205
	22	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割1	教科書p206～255
	23	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割2	教科書p206～255
	24	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割3	教科書p206～255
	25	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ1	教科書p256～299
	26	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ2	教科書p256～300
	27	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ3	教科書p256～301
	28	地域精神保健に関する諸活動1	教科書p300～325
	29	地域精神保健に関する諸活動2	教科書p300～326
30	諸外国の精神保健活動の現状および対策	教科書p326～341	
31	講義のまとめ・学期末テスト	1年間の講義の復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 精神保健の分野には多様性があります。是非自分の興味のある分野を特定できていくといいかと思います。</p>
学 び の 継 続	<p>評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 忍(8回)、真栄平 努(8回)	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい この講義は主に精神保健福祉士を目指している学生に対して、精神保健福祉士としての実践の基本的な視点を身につけてもらうための内容となっています。社会福祉の中でも、精神障害者を中心とした人達との共存のありかたを考えることのできる講義にしていきます。	メッセージ 精神障害者への「支援」ではなく、「共存」の在り方を考えていける講義であればいいと思っています。
	到達目標 ①社会福祉実践の基礎的な視点を持てるようになる。 ②精神障害者が障害・疾患を抱えて生きる現実と生きづらさへの共感的視点を養う。 ③精神医療・保健・福祉・教育をはじめとする、様々な関連機関の実践の現状（連携協力とすれちがい）についてとらえることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書p2～37
	2	精神保健福祉士の役割と意義1	教科書p2～37
	3	精神保健福祉士の役割と意義2	教科書p2～37
	4	社会福祉士の役割と意義1	教科書p38～53
	5	社会福祉士の役割と意義2	教科書p38～53
	6	相談援助の価値と理念1	教科書p78～97
	7	相談援助の価値と理念2	教科書p78～97
	8	相談援助の形成過程1	教科書p98～135
9	相談援助の形成過程2	教科書p98～135	
10	精神保健福祉分野における相談援助の体系1	教科書p136～165	
11	精神保健福祉分野における相談援助の体系2	教科書p136～165	
12	精神保健福祉分野における相談援助の体系3	教科書p136～165	
13	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲	教科書p166～205	
14	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲	教科書p206～255	
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携	教科書p256～289	
16	講義のまとめ・試験	今期の講義の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
	学びの手立て		
	評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉に関する制度とサービス	通年	火6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	熊谷 晋 (17)、比嘉 俊江 (11)、唐木 増久 (3)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 精神疾患のケアや再発の予防だけでなく、精神疾患を患いつつも結婚や子育てなど日常生活をどのように支えるか実践事例などの活用しながら、今後の精神保健福祉のありかたや、支援者として制度・サービスをどのように活かすことが求められているかを考察する。	メッセージ 近年、福祉制度はより良い制度を目指しながら法改正を繰り返している。その制度を扱う支援者の関わり方が支援へ大きく影響を与えることから、講義では制度の理解と、制度があることの意味を検討する。
	到達目標 精神保健福祉制度やサービスの利用が該当するかどうかという判断力だけでなく、支援を提供することで支えられることと、支援を提供することで失うものなど、日常生活や社会的環境との相互関係を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神障害者のおかれている状況について -精神医療の現場から-	
	2	精神障害者の相談援助活動について -歴史・Y問題-	
	3	精神障害者の相談援助活動について	
	4	精神保健福祉法の成立まで -経過・意義・その後-	
	5	精神保健福祉法の成立まで -経過・意義・その後-	
	6	精神保健福祉法について -法律の概要-	
	7	精神保健福祉法について -法律の概要-	
	8	社会保障制度の概要 -医療保険・介護保険-	
	9	経済的支援に関する制度 -生活保護・年金等-	
	10	経済的支援に関する制度 -生活保護・年金等-	
	11	再考 -精神障害者のおかれている状況について-	
	12	地域生活をする精神障害者の現状と課題	
	13	地域生活を支える制度やサービスの目的	
	14	地域生活を支える制度やサービス利用について	
	15	支援者と当事者の関係性について	
	16	支援者と当事者の関係性について	
	17	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
	18	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
	19	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
	20	制度という枠組みからこぼれてしまう課題のジレンマ	
	21	制度という枠組みからこぼれてしまう課題のジレンマ	
	22	複数の制度にまたがる課題への支援	
	23	複数の制度にまたがる課題への支援	
	24	地域に求められ鶴精神保健福祉を事例をもとに考察する	
	25	地域に求められ鶴精神保健福祉を事例をもとに考察する	
	26	再考 地域生活を支えるとはなにか	
	27	地域支援についてレポートにまとめる	
	28	医療観察法の概要	
29	社会復帰調整官の役割		
30	社会復帰調整官と地域支援		
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義では下記のことを教科書として使用します。</p> <p>新・精神保健福祉士養成講座6「精神保健福祉に関する制度とサービス」 中央法規 ￥2,700（税別） 制度を理解するために「障害者総合支援法とは・・・」 東京都社会福祉協議会 ￥400（税別）</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 講義形式とグループディスカッションを併用してカリキュラムを進めていきます。そのために制度とサービスの概要だけでなく、学生同士での意見交換を求め、相談援助として必要なコミュニケーションを意識して下さい。</p> <p>評価は、基本的に出席状況を重視します。</p>
	<p>評価 各、講師が求めるレポート提出30%、出席状況70%。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	通年	火6・木5	8
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名孝・山城涼子・諸留将人・安村勤・他	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい 精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害(者)とどのように向き合うべきかを考えていく講義です。精神障害を抱える人達とその家族を支えていく福祉職にとって基本的な視点を与える講義となります。	メッセージ 精神障害者を抱えるのは本人と家族だけではありません。私たち社会が、精神障害者どう共存するかということは、私たち社会が抱える精神障害であり、精神疾患なのです。社会の一員として避けてはいけない問題として考えていく必要があります。
	到達目標 ①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的支援方法を以下に適応するかについての「支援のコツ」について習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神保健医療福祉の歴史と動向 (※講義は週2コマで、1週2コマ分のテーマを標記)	教科書1第1章
	2	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
	3	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
	4	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章
	5	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章
	6	医療機関における精神科リハビリテーションの展開	教科書1第5章
	7	医療機関における精神科リハビリテーションの展開	教科書1第5章
	8	精神障害者支援の実践モデル	教科書1第6章
	9	相談援助の過程及び対象との援助関係	教科書1第7章
	10	相談援助活動のための面接技術・スーパービジョンとコンサルテーション	教科書1第8章、第9章
	11	相談援助活動のための面接技術・スーパービジョンとコンサルテーション	教科書1第8章、第9章
	12	事例検討	
	13	相談援助活動の展開	教科書2第1章
	14	相談援助活動の展開	教科書2第1章
	15	前期の振り返り・学期末テスト	
	16	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章
	17	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章
	18	地域移行の対象及び支援体制	教科書2第3章
	19	地域移行の対象及び支援体制	教科書2第3章
	20	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書2第4章
	21	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書2第4章
	22	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	教科書2第5章
	23	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	教科書2第5章
	24	精神障害者のケアマネジメント	教科書2第6章
	25	精神障害者のケアマネジメント	教科書2第6章
	26	地域を基盤にした支援とネットワーク	教科書2第7章
	27	地域を基盤にした支援とネットワーク	教科書2第7章
	28	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	教科書2第8章
29	事例検討		
30	事例検討		
31	テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健の理論と相談援助の展開 I・II』日本精神保健福祉士養成校協会編 集中法規出版</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生理心理学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説する。生理心理学のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。本講義では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。	メッセージ どのような領域を専門に学んでいくにも、脳や神経の基礎を知っておいて損はありません。脳の話は難しそう、と尻込みせず楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 脳と神経の構造と機能について概説できる。また人間の精神活動に対する生理心理学のアプローチの仕方を理解し、興味や関心を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 生理心理学とは	シラバスを読むこと
	2	脳の構造①	資料の見直し, コメントを読むこと
	3	脳の構造②	同上 及び復習テスト
	4	ニューロンとシナプス①	資料の見直し, コメントを読むこと
	5	ニューロンとシナプス②	同上 及び復習テスト
	6	感覚・知覚と脳①	資料の見直し, コメントを読むこと
	7	感覚・知覚と脳②	同上
	8	運動と脳①	同上
9	運動と脳②	同上 及び復習テスト	
10	本能と脳①	資料の見直し, コメントを読むこと	
11	本能と脳②	同上	
12	情動と脳①	同上	
13	情動と脳②	同上	
14	自律神経系及び内分泌系と脳①	同上	
15	自律神経系及び内分泌系と脳②	同上 及び復習テスト	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。指定図書「脳とこころの不思議な関係 生理心理学入門」古川聡他 川島書店 「バイオサイコロジー」ビネル 西村書店。その他、参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 生理心理学 I・II の順で続けて履修することが望ましい。毎回、講義終了時に、質問・感想・発見等を書いて提出してもらいます。次回の講義時にそれらに対するコメント返しを配布します。疑問点や気づきを皆で共有し、理解を深める助けにしてください。また、単元ごとに復習テストを配布しますので、授業外学習に利用してください。脳損傷の話や脳の画像などが講義では出てきます。万が一気分が悪くなった場合は、退室し、気分転換してから教室に戻っても構いません。		
	評価 期末試験 (1回) 及びレポート (1本) の結果によって評価する。(試験8割, レポート2割) 試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 メディアで脳の話は頻繁に取り上げられています。その中には非科学的なものも多々含まれています。学んだ基礎知識と科学的な思考で情報を吟味し、さらなる興味を持って接して行って下さい。また、この講義で学んだ脳や神経の基礎知識を基に、「生理心理学II」ではいくつかの個別のテーマを取り上げ、より理解を深めていきます。
-------	--

※ポリシーとの関連性 人間のこころや行動を生理学的に考え、理解するための知識を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生理心理学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 生理心理学とその関連領域に関するいくつかの個別のテーマを取り上げ、最新の知見を交えながら解説する。	メッセージ 生理心理学のテーマは、薬物依存など比較的身近なものから、脳波のように日常生活ではあまり触れる機会のないものまで多岐に渡りますが、難しそう、と尻込みせず楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 失語症や薬物依存といった比較的身近な事象について、その種類や特徴、メカニズムを説明できるようになる。また、脳波や筋電図といった重要な生理心理学的指標について、メカニズムや分析法を理解し、利用法について説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読むこと
	2	薬物と脳①（薬物のタイプと依存）	資料の見直し、コメントを読むこと
	3	薬物と脳②（オピオイド、覚醒剤）	同上
	4	薬物と脳③（アルコール）	同上、及び復習テスト
	5	言語とラテラルリティ①（ラテラルリティのテスト法）	資料の見直し、コメントを読むこと
	6	言語とラテラルリティ②（言語野と失語症）	同上
	7	言語とラテラルリティ③（言語機能と性差）	同上
	8	言語とラテラルリティ④（右半球症状からみた半球機能差）	同上、及び復習テスト
9	脳波①（測定法、分析法）	資料の見直し、コメントを読むこと	
10	脳波②（基本の脳波と異常脳波）	同上	
11	脳波③（睡眠時の脳波及び脳波の利用）	同上	
12	事象関連電位、特にP3の特徴と利用	同上、及び復習テスト	
13	筋電図①（測定法）	資料の見直し、コメントを読むこと	
14	筋電図②（バイオフィードバック）	同上	
15	筋電図③（表情の分析）	同上、及び復習テスト	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。指定図書「脳とこころの不思議な関係 生理心理学入門」古川聡他 川島書店、「バイオサイコロジ」ビネル 西村書店、「脳波の旅への誘い」市川忠彦 星和書店。その他、参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 脳や神経の基礎を学ぶ「生理心理学Ⅰ」を先に履修しておくことが望ましいが、Ⅱから履修した場合も理解できるよう、随時おさらいをしながら講義を進めます。毎回、質問・感想・発見等を書いて提出してもらい、次回の講義時にそれらに対するコメント返しを配布するので疑問点等を皆で共有し、理解を深める助けにして下さい。また単元ごとに復習テストを配布しますので、授業外学習に利用すること。脳損傷の話や脳の画像などが講義では出てきます。万が一気分が悪くなった場合は、退室し、気分転換をしてから教室に戻っても構いません。		
	評価 期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果によって評価する。（試験8割、レポート2割）試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 様々な人間の行動や思考について、生理学的な見地から考察してみる態度をさらに磨いていって下さい。講義内では十分に取り上げることのできなかつたテーマ（ストレス、感情、体内時計など）についても自分で調べてみるとよい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年	講義中に受け付ける オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい 受け身的な学習から、主体的・能動的な知的活動の姿勢を育てる 学んだ知識や収集した事実を批判的に検討し考察する姿勢を育てる 研究活動の意味・プロセス・方法等について理解する	メッセージ ゼミには主体的・積極的に参加すること 仲間との円滑なコミュニケーションに努めること 自分なりの考えや意見を持ち、常に表明に努めること
	到達目標 事実の中から問題点を見つける能力を身につける 事実から問題点を資料化する方法を理解・修得する 得られた資料の分析方法を理解する 分析結果をまとめ、発表する方法を修得する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体について説明	講義の中で提示する
	2	相互の理解、フリーディスカッション	同上
	3	課題の可視化とまとめ	同上
	4	研究活動の進め方の理解 グループ・個人の役割・課題	同上
	5	研究計画の実際 課題グループ別活動	同上
	6	福祉現場訪問	同上
	7	図書館の活用 調査計画について	同上
	8	文献資料の検索（課題） 資料整理	同上
	9	資料のまとめ	同上
	10	課題調査の報告①	同上
	11	課題調査の報告②	同上
	12	実際の研究例（論文の実際）	同上
	13	個人別の課題について文献研究・資料の収集	同上
	14	文献研究・資料のまとめ	同上
	15	前期のまとめ・夏季休暇中の課題の提示	同上
	16	後期の講義計画・課題の提出	同上
	17	課題の報告①	同上
	18	課題の報告②	同上
	19	課題のまとめと取り組み計画	同上
	20	調査・分析計画の作成 グループによる現地調査	同上
	21	グループ別による調査 訪問調査のまとめ・資料の整理	同上
	22	グループ別活動の継続	同上
	23	調査のまとめ	同上
	24	分析の実際①	同上
	25	分析の実際②	同上
	26	まとめ作業	同上
	27	成果の報告①	同上
	28	成果の報告②	同上
29	報告書の作成	同上	
30	一年の振り返りと今後の課題の提示	同上	
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 論文の書き方・研究の進め方に関する文献を提示する その他必要に応じて講義の中で配布する</p>
	<p>学びの手立て 「実践」「理論」「研究」「研究の方法」の意味をよく理解すること 実践の課題の可視化・資料化する意味や方法を理解する 自分の課題に関連する論文数本を見つけ出し精読すること、</p>
	<p>評価 ゼミ課題への取り組み(40%) + 提出された課題の内容(40%) + ゼミ活動の姿勢(20%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年		

学びの準備	ねらい 専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習 I では、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習 II では、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマに	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1. 発達障害児への支援について：</p> <p>(1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。</p> <p>(2) 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。</p> <p>2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：</p> <p>(1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。</p> <p>(2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。</p>	<p>本科目は、「児童家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点をあてつつ、幅広く学んでください。受け身ではなくゼミ生からの積極的な提案を望む。</p>
到達目標	子どもに現れてくる諸問題を講義等で学ぶと同時に、自ら施設等に足を運ぶことにより現場の感覚を肌で感じ取る。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもの抱える問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、子どもを取りまく環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。</p> <p>ゼミでは特に「スクールソーシャルワーク」と「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。そのポイントを下記に示す。</p> <p>「スクールソーシャルワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その現状及び課題 ・諸外国の現状（英書購読含む） ・学校等関係機関訪問 等 <p>「ソーシャルワークスキル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉専門職（社会福祉士）として現場で求められるスキル（対個人・グループ）の修得 ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等 <p>なお、現場理解のためにボランティア活動及びゼミ単位での施設・機関への訪問も計画する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じ開講時に提示する。</p> <p>必要に応じ開講時に提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等と発表してもらう。そのためには、図書館を大いに活用してほしい。</p>
評価	本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度の「専門演習Ⅱ」では、より深く児童家庭福祉について学ぶ。「専門演習Ⅱ」の後半から取り組む「課題研究」を意識し学びを進めてほしい。</p> <p>関連科目：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「スクールソーシャルワーク論」等。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	2年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。分野は、貧困問題、移民問題、世界的な高齢化現象などを中心に学んでいく。後期には沖縄にある国際社会福祉組織についても学ぶ事を計画している。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする。</p>	<p>大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。学生の興味のある施設を見学できるように調整していきたい。JICA沖縄、沖縄NGOセンター等の訪問を予定している。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。</p>
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	前期オリエンテーション	
	2	グローバル化時代の意義	配付資料の精読
	3	ディスカッション	
	4	国際社会福祉をテーマにしたDVD鑑賞	
	5	国際社会福祉の位置づけ	テキスト1章の精読
	6	国際社会福祉の沿革	テキスト2章の精読
	7	国際社会福祉の課題	テキスト3章の精読
	8	国際社会における支援活動1	テキスト4章の精読
	9	国際社会における支援活動2	テキスト4章の精読
	10	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
	11	沖縄県内の国際社会福祉施設について	
	12	JICA見学ツアー（予定）	
	13	各国の社会福祉についての現状1	テキスト5章の精読
	14	各国の社会福祉についての現状2	テキスト5章の精読
	15	前期まとめ	
	16	後期オリエンテーション	
	17	発表に関するテーマ決め	
	18	発表準備1	発表準備
	19	発表準備2	発表準備
	20	発表準備3	発表準備
	21	学生による発表3	
	22	Guest LectureJICAフェスティバルについて	
	23	学生による発表1	必要資料の精読
	24	学生による発表2	必要資料の精読
	25	学生による発表3	必要資料の精読
	26	学生による発表4	必要資料の精読
	27	学生による発表5	必要資料の精読
	28	ファミリーサポートセンターについての勉強会	該当センターの情報収集
	29	ファミリーサポートセンターを訪問（予定）	
30	ゲストレクチャーによる講演（予定）		
31	後期まとめ・1年の振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川村匡由、「国際社会福祉論」 ミネルヴァ書房 を使用しながら演習を進めていく。 <p>参考文献として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲村優一, 他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年 ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規 ・その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修に関して、学生の積極的な議論に参加をして欲しい。そのためには他グループの発表の前には最低でも発表予定項目・資料等の事前精読は各自必ず行い、それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行って欲しい。この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味を持てる分野を見つけて欲しい。それが3年次の課題研究へとつながる材料となる。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況 (50%)、ゼミ内での授業態度・発表の内容 (40%)、その他 (10%) を基本とし、総合的に評価を行う。特に発表や課題については行う事が前提となるので気をつけること。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>国際フィールドワークへ参加をすすめる。 海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習 I・II」への参加も検討して欲しい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の米軍基地周辺地域におけるテーマパーク化とまちづくりをキーワードとして、沖縄都市の諸相を具体的にテーマ化し、調査研究を実践する内容とする。沖縄のテーマ化された空間の周辺地域で生活する人々の生活のありようと価値意識、そして地域社会の諸側面を取り上げ、沖縄の都市コミュニティの問題を解説する手がかりの探索を目的とする。</p>	<p>このゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。ゼミ生は必ず全員、社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、現代社会に対する洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場とする。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次（専門演習I）では、前期に社会学（とりわけ都市社会学）の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、沖縄の都市地域社会における貧困やコミュニティのあり方に関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。</p> <p>3年次（専門演習II）ゼミで、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。</p> <p>社会調査に関するゼミの共通テーマは「沖縄における基地周辺地域のテーマパーク化とコミュニティの様相および住民の価値意識」とする。調査は、沖縄島中部都市圏（主として宜野湾市、沖縄市）において対象地域を設定し、テーマ化された空間の利用頻度、愛着、まちづくりに対する価値意識、周辺地域での関係性や貧困の問題などを、世代間、ジェンダー間の相違を前提に調査項目を設定する。</p> <p>対象地域に基づいてグループ編成を行い、定量調査と定性調査を併用して行う。とくに、ディズニーリゾートの誘致計画や大型ショッピングモールが進出する宜野湾市や沖縄市において、年齢コーホートやジェンダーなどのカテゴリに基づいて調査項目を設定し調査を行う。主な調査項目は、年齢、性別、居住地域、出身地、職業等、テーマ化された空間の利用頻度や愛着、まちづくりに対する価値意識など、近隣関係の質・量、地域活動への参加の質・量、地域に対する愛着度、住み心地、地域生活に関する期待と不安、暮らしぶり・貧困等の問題とする。</p> <p>データ収集法は、宜野湾市および沖縄市において、年齢コーホートやジェンダー・カテゴリに基づいて調査項目を設定し、地域ごとにグループに分かれ、資料調査、定量調査、定性調査を行う。</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。</p>
学びの手立て	<p>ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
評価	<p>専門演習 I は、3年次「専門演習 II」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習 II</p> <p>次のステージ： 専門演習 I で身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化し、3年次の専門演習 II で行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本専門演習のねらいは、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材育成に力を入れる。	「医療の出口に福祉あり」をゼミスローガンとして演習をすすめるため、福祉に限らず、医療・保健にも関心を示してもらいたい。
到達目標	現在の保健・医療・福祉の動向を知り、それを身近な人に伝えることができる。また、社会で起きている問題点・課題を見だし、いかにすれば解決できるかを考える能力・手段を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	専門演習ガイダンス	社会の話題を調べる
	2	グループエンカウンター①仲良くなろう②だれとでも話せるようになる	コミュニケーションスキルとは①
	3	グループエンカウンター③グループで取り組む協働性を養う	コミュニケーションスキルとは②
	4	断酒会参加グループ編成	断酒会について調べる
	5	断酒会について学ぶ	アルコール依存症について調べる
	6	断酒会について学ぶ	アルコール依存症患者家族の苦悩
	7	学外講師招聘（患者会会長招聘）	家族会、患者会について調べる
	8	話題提供 認知症	認知症の疫学基礎を調べる
	9	話題提供 医療保険	認知症（医学的視点）とは
	10	話題提供 介護保険	介護保険制度とは
	11	話題提供 医療施設の種類の	医療法について調べる①
	12	話題提供 介護保険施設の種類の	医療法について調べる②
	13	生活習慣病を知ろう①	生活習慣病とは何か
	14	生活習慣病を知ろう②	具体的な疾病（生活習慣病）
	15	生活習慣病を知ろう③	興味のある生活習慣病を調べる
	16	前期振り返り	
	17	グループ課題の報告1、2グループ	グループで課題案を提案する
	18	グループ課題の報告1、2グループ	課題を報告するための調整
	19	医療施設見学グループ編成	病院機能別医療施設分類を調べる
	20	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの役割①
	21	患者様・・・	医療ソーシャルワーカーの役割②
	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）	医療ソーシャルワーカーの役割③
	23	医療に関わる社会的課題①	課題案を考える（宿題）
	24	医療に関わる社会的課題②	課題を決定する
	25	医療に関わる社会的 課題個人報告①	課題について報告準備①
	26	医療に関わる社会的 課題個人報告②	課題について報告準備②
	27	医療に関わる社会的 課題個人報告③	課題について報告準備③
	28	医療に関わる社会的 課題個人報告④	課題について報告準備④
29	医療に関わる社会的 課題個人報告⑤	課題について報告準備⑤	
30	後期振り返り		
31	1年間を振り返って		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。必要に応じて関連資料を提示する。 演習時に随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て コミュニケーション力を高めるために、つねに人と接することに心がける。また、専門演習Ⅰでは、3年生以降で課題となる、「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎を培う期間となるために、参考文献等検索システムであるOPAC等検索システムになれておく必要がある。</p>
	<p>評価 演習への出席回数、演習への個人のとりくみ、グループでの取り組み状況、意見発表の積極性、課題提出状況などに基づき総合的に評価する。なお、前期・後期それぞれの欠席数が3分の1以上あった場合には単位を与えないものとする（不可とする）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 専門演習Ⅱ、卒業演習で課題となる「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎知識を得ておく必要がある。 関連科目としては、医療保健サービス、社会保障、人体の構造と機能及び疾病がある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	通年	水 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 専門演習 I では、まず、現代社会の生活問題の背景や政策の現状、支援の課題について各自調べて発表し、今日の社会状況を共有&理解します。その上で、新たな支援システムの可能性を模索したり、異分野異業種も含め協働によるニーズ解決方法について考えていきます。	メッセージ 人口減少、社会的排除の深刻化等を受けてニーズの複雑化・高度化が進んでいます。このような社会の課題に対して社会福祉分野は何ができるのか考えていきましょう。授業時間以外にも施設訪問をして実践者から学んだり、合宿を通して議論を深めていきましょう。
	到達目標 ①社会的排除の実態と解決に向けた取り組みについて具体的事例から理解することができる。 ②協働による生活課題の解決の事例や手法について理解することができる。 ③自主企画能力を養うことができる。 ④自分の主張を伝える能力を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション①演習の内容および目標説明	内容及び目標の振り返り
	2	前期オリエンテーション②年間計画確認、ゼミ運営の話し合い	年間計画と個人の計画の確認
	3	ゼミで学ぶ上での共通認識～現代社会の特徴を理解する～	内容の振り返り
	4	個別発表の準備①発表の準備の方法	発表の準備をする
	5	個別発表の準備②資料収集の方法と実践	発表の準備をする
	6	個別発表①	発表内容を理解する
	7	個別発表②	発表内容を理解する
	8	個別発表③	発表内容を理解する
	9	個別発表④	訪問の事前学習をする
	10	訪問：特別支援学校との交流	訪問の振り返りをする
	11	個別発表⑤	発表内容を理解する
	12	個別発表⑥	発表内容を理解する
	13	個別発表⑦	発表内容を理解する
	14	個別発表⑧	発表内容を理解する
	15	個別発表⑨	発表内容を理解する
	16	前期まとめ	前期の振り返りをする
	17	後期オリエンテーション	内容及び目標の振り返り
	18	グループ研究①研究の準備の方法	発表の準備をする
	19	グループ研究②資料収集	発表の準備をする
	20	グループ研究③分析	発表の準備をする
	21	グループ研究④発表	発表の内容を理解する
	22	グループ研究⑤発表	発表の内容を理解する
	23	グループ研究⑥発表	訪問の事前学習をする
	24	訪問：NPO等訪問	訪問の振り返りをする
	25	グループ自主企画①準備の方法	企画の準備をする
	26	グループ自主企画②資料収集	企画の準備をする
	27	グループ自主企画③企画書作成	企画の準備をする
	28	グループ自主企画④企画 1 の実施	自主企画の振り返り
	29	グループ自主企画⑤企画 2 の実施	自主企画の振り返り
30	グループ自主企画⑥企画 4 の実施	自主企画の振り返り	
31	まとめ	まとめ	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て ①履修の心構え：演習は学生が主体的に参加することで成立します。切磋琢磨しながらお互いに高めあっていきましょう。そのためにも遅刻厳禁、出席も重視します。 ②学びを深めるために：積極的にボランティア活動をしていきましょう。また、施設訪問をしたり講演会や研修に出席したりして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 個別発表の内容（30%）、グループ学習の内容（30%）、グループ企画の取組み状況（20%）、ゼミ活動への参加状況（10%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 ①次のステージ：専門演習Ⅰで学んだことを専門演習Ⅱ、卒業演習につなげていきましょう。 ②関連科目：社会福祉専攻科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅱは課題研究を作成することを目標とします。また、課題研究の作成過程をゼミの仲間と共有して文献検索や研究方法、発表時に工夫すること等を学びあいます。</p>	<p>専門演習Ⅰではグループ活動が多かったですが、専門演習Ⅱは個々の研究活動が主となります。関心分野を深く追究し、まとめる経験を通して研究活動の面白さやむずかしさを学びます。</p>

到達目標	①論文作成の方法を理解することができる ②研究成果を発表することで発表のスキルを上達させることができる
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①ゼミ活動の目的	オリエンテーションの内容確認
	2	オリエンテーション②年間スケジュールの確認、ゼミ運営体制づくり	配布資料を読みなおす
	3	社会福祉学研究の概要①社会福祉学研究の動向	配布資料を読みなおす
	4	社会福祉学研究の概要②研究方法の紹介	配布資料を読みなおす
	5	個別面談①	面談に向けて準備
	6	個別面談②	面談に向けて準備
	7	個別面談③	面談に向けて準備
	8	個別面談④	面談を受けて文献収集
	9	個別面談⑤	面談を受けて文献収集
	10	卒業演習ゼミ生による発表	面談を受けて文献収集
	11	参考文献発表	講和のテーマ事前学習
	12	社会人特別講師講演会	講演会振り返り
	13	社会福祉専攻紹介準備～オープンキャンパス	役割分担して準備
	14	社会福祉学の研究論文を読む①	配布資料を読みなおす
	15	社会福祉学の研究論文を読む②	配布資料を読みなおす
	16	前期まとめ	配布資料を読みなおす
	17	後期オリエンテーション 個別面談①	後期オリエンテーション内容確認
	18	個別面談②	個別面談に向けて準備
	19	個別面談③	個別面談に向けて準備
	20	個別面談④	個別面談に向けて準備
	21	課題研究中間報告①	発表者から学んだことを活かす
	22	課題研究中間報告②	発表者から学んだことを活かす
	23	課題研究中間報告③	発表者から学んだことを活かす
	24	課題研究中間報告④	発表者から学んだことを活かす
	25	課題研究中間報告⑤	発表者から学んだことを活かす
	26	課題研究中間報告⑥	発表者から学んだことを活かす
	27	課題研究中間報告⑦	発表者から学んだことを活かす
	28	課題研究中間報告⑧	発表者から学んだことを活かす
	29	卒論発表会運営準備①	卒論発表会の企画運営を考える
30	卒論発表会運営準備②	卒論発表会の企画運営を考える	
31	後期まとめ	配布資料を読みなおす	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：演習は学生が主体的に参加することで成立します。切磋琢磨しながらお互いに高めあっていきましょう。そのためにも遅刻厳禁、出席も重視します。また、課題研究の作成にあたっては個々人が主体的に研究することが前提であることを理解し、計画を立てて取り組みましょう。</p> <p>②学びを深めるために：積極的にボランティア活動をしましょう。また、施設訪問をしたり講演会や研修に出席したりして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>課題研究（50%）、中間報告の内容（30%）、ゼミ活動への参加状況（20%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①次のステージ：専門演習Ⅱで学んだことを卒業演習につなげていきましょう。</p> <p>②関連科目：社会福祉専攻科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	3年	担当教員宛にメールしてください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本専門演習Ⅱの目的は4点ある。①我が国の医療構造を理解する。②「地域包括ケア」のあり方について理解を深める。③「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。④医療・保健・福祉の領域から、課題を見だし論究し、成果物としての「課題研究報告書」をまとめる。	保健・医療・福祉領域の出来事に常に関心を示す。また、課題研究論文の執筆に取り組むため、関心領域の論文を精読することが望ましい。

到達目標	到達目標は、以下の通りである。①保健・医療・福祉の問題に効果的に対応することができる。②関心のある領域の先行研究論文を検索し、自身の論文作成に役立てることができる。③基本的な論文構造に基づいた論文を執筆することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション（計画・調整）	
	2	我が国の医療資源①人・物・財	医療資源とは何か
	3	我が国の医療資源②病院・診療所	医療施設とは何か
	4	沖縄県における医療資源①医療施設	我が国の医療施設の現状を調べる
	5	沖縄県における医療資源②医療施設	沖縄県の医療施設の現状を調べる
	6	演習：医療を理解する①	医療とは何か
	7	演習：病院を理解する②	医療法について調べる
	8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	MSWの役割は？
	9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	
	10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	
	11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	社会調査面接法について調べる
	12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	
	13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	
	14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	プレゼンテーション技法について
	15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	
	16	前期振り返り	
	17	後期オリエンテーション（計画・調整）	
	18	課題研究テーマ決定のための面談	研究仮説とは
	19	課題研究テーマ決定のための面談	
	20	課題研究テーマ決定のための面談	
	21	患者を理解する④社会人招聘（患者会）	
	22	課題研究テーマ決定のための面談	研究論文とは何か
	23	課題研究テーマ・研究計画報告	
	24	課題研究テーマ・研究計画報告	
	25	課題研究テーマ・研究計画報告	
	26	課題研究取り組み中間報告	
	27	課題研究取り組み中間報告	
	28	報告会：演習成果を全員で共有する。	
	29	報告会：演習成果を全員で共有する。	
30	報告会：演習成果を全員で共有する。		
31	振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。</p> <p>①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>論文執筆のために必要な先行研究論文検索ができるよう図書館の論文検索システムに慣れておく。また、論文に執筆に必要な「研究仮説」とは何かを理解する。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究の最終報告書未提出の場合には不可とする。あるいは、前期・後期いずれかにおいて演習への欠席数が3分の1以上であった場合には不可とする。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習Ⅱで執筆する「課題研究」論文は、次年度の卒業演習時に執筆する卒業論文の前段階であることを理解する必要がある。論文とはなにか、研究仮説とは何かをしっかりと理解する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習Ⅰでは、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習Ⅱでは、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマに</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習Ⅱでは、主にインタビュー調査によって自分のテーマを深めていきます。そのテーマが卒論のテーマとなり、ここで行われたインタビュー調査が卒論調査の方法論として発展していくことを目指していきます。</p> <p>前半は、ライフストーリーインタビューを行って行きます。ライフストーリーインタビューを何本か経験しながら、そのデータ分析を試みていきます。夏休みから後期にかけては、1) 自分のテーマを掘り下げる、2) テーマについての文献研究を掘り下げる、3) より大きなインタビュー調査とデータ分析を行うを行って行きます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	3年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の米軍基地周辺地域におけるテーマパーク化とまちづくりをキーワードとして、沖縄都市の諸相を具体的にテーマ化し、調査研究を実践する内容とする。沖縄のテーマ化された空間の周辺地域で生活する人々の生活のありようと価値意識、そして地域社会の諸側面を取り上げ、沖縄の都市コミュニティの問題を解説する手がかりの探索を目的とする。</p>	<p>このゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。ゼミ生は必ず全員、社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆まで?をとおして、現代社会に対する洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場とする。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次（専門演習I）では、前期に社会学（とりわけ都市社会学）の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、沖縄の都市地域社会における貧困やコミュニティのあり方に関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。</p> <p>3年次（専門演習II）ゼミで、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。</p> <p>社会調査に関するゼミの共通テーマは「沖縄における基地周辺地域のテーマパーク化とコミュニティの様相および住民の価値意識」とする。調査は、沖縄島中部都市圏（主として宜野湾市、沖縄市）において対象地域を設定し、テーマ化された空間の利用頻度、愛着、まちづくりに対する価値意識、周辺地域での関係性や貧困の問題などを、世代間、ジェンダー間の相違を前提に調査項目を設定する。</p> <p>対象地域に基づいてグループ編成を行い、定量調査と定性調査を併用して行う。とくに、ディズニーリゾートの誘致計画や大型ショッピングモールが進出する宜野湾市や沖縄市において、年齢コーホートやジェンダーなどのカテゴリに基づいて調査項目を設定し調査を行う。主な調査項目は、年齢、性別、居住地域、出身地、職業等、テーマ化された空間の利用頻度や愛着、まちづくりに対する価値意識など、近隣関係の質・量、地域活動への参加の質・量、地域に対する愛着度、住み心地、地域生活に関する期待と不安、暮らしぶり・貧困等の問題とする。</p> <p>データ収集法は、宜野湾市および沖縄市において、年齢コーホートやジェンダー・カテゴリに基づいて調査項目を設定し、地域ごとにグループに分かれ、資料調査、定量調査、定性調査を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
	<p>評価</p> <p>専門演習Ⅱは、2年次「専門演習Ⅰ」において確立したテーマに基づいて社会調査を実践するため、調査の準備に対する取り組み姿勢（積極性など）、調査技能等の習熟度（調査への取り組みも含む）、調査報告書の執筆作成に対する取り組み姿勢、などを評価の基準とする。もちろん、平常点（出席数や受講中の態度）、グループ作業に対する取り組み姿勢や諸課題の提出状況も評価の必須項目とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：卒業演習</p> <p>次のステージ： 専門演習Ⅱで身につけた社会学の知識と視点、研究テーマの確立法、社会調査の技法等をいかして、卒業論文等の卒業研究に取り組むこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	3年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行って行く。前期は課題研究の準備として、必要な知識などを確認する。後期は社会福祉や、国際社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。	メッセージ 「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
	到達目標 課題研究を作成し、報告書集を完成させるのがこのゼミの大きな目標となる。課題研究の内容や経験が4年次の「卒業演習」につながるため各学生は積極的に情報の収集・中間報告・論文作成に関して相談を行うなどのことを行って欲しい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	
	2	国際社会福祉に関するDVD鑑賞	テキスト1章の精読
	3	社会福祉学における研究とは何か	テキスト2章の精読
	4	研究環境を整える	テキスト3章の精読
	5	研究テーマの選び方	テキスト4章の精読
	6	研究計画の立て方・進め方	テキスト5章の精読
	7	文献レビューの方法	テキスト6章の精読
	8	量的調査の方法	
	9	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
	10	質的調査研究法	テキスト7章の精読
	11	論文の執筆方法	テキスト8章の精読
	12	論文投稿・口頭発表の方法	テキスト9章の精読
	13	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
	14	まとめ	
	15	前期まとめ	
	16	後期オリエンテーション	
	17	課題研究の説明1	
	18	課題研究の説明2	
	19	課題研究の説明3	
	20	課題研究の説明4	
	21	課題研究の説明5	
	22	JICA訪問報告、論文指導	
	23	課題研究発表1	
	24	課題研究発表2	
	25	課題研究発表3	
	26	課題研究発表4	
	27	課題研究発表5	
	28	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
29	課題研究報告書作成		
30	1年のまとめ		
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>社会福祉の研究入門ー計画立案から論文執筆まで(中央法規出版) 久田則夫 2003年 よくわかる卒論の書き方(ミネルヴァ書房) 白井利明・高橋一郎著 2010年 その他、演習時に適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>課題研究の作成を目的とした演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。積極的に、図書館での文献検索・閲覧、インターネットを使っての文献検索・閲覧を積極的に来ないながら課題研究作成に必要な情報を探して欲しい。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じ行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容もおおくあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況(40%)、ゼミ内での授業態度・発表内容(30%)、課題研究の内容(30%)など総合的に判断する。ゼミ内での発表・課題研究の作成については行わなければ評価ができないので必ず行うこと。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>課題研究の内容を踏まえ、引き続きその内容を発展させるか、または新しくテーマを設定し、「卒業演習」にて卒業論文を作成を行う。</p>

※ポリシーとの関連性

自ら積極的に調べ・学びを深めることにより、子どもに現れてくる諸問題に対し、効果的に対応できる能力を培う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉・教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。</p>	<p>本科目は、「専門演習Ⅰ」での学びを踏まえ卒論へつなげる重要な位置づけがある。自らの関心に焦点化し学びを深めて下さい。</p>
到達目標	<p>調べ学習等を通して、自ら発信できるプレゼン能力を培う。また、レポート作成能力を向上させ、最終的には「課題研究」を仕上げる事ができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。</p> <p>以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（施設養護・家庭養護）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。</p> <p>①「子どもの貧困」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その現状及び課題 ・諸外国の現状 等 <p>②「児童虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その現状及び課題 ・諸外国の現状 等 <p>③「社会的養護」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設養護（本体施設・グループホーム）及び家庭養護（里親・ファミリーホーム）それぞれの現状及び課題 ・諸外国の現状 ・児童福祉施設・機関訪問 等 <p>④「スクールソーシャルワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その役割・機能 ・その現状と課題 ・学校等関係機関訪問 等 <p>なお、学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。</p> <p>また、後期には「課題研究」に取り組む。「課題研究」では前期の学びを活かして個人の関心のあるテーマを選定し進めていく。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じ授業時に提示する。</p> <p>子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。日本子ども家庭総合研究所編(2014)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。藤岡孝志(2008)：『愛着臨床と子ども虐待』、ミネルヴァ書房。山野・野田・半羽編(2012)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等と発表してもらう。そのためには、図書館を大いに活用してほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>本科目の主旨を鑑み、授業態度(積極的な参加等)、出欠状況、レポート等を総合して判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成に向けて意識すること。</p> <p>関連科目：卒業演習、卒業研究発表</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	3年	mkoyanagi@okiu.jp	

学びの準備	ねらい 理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格を固める、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸など	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>実践的学習 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む] ・与那国馬による動物介在療育の体験 ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習 ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携] ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物] ・各種社会事業(当事者運動・学会活動)の運営の一部に参加[7/25-26, 11/-8] ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど <p>理論的学習 以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』(中央法規)で「現場」との関りかたをまなぶ(分担してレジュメを作成し、特定質問を担当する)。 ・卒業論文作成にむけて先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格をかためる。 ・社会福祉の諸問題 ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解 <p>年度当初の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、下級生との合同ゼミで卒論の計画を発表 ・新入生1日合同研修ファシリテート ・各人の問題関心の確認。 <p>以降の予定</p> <p>『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』の輪読/各人の問題関心に沿って発表・議論/ワークショップ等</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』中央法規、2500円＋税 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷富夫・芦田徹郎(編著)『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房 ・鷺田清一『〈弱さ〉のちから』講談社学術文庫

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を、何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。 ・学んだことは文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証する。
評価	<p>【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。*年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この演習は、卒業演習および卒業研究発表に連結するものである。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の基盤と専門職	通年	火3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義、②精神保健福祉士の役割と意義、③相談援助の概念と範囲、④相談援助理念、⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲、⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容等について理解する。</p>	<p>本科目の受講生は、社会福祉士、精神保健福祉士、心理カウンセラーを目指す学生となっている。多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士は法的根拠をもった専門職であることを理解しソーシャルワークの観点から役割と意義を説明することができる。②ソーシャルワークに係る国際定義を理解すると共に、ソーシャルワークの形成過程について説明することができる。③ソーシャルワークの価値基盤である人権尊重・社会正義・権利擁護について理解しクライアントの自己決定・自立支援・エンパワメント・ストレンクス視点・ノーマライゼーション・社会的包摂を実践に結び付けて考えることができる。④専門職倫理について倫理綱領に基づいて考察することができる。⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解し、総合的かつ包括的な相談援助の実践に応用することができる。⑥相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解し説明することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 履修上の注意事項・評価方法について説明	①次回の予習（テキストを熟読）
	2	社会福祉士の役割と意義 ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	3	社会福祉士の役割と意義 ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	4	相談援助の定義と構成要素①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	5	相談援助の定義と構成要素②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	6	相談援助の形成過程Ⅰ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	7	相談援助の形成過程Ⅰ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	8	相談援助の形成過程Ⅱ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	9	相談援助の形成過程Ⅱ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	10	相談援助の形成過程Ⅱ③	①、②前回の講義感想と考察を提出
	11	相談援助の理念Ⅰ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	12	相談援助の理念Ⅰ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	13	相談援助の理念Ⅰ③	①、②前回の講義感想と考察を提出
	14	相談援助の理念Ⅱ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	15	相談援助の理念Ⅱ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	16	後期オリエンテーション 授業説明	①、②前回の講義感想と考察を提出
	17	専門職倫理と倫理的ジレンマ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	18	専門職倫理と倫理的ジレンマ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	19	専門職倫理と倫理的ジレンマ③	①、②前回の講義感想と考察を提出
	20	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	21	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	22	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論	①、②前回の講義感想と考察を提出
	23	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	24	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	25	相談援助にかかる専門職と概念と範囲③	①、②前回の講義感想と考察を提出
	26	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能①	①、②前回の講義感想と考察を提出
	27	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能②	①、②前回の講義感想と考察を提出
	28	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能③	①、②前回の講義感想と考察を提出
	29	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能④	①、②前回の講義感想と考察を提出
30	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能⑤	①、②前回の講義感想と考察を提出	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職』中央法規 参考書 授業の中で随時紹介する 資料 随時配布する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。 また、新聞、マスコミの報道に感心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>出席状況、レポート、期末テスト、受講への積極的な姿勢等を総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。</p>

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法	通年	水6・土2	8
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉、石川 和徳 他 オムニバス	2年	研究室：5-418、E-mail：mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目では相談援助における人と環境との相互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関係する知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。	メッセージ 将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、本科目は基幹となる科目である。専任教員に加え、多くの外部の社会福祉専門職を招聘した授業計画となっている。社会福祉にかかる専門的知識等の習得をはじめ、自らの将来の仕事をイメージしながら受講してほしい。
	到達目標 本科目を受講することで、最終的に社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。最終的には、相談援助(ソーシャルワーク)の定義、構造と機能、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的にはアウトリーチ、面接技術、記録の技術、ケースマネジメント、スーパービジョンとコンサルテーションの技術等を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	※全期間：各授業の復習を行うこと
	2	社会福祉実践と日常生活①～③	授業ごとに課される課題に取り組む
	3	ソーシャルワークの理解の視点①～⑨	
	4	面接技術①～④	他比嘉からの課題：3つのレポート
	5	社会福祉各分野における実践①就労支援	
	6	社会福祉各分野における実践②発達障害	
	7	社会福祉各分野における実践③子育て支援	
	8	社会福祉各分野における実践④メディカルソーシャルワーク	
	9	前期のまとめ	
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17	後期オリエンテーション	※全期間：各授業の復習を行うこと
	18	ケアマネジメントの流れ①～④	授業ごとに課される課題に取り組む
	19	相談援助の過程①～②	
	20	グループワーク、ネットワーキング①～③	他比嘉からの課題：2つのレポート
	21	社会資源の活用・調整・開発①～②	
	22	実践モデルとアプローチ①～⑦	
	23	記録、事例研究、アウトリーチ等①～⑦	
	24	社会福祉各分野における実践①コミュニティソーシャルワーク	
	25	社会福祉各分野における実践②災害とソーシャルワーク	
	26	後期のまとめ	
	27	授業の総まとめ	
	28		
29			
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、各教員の課す課題についてしっかりと取り組むこと。課題提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の関連科目(基礎科目)については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に併行して受講する「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等は重要である。</p>
	<p>評価</p> <p>授業の出欠、ワークへの参加状況及び各教員の与える諸課題等の評価を元に総合的に評価する。成績の内訳は、知名先生、石川先生(非常勤講師)、比嘉、その他先生(社会人特別講師)で各25%ずつの割合で評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、社会福祉士受験資格のための必要科目(相談援助の基盤と専門職、相談援助演習、現代社会と福祉、地域福祉の理論と方法等)があげられるが、本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	4年		

学びの準備	ねらい 大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるものとして卒業論文執筆がある。論文執筆作成にかかる作業を行っていくなかで、自らの大学での学びを振り返り、論文という形でつくりあげる作業をすすしていく	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ゼミのなかで指定する。

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価 中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	4年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/卒業論文を完成する、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸/学校行事のファシリテートなど	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえ、自身固有の問題意識に根ざした具体的かつ明確な課題について、明確な方法論にもとづいて、詳細かつ体系的な検討を行って、卒業論文にまとめる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>実践的学習 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む] ・与那国馬による動物介在療育の体験 ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習 ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携] ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物] ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど <p>理論的学習 以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鷺田清一『〈弱さ〉のちから』(講談社学術文庫)で取り上げられた「現場」に関して分担して理論的に考察して[たとえば、そこには、どのような「私たち」や「私」のありよう(現状や可能性)が示唆されているか、どのような「希望」があるか、どのような課題があるか、を検討して]発表・コメント ・卒業論文作成にむけて先行研究の整理や調査の結果を確認し、必要な手直しを行って、卒業論文を完成する。 ・論文作成のためのアカデミックスキルの確認 ・社会福祉の諸問題 ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解 <p>年度当初の予定＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、下級生との合同ゼミで卒論の概要を発表 ・新入生1日合同研修ファシリテート ・各人の問題関心の確認。 <p>以降の予定＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鷺田清一『〈弱さ〉のちから』(講談社学術文庫)の輪読 ・各人の問題関心に沿って発表・議論 ・各種ワークショップ等
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書＝鷺田清一『〈弱さ〉のちから』講談社学術文庫、880円＋税</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』中央法規 ・荒井浩道『ナラティブ・ソーシャルワーク－〈支援〉しない支援の方法』新泉社 ・徳川直人『色覚差別と語りづらさの社会学』生活書院・遠藤徹『〈尊びの愛〉としてのアガペー』教文館
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みるのが肝要である。 ・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。
	<p>評価</p> <p>【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。＊遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。＊時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。＊年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>さまざまな現場で活躍できる豊かな人間性と能力を身につけ学士の学位を取得し卒業する(ディプロマポリシーに対応)。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	4年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を作成するための演習となる。4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。	各学生は、今まで演習でつちかかってきた知識・技術を発揮して欲しい。論文の進行具合に合わせて定期的に論文指導を受けることが望ましい。卒業論文について要項もあるためそれに従った論文を作成、提出を行うこと。

到達目標	卒業論文の提出を目標とする。各学生は積極的に卒業論文作成に取り組んで欲しい。また、年度末には「卒業論文集」の作成も行う。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	各自で論文執筆活動
	2	卒業論文について	各自で論文執筆活動
	3	卒業論文計画作成①	各自で論文執筆活動
	4	卒業論文計画作成②	各自で論文執筆活動
	5	卒業論文計画作成③	各自で論文執筆活動
	6	卒業論文計画書提出	各自で論文執筆活動
	7	卒業論文準備・個人面談①	各自で論文執筆活動
	8	卒業論文準備・個人面談②	各自で論文執筆活動
	9	卒業論文準備・個人面談③	各自で論文執筆活動
	10	卒業論文準備・個人面談④	各自で論文執筆活動
	11	卒業論文準備・個人面談⑤	各自で論文執筆活動
	12	卒業論文中間報告準備①	各自で論文執筆活動
	13	卒業論文中間報告準備②	各自で論文執筆活動
	14	中間報告	各自で論文執筆活動
	15	中間報告・前期まとめ	各自で論文執筆活動
	16	後期オリエンテーション・卒業論文進捗確認	各自で論文執筆活動
	17	卒業論文準備・個人面談⑥	各自で論文執筆活動
	18	卒業論文準備・個人面談⑦	各自で論文執筆活動
	19	卒業論文準備・個人面談⑧	各自で論文執筆活動
	20	卒業論文提出予定者の確認	各自で論文執筆活動
	21	卒業論文準備・個人面談⑨	各自で論文執筆活動
	22	卒業論文準備・個人面談⑩	各自で論文執筆活動
	23	卒業論文準備・個人面談⑪	各自で論文執筆活動
	24	卒業論文準備・個人面談⑫	各自で論文執筆活動
	25	論文・卒業論文提出日（予定）	
	26	論文修正期間①	論文修正
	27	論文修正期間②	論文修正
	28	卒業論文集作成開始	報告書作成活動
29	卒業論文集作成	報告書作成活動	
30	卒業論文集作成	報告書作成活動	
31	卒業論文集完成・1年の振り返り、まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 指定はしない。必要に応じて、文献・資料の紹介をおこなう。 参考書籍 よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年 社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫編 2003年 よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年</p>
	<p>学びの手立て 卒業論文を作成するために図書館や論文検索サイトなどのインターネット情報等を有効利用すること。自分から情報を集める、教員との綿密なやりとりなどが作成に関しては必要不可欠です。</p>
	<p>評価 出席状況（40%）、中間報告・論文提出（50%）、その他（10%）とし総合的に判断します。 論文の提出を行わなければ評価ができないので注意すること。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	4年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、問題発見から批判的検討までの一環した流れを把握し、示すことができる。	保健・医療・福祉領域の出来事に常に関心を示し、その中から問題点・課題を見いだせるようにする。

到達目標	到達目標は以下2点で、①「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけること②問題発見から批判的検討までの一環した流れを示すことができることである。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒論作成に向けて概説	研究論文とは
	3	卒論研究プロトコール作成法	プロトコールとは
	4	論文の書き方①	専攻研究論文の検索方法
	5	論文の書き方② 文献、論文検索	研究論文の基本的な構造とは
	6	卒論テーマ作成のための個人面談 1	研究仮説を立てる
	7	卒論テーマ作成のための個人面談 2	
	8	卒論テーマ作成のための個人面談 3	
	9	卒論テーマ作成のための個人面談 4	
	10	卒論テーマの決定とプロトコール作成	
	11	卒論プロトコール提出	
	12	調査票作成 1	量的調査に基づく研究とは
	13	調査票作成 2	
	14	文献に基づく研究仮説の論証①	質的調査に基づく研究とは
	15	文献に基づく研究仮説の論証②	
	16	文献に基づく研究仮説の論証③	参考文献の示し方
	17	文献に基づく研究仮説の論証④	
	18	論文執筆指導①	
	19	論文執筆指導②	
	20	論文執筆指導③	
	21	論文執筆指導④	
	22	論文執筆指導⑤	
	23	論文執筆指導⑥	
	24	個別指導	
	25	卒論発表会 1	
	26	卒論発表会 2	
	27	卒論発表会 3	
	28	卒論・ゼミ論集制作 1	
	29	卒論・ゼミ論集制作 2	
30	卒論・ゼミ論集制作 3		
31	振り返り		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て 論文作成にまず必要なことは「研究仮説」をたてることである。そして、仮説を論証するための参考文献を見つけ出すことである。専門演習Ⅰから始めた参考文献検索方法を今一度みなおし、演習がスタートする前に慣れておく必要がある。</p>
	<p>評価 卒業演習の評価は演習への出席回数と卒業論文あるいは卒業演習論文（ゼミ論）の提出有無とその内容によって評価する。また、演習の中間（夏季休業明け）期に開催する、中間口頭発表会を参考にする。なお、卒業論文については、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名により評価される。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 卒業論文は論文執筆の最終章とも言える。専門演習Ⅰ・Ⅱで学んできた文献検索方法、論文基本構造等をしっかりと見直し、卒業論文執筆に臨む必要がある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業演習は卒業論文を作成することを目標としています。課題研究作成の経験を活かしながら研究を進めていきます。主体的に、そして計画に沿って論文を作成します。年度末には卒業論文発表会で発表をします。	メッセージ 卒業論文は個々の孤独な作業のように思えますが、実際は卒業論文の作成過程をゼミ仲間と励ましあいながら歩んでいきます。学生どおし互いの研究を紹介し、議論を重ねたり情報を交換したりして視野を広げていきます。
	到達目標 ①論文作成の経験から学ぶことができる。 ②発表と議論のスキルを高めることができる。 ③他の学生の研究から学び視野を広げることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	オリエンテーション内容の確認
	2	前期オリエンテーション	オリエンテーション内容の確認
	3	個別面談①	個別面談の準備
	4	個別面談②	個別面談の準備
	5	個別面談③	個別面談の準備
	6	個別面談④	個別面談の振り返り
	7	福祉の仕事講演会	配布資料を読みなおす
	8	中間報告会①	発表者から学んだことを活かす
	9	中間報告会②	発表者から学んだことを活かす
	10	中間報告会③	発表者から学んだことを活かす
	11	中間報告会④	発表者から学んだことを活かす
	12	中間報告会⑤	発表者から学んだことを活かす
	13	中間報告会⑥	発表者から学んだことを活かす
	14	中間報告会⑦	発表者から学んだことを活かす
	15	中間報告会⑧	発表者から学んだことを活かす
	16	前期まとめ	
	17	後期オリエンテーション	オリエンテーション内容の確認
	18	個別面談①	個別面談の準備
	19	個別面談②	個別面談の準備
	20	個別面談③	個別面談の準備
	21	個別面談④	個別面談の準備
	22	中間報告会①	発表者から学んだことを活かす
	23	中間報告会②	発表者から学んだことを活かす
	24	中間報告会③	発表者から学んだことを活かす
	25	中間報告会④	発表者から学んだことを活かす
	26	中間報告会⑤	発表者から学んだことを活かす
	27	卒論集作成①	編集条件に合わせて準備
	28	卒論集作成②	各自印刷する
29	卒論発表会準備（卒論発表会レジュメ集作成）	レジュメ集を作成する。	
30	卒論発表会	発表者から学んだことを活かす	
31	後期まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定された教科書はありません。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：演習は学生が主体的に参加することで成立します。切磋琢磨しながらお互いに高めあっていきましょう。そのためにも遅刻厳禁、出席も重視します。また、卒業論文の作成にあたっては個々人が主体的に研究することが前提であることを理解し、計画を立てて取り組みましょう。</p> <p>②学びを深めるために：研究テーマに関連するボランティア活動等に積極的に参加し、研究活動を深めてみましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文の内容（50％）、中間報告の内容（30％）、ゼミ活動への参加状況（20％）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①次のステージ：卒業後も研究活動を継続してほしいと思います。 ②関連科目：社会福祉専攻専門科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	「卒業演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、文献検索、資料収集、調査等を行い、夏季の中間発表を経て、最終的に卒業論文をまとめる。	これまでの学びに加えて最新情報が得られるように常にアンテナを張ること。1月には国家試験が控えているため、卒業論文はなるべく早めに取り組み前期の間におおよそ7割は完成させて下さい。		
到達目標	これまでの学び(講義・演習・実習等)の集大成として、「卒業論文」を仕上げることができる。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)			
	1. オリエンテーション：年間のスケジュールを確認 ①「卒論の書き方」・各自テーマ決定(～5月中旬) ②個別指導(6月～) ③中間報告会(8月中旬) ④仮提出【ゼミ】(10月下旬) ⑤本提出【社会福祉専攻全体】(12月中旬) ⑥最終報告会(2月初旬)			
	2. 各自のテーマ決定・報告 3. 各自のテーマに関する先行研究等の文献・資料収集 4. 個別指導：各自の進捗状況を報告 5. 中間報告会 6. 最終報告会			
テキスト・参考文献・資料など				
特になし。 白井利明・高橋一郎(2008)：『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。 その他は、必要に応じて適宜紹介する。				
学びの手立て				
卒業論文を作成するため、これまでの先行研究を踏まえて早めに自らのテーマに関する資料は集めること。その際図書館の利用は欠かせない。また「卒業論文」として仕上げるには、コンスタントに研究室を訪ね、指導を受けること。				
評価				
ゼミへの出席状況および最終的に提出された論文と論文作成への取り組み(そのプロセス)を総合的に判断して評価する。一方、「卒業研究発表」(卒業論文：4単位)は、ゼミ担当教員が主査、他専攻教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。				
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	社会福祉士国家試験、就職。 関連科目：「卒業研究発表」、その他社会福祉士関連科目すべて。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	4年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備	ねらい 大学の社会福祉学および各専門領域で学んだ成果を「作品」として形にする。とくに研究論文等で執筆、作成、発表を行う。	メッセージ 大学生活および大学での学びの集大成です。これに取り組みず、何を大学生の証しにするとと言えるのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。
	到達目標 各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理・分析、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。前期は、6月まで企画・設計、情報や素材の収集に関するレクチャーをゼミ全体に対して行うが、7月以降は方法論の検討やデータ・素材の収集に関する手順を個別面談方式で議論していく。夏期休暇中～10月上旬までにデータや素材	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	年間のスケジュールと諸注意	仮テーマについて考える
	2	各自卒業研究テーマ候補の報告	仮テーマについて考える
	3	各自卒業研究テーマの確定と発表	研究テーマの確定作業
	4	同上	研究テーマの確定作業
	5	同上	研究テーマの確定作業
	6	同上	研究テーマの確定作業
	7	卒業研究の企画・設計に関する指導	研究方法の模索
	8	先行研究の収集に関する指導	先行研究文献の探索と精読
	9	研究の方法論に関する指導	研究方法の確定
	10	構成内容などに関する指導	目次構成の作成
	11	データおよび素材の収集に関する指導	研究方法の詳細な手順確認
	12	同上	研究方法の詳細な手順確認
	13	個別の進捗報告と指導	研究作業の進捗状況をまとめる
	14	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	15	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	16	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）	データ収集の実践
	17	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）	データ収集の実践
	18	同上	データ収集の実践
	19	同上	データ収集の実践
	20	補足的な収集に関する指導	データ収集の実践
	21	データおよび素材の整理方法の指導	データの整理
	22	論文または成果物の内容構成の再検討	内容構成の最終確認と調整
	23	個別の進捗報告と指導	研究作業の進捗状況をまとめる
	24	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	25	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	26	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	27	ゼミ全体での発表	発表資料の作成
	28	卒論および成果物の仮提出と修正指導	論文執筆作業
	29	卒論および成果物の本提出	論文集の編集作業
30	卒業論文および卒業研究集の作成	論文集の印刷、製本作業	
31	予備日	研究成果の作成作業	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。 講義のなかで適宜紹介していく。</p>
	<p>学びの手立て 必ず卒業研究の成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（出席状況や受講態度など）も重視するので、怠けずに参加する事。</p>
	<p>評価 「卒業演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業研究発表」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって審査を行い、評価が与えられる。評価は、形式的なルール、研究上の意義（先行研究等との関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、データおよび素材の収集方法（計画、実行内容、妥当性）、整理・分析の方法（適切な手順・方法等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）をもって評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 卒業研究発表</p>

※ポリシーとの関連性 地域における各種社会福祉実践の実態について、様々な機関や団体の専門家による講義を通して、地域福祉の実態を学ぶ

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉の理論と方法	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳・オムニバス講義	2年	講義の中で受け付ける オフィスアワー(5419研究室)で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域に社会福祉実践に目を向け、公私の連携の実際を理解する 多様な主体による実践と各種専門職の業務について理解する	自分の住んでいる地域の福祉ニーズや、それに対応する各種の福祉施策・実践に関心を持って受講することを期待する

到達目標
様々な福祉施策と地域福祉活動の現状について理解する 地域の中で活動する様々な専門職の実態について理解する

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・講義予定・受講上の注意など	講義の中で提示する
	2	地域福祉の定義・考え方・方法	同上
	3	地域福祉における専門職	同上
	4	沖縄県のホームレス	同上
	5	沖縄県の障害者ニーズ	同上
	6	障がい者に対する那覇市の福祉施策	同上
	7	障害者支援施設における利用者支援	同上
	8	ものの見方、見え方	同上
	9	地域を意識した施設支援	同上
	10	米軍占領下における沖縄の社会福祉施策	同上
	11	米軍占領下における沖縄県の社会福祉協議会の役割	同上
	12	日本復帰前後の福祉施策	同上
	13	地域福祉のイメージをつかもう	同上
	14	地域福祉の組織・社会資源・社会福祉協議会	同上
	15	前期の振り返り・レポート課題の提示	同上
	16	高齢者施設と地域の関わり	同上
	17	地域密着型サービスの現状	同上
	18	福祉関連の機関・団体・社会資源の連携	同上
	19	我が国の地域福祉のあゆみ	同上
	20	今日の地域福祉の動き	同上
	21	日本の食品ロスの現状とセカンドハンドハーベットの取り組み	同上
	22	沖縄本島北部における地域支援の方法について	同上
	23	社会福祉協議会の取り組みと課題	同上
	24	障害者福祉と社会資源	同上
	25	地域移行の際の関係機関と専門職の連携	同上
	26	計画相談支援とは	同上
	27	地域と子ども	同上
	28	社会福祉協議会の財源と共同募金	同上
29	地域福祉活動の連携について	同上	
30	講義全体の振り返り、レポート課題について	同上	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で資料等を配布する 必要な文献等についても講義の中で提示する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 特に社会福祉協議会の地域活動を中心に理解を深める 福祉における専門職の種類とその業務内容を理解する</p>
	<p>評価 毎回の講義での学習チェック表 (40%) + 課題レポート (40%) + ノートのコピー (20%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 講義の中で提示する</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	低所得者に対する支援と生活保護制度	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 鍛	2年	098-880-2459 okiparaspo23@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・「貧困」について・・・経済的貧困、社会からの孤立について考える ・低所得者に対する制度の概要及び生活保護制度の内容を理解する ・相談支援に必要な姿勢と視点を知る ・支援ネットワークについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「低所得者の支援と生活保護制度」を使用する ・福祉五法について基本事項を整理しておくこと
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護受給者の急増と社会経済の関係から、不安定な雇用、ワーキングプアの現状について掘り下げ、五法の基礎知識の再確認はもとより、支援者としての特にそのあるべき姿勢と相談支援のノウハウを身につける 	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			13			14			15			16			
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1																																																					
2																																																					
3																																																					
4																																																					
5																																																					
6																																																					
7																																																					
8																																																					
9																																																					
10																																																					
11																																																					
12																																																					
13																																																					
14																																																					
15																																																					
16																																																					
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	学びの手立て																																																				
	評価																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学的人間論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	2年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人間存在を、自然性・社会性・理性性の3側面から、哲学的に考えることを目的とします。そのことを通じて、人間存在の全体像を考えていきます。哲学とはそうした全体知の営みです。	メッセージ
	到達目標 人間とはまったく不可思議で複雑な生き物だとは、よく言われることですが、それが何を意味するのかを、人間を作り上げている3側面、すなわち自然的生命であり動物であるという点、社会集団の中で共同しながら生きている点、自己意識を持ち、自分の自由な考えや意志に基づいて合理的・理性的に行動しようとする点、から考えていきます。これらの側面は、トリアーデ（三位一体）をなすと同時に、トリレンマ（三すくみの矛盾関係）をもなします。その総体が人間なのです。この人間存在の全体像に迫ります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	哲学の問題として人間を考えること
	2	レポート作成上の諸注意点
	3	人間とは何か：トリアーデとトリレンマ
	4	人間の自然性
	5	「利己的遺伝子の乗り物」
	6	本能の暴力性＝悪
	7	無意識・超自我について
	8	人間の社会性
	9	感情や情動は何のためにあるのか
	10	道徳・規則・法の存在
	11	社会契約説について
	12	人間の理性性
	13	自己意識や自我の存在
	14	自由とは何か
	15	理性的に生きるとはどういうことか
	16	まとめ、レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しません。授業で紹介する本をできるだけたくさん呼んで、自分の頭で考えることが大切です。	
	学びの手立て 授業で出席は取りません。積極的に授業に参加したい人のみ、出席してください。私語している場合、必ず発言してもらいます。発言しない人は、退出してもらいます。居眠りも、外で行なってもらいます。	
	評価 成績の評価は、レポートのみで行ないます。レポート採点の基準は、A4用紙2枚以上にわたり、自分なりにテーマ設定し（テーマを表題にすること）、テーマに関連した文献（紙媒体）を2つ以上使用し、自分の意見・考えを論理的に説得力をもって展開したもの、とします。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など
-------	---

科目基本情報	科目名	都市社会学	期別	曜日・時限	単位
	担当者	桃原 一彦	前期	火 4	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会学的に解説する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。本講義では、日本における近代化と都市化の諸相と都市社会学の展開、さらに集会的消費の問題について考える。古典的な都市社会学を批判的に展開し、戦後日本の都市空間と都市生活	メッセージ	社会学概論で学んだ「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する上で、映画作品や音楽作品を取り入れます。
	到達目標	社会学における都市研究の歴史的背景、古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点について理解する。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	都市社会学への招待	社会学の「都市」について考える
		2	近代都市とは何か? ー マックス・ヴェーバーの定義から考える	近代都市の特徴を資料から読み取る
		3	博物学のまなざしと「博覧会」の空間構造	西欧博覧会の具体的な事例を収集
		4	「見世物」都市と消費空間の異動	デパートとパサージュの資料収集
		5	博覧会都市の位相 ー 19世紀西欧都市の階級問題	西欧の格差、差別の事例を集める
		6	西欧都市の差別、格差問題に関する課題	課題レポートの資料収集と作成
		7	アメリカ合衆国の膨張と多人種・多民族国家	身近なグローバル資本を考える
		8	シカゴ大学の誕生とシカゴ学派	西欧と米国の連続性を調べる
	9	シカゴ学派の古典的都市社会学理論 ー 形式社会学と人間生態学	社会学の基礎理論のふりかえり	
	10	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	インナーエリアと郊外を調べる	
	11	アメリカ都市の諸相に関する課題	課題レポートの資料収集と作成	
	12	Black Sociologyの根源 ー デュボイスの研究成果	学問と差別の問題について考える	
	13	Black Sociologyの展開とその特徴	具体的な作品を調べる	
	14	Black Sociologyの可能性と今後の課題	米国社会学との相違を考える	
	15	都市社会学のふりかえり	講義プリントのまとめ	
	16	予備日	期末課題の作成	
	実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て	リアクション・ペーパーは随時内容を確認し、平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」①～②の提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習Ⅱ、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学概論で学んだ「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する上で、映画作品や音楽作品を取り入れます。
到達目標	社会学における都市研究の歴史的背景、古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点について理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学への招待	社会学の「都市」について考える
	2	近代都市とは何か? ー マックス・ヴェーバーの定義から考える	近代都市の特徴を資料から読み取る
	3	博物学のまなざしと「博覧会」の空間構造	西欧博覧会の具体的な事例を収集
	4	「見世物」都市と消費空間の異動	デパートとパサージュの資料収集
	5	博覧会都市の位相 ー 19世紀西欧都市の階級問題	西欧の格差、差別の事例を集める
	6	西欧都市の差別、格差問題に関する課題	課題レポートの資料収集と作成
	7	アメリカ合衆国の膨張と多民族・多民族国家	身近なグローバル資本を考える
	8	シカゴ大学の誕生とシカゴ学派	西欧と米国の連続性を調べる
	9	シカゴ学派の古典的都市社会学理論 ー 形式社会学と人間生態学	社会学の基礎理論のふりかえり
	10	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	インナーエリアと郊外を調べる
	11	アメリカ都市の諸相に関する課題	課題レポートの資料収集と作成
	12	Black Sociologyの根源 ー デュボイスの研究成果	学問と差別の問題について考える
	13	Black Sociologyの展開とその特徴	具体的な作品を調べる
14	Black Sociologyの可能性と今後の課題	米国社会学との相違を考える	
15	都市社会学 I のふりかえり	講義プリントのまとめ	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
学びの手立て	リアクション・ペーパーは随時内容を確認し、平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
評価	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」①～②の提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習 II、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学概論で学んだ「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、日本および沖縄の都市化の諸側面を取り上げ、テーマ化された空間やショッピングモール、その周辺地域における貧困等の問題について取り上げます。
到達目標	日本および沖縄における都市の歴史社会的な理解、日本における都市社会学の系譜の学習、テーマ化された都市空間を捉える視点の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学Ⅱへの招待	都市社会学Ⅰのふりかえり
	2	日本の都市化と沖縄① ー日本の帝都化と博覧会	帝国主義と労働力移動を調べる
	3	日本の都市化と沖縄② ー高度経済成長と米軍統治下の沖縄	日本と沖縄の対称的な関係を調べる
	4	日本の都市化と沖縄③ ーバブル経済と沖縄の乱開発	後期資本主義と沖縄の問題を考える
	5	日本と沖縄の都市化に関する課題	資料収集と課題作成
	6	日本における都市社会学の展開① ー「結節機関」「正常人口の正常生活」	鈴木栄太郎の社会学について調べる
	7	日本における都市社会学の展開② ー盛り場研究と「第3の空間」	磯村瑛一の社会学について調べる
	8	日本における都市社会学の展開③ ー都市エスニシティとコミュニティの再発見	多国籍化する日本の都市を調べる
	9	日本における都市社会学の展開④ ー「世界都市論」と新都市社会学	グローバル化と都市の関係を考える
	10	日本の都市社会学を応用した課題	資料収集と課題作成
	11	空間論の基本概念とその視点	空間と場所の違いを具体的に考える
	12	テーマ化された都市① ー博覧会からテーマパークまで	博覧会とテーマパークを調べる
	13	テーマ化された都市② ーショッピングモールからテーマ化された街づくりまで	ショッピングモールの特徴を調べる
14	「無印都市」の特徴と問題 ー「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	無印都市の概念を応用した考察	
15	都市社会学Ⅱのまとめ	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	リアクション・ペーパーは随時内容を確認し、平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価		
	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を考える学習課題」①～②の提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習Ⅱ、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー1. および、3. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ専門科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	動作法	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>動作法は、自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させる心理療法である。姿勢や動作の改善、ストレスマネジメントなど様々な対象者の心身の支援に有効である。講義では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法を身につけることをねらいとする。</p>	<p>実技の実習の多い講義です。体を通してこころに働きかける心理療法ですので、受講者がベアになり、援助者役-被援助者役に分かれて実技の実習を進めていきます。学びながら自身の心身のメンテナンスを行えることがこの講義の魅力です。</p>
到達目標	<p>①対人援助の基本的姿勢が身につく。 ②動作法の基礎的な知識・技術を使って支援のかかわりができる。 ③動作法を利用した自身のストレスマネジメントができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション —こころとからだのつながりと実習に関する諸注意—	配布資料の復習
	2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～	配布資料の復習
	3	動作法による援助の基礎	リフレクションシート作成
	4	動作法の援助の考え方と基本	リフレクションシート作成
	5	リラクセーションの見方、考え方	リフレクションシート・実技復習
	6	リラクセーションの実技 軀幹1	リフレクションシート・実技復習
	7	リラクセーションの実技 軀幹2	リフレクションシート・実技復習
	8	リラクセーションの実技 肩を中心としたリラクセーション	リフレクションシート・実技復習
	9	リラクセーションの実技 股関節を中心としたリラクセーション	リフレクションシート・実技復習
	10	リラクセーションの実技 総合	リフレクションシート・実技復習
	11	動作法の臨床事例	配布資料の予習・復習
	12	タテ系動作課題について	リフレクションシート・実技復習
	13	座位姿勢の実技①	リフレクションシート・実技復習
14	座位姿勢の実技②	リフレクションシート・実技復習	
15	まとめ	リフレクションシート・実技復習	
16		レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは講義の中で適宜、資料を配布する。 参考図書「動作法ハンドブック 基礎編」 慶応大学出版</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え ●本授業では、身体を通してこころに働きかける心理療法を実習を通して学ぶ。相手のからだを扱うこと＝こころを扱うことである。実技では相手を思いやり、真摯な態度で実習に臨むこと。 ●実習時の講義は体育館地下の武道場で行う。 ●実習の時には、激しい運動はしないが、床にあぐら姿勢、横になる姿勢を取ることがある。そのため、からだを動かしやすい格好をしてくる。スカートは不可。</p>		
評価	<p>講義・実習への参加状況、実技実習への取り組み、毎回のリフレクションシート…70% 最終レポート…30%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ストレスマネジメント」も併せて受講することで理解が深まる。 動作法を用いた心理支援の実践に関心がある学生は、障害児者を対象とした支援活動のボランティアに参加し、実践を通しながら学びを深めることができる（受講料無料の研修あり）。興味のある学生は担当教員まで申し出て下さい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	認知心理学	後期	月5	2
	担当者 前堂 志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講の目的は、認知心理学の主要なテーマ（知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識）に関する認知心理学の知識について、文献を読みワークを行うことで理解することである。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、対話し、考える。認知心理学の知識を日常生活に結びつけ、ひとの認知過程を具体的に理解し、認知心理学的に物事を捉え考える視点を持つことを目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>①認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、認知心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	<p>授業内・外で、「ものごとを認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（認知過程・認知活動）について、文献を読み、対話し、考える機会を多く経験してほしい。日頃から自分や人々のこころの動きや働き、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してみよう。目に見えない認知について「観察し、読み、話し、考える」ことを楽しみ、自分のこころの理解に繋げていこう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバス等の内容理解/観察課題
	2	認知とは・認知心理学とは/日常における認知過程	関連資料の復習/1章の予習
	3	私たちは世界をどのように見ているのか：1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
	4	私たちはどうやって言葉や音楽を聴き取っているのか：2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
	5	時間の経過はどのようにわかるのか：3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
	6	意識とはなんだろうか：4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
	7	記憶はどのように知識になるのか：5章	5章の復習/6章の予習/観察課題
	8	私たちはどのように会話しているのか：6章	6章の復習/7章の予習/観察課題
	9	私たちはどのように文章を読み、書くのか：7章	7章の復習/8章の予習/観察課題
	10	私たちはどのように考えるのか：8章	8章の復習/9章の予習/観察課題
	11	モノのデザインは心理学とどのように関わっているのか：9章	9章の復習/10章の予習/観察課題
	12	私たちは自分の心をどのように認知しているのか：10章	10章の復習/11章の予習/観察課題
	13	感情は知的活動にどのような影響をおよぼすのか：11章	11章の復習/12章の予習/観察課題
	14	動物は世界をどのように認識しているのか：12章	12章の復習/観察課題/全体の復習
15	もう一度、認知とは/まとめ	全体の復習と振り返り/期末課題	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：仲真紀子（編著）（2010）． いちばんはじめに読む心理学の本④認知心理学—心のメカニズムを解き明かす— ミネルバ書房 *テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し、持参すること。 参考文献：必要に応じて資料を配布する。以下の①～③の参考図書を参照するとよい。 ①道又爾 他（2011）． 新版認知心理学—知のアーキテクチャを探る— 有斐閣アルマ 有斐閣 ②森敏昭・井上毅・松井孝雄（2009）． グラフィック認知心理学 サイエンス社 ③森敏昭・中條和光（2007）． 認知心理学キーワード 有斐閣叢書 有斐閣</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容をもとに授業内での小グループワーク（課題について対話をしながら考える）を行います。「ひとの認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組む気持ちで受講してください。 他学科、他専攻学生を受講に際しては、共有科目の心理学Ⅰ、Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50%</p> <p>期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学概論、知覚心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、学習心理学Ⅰ・Ⅱ、神経心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。 次へのステージ：認知心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、認知心理学で学んだ知識と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史・主要な研究を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達心理学 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金武 育子	2年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I (前期) では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思っています。
到達目標	人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の重要理論について、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論的な理解を深めることができます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する	テキスト序章～1章
	2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史を概説する	テキスト序章～1章
	3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する	テキスト序章～1章
	4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）	テキスト序章～1章、資料
	5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）	テキスト序章～1章、資料
	6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）	テキスト序章～1章、資料
	7	発達理論④：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章、資料
	8	胎児期：胎児期の発達の様子	テキスト2章
	9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子	テキスト2章
	10	幼児前期：幼児期の発達の様子①	テキスト3章
	11	幼児後期：幼児期の発達の様子②	テキスト3章
	12	児童期：児童期の発達の様子	テキスト4章
	13	青年期①：青年期の課題①	テキスト5章
14	青年期②： // ②	テキスト5章	
15	まとめ	テキスト1～5章	
16	試験日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版 その他の資料は、講義中に適宜紹介する		
学びの手立て	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思っています。		
評価	毎回、所定のワークシートを課す。 レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史・主要な研究を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達心理学Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金武 育子	2年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいとします。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいとします。

到達目標	人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の重要理論について、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論的な理解を深めることができます。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する	テキスト序章～1章
	2	発達理論①：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章
	3	発達理論②：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章、資料
	4	発達理論③：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章、資料
	5	胎児期から青年期①：概観①	テキスト1～5章
	6	胎児期から青年期②：概観②	テキスト1～5章
	7	青年期：青年期の課題	テキスト5章
	8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題	テキスト6章
	9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応	テキスト6章
	10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題	テキスト6章
	11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応	テキスト6章
	12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題	テキスト7章
	13	発達課題について：まとめ	テキスト序、5～7章
14	発達研究：展望と課題	テキスト序～7章	
15	まとめ	テキスト序～7章	
16	試験日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版 その他の資料は、講義中に適宜紹介する		
学びの手立て	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいとします。		
評価	毎回、所定のワークシートを課す。 レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達臨床心理学	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 静香	3年	Shizuka.shimabukuro@oist.jp	

学びの準備	ねらい これまで、発達心理学と臨床心理学は関連性はあるものの、独立した学問分野として学ばれてきた。本講義では、発達臨床心理学を「人が生まれてから年をとるまで発達、成長し続ける過程において生じる問題に対する援助法を模索する学問」と定義し、特に、幼児期から青年期に至るまでの発達過程における問題行動の発生の原因と不適応な行動パターンを理論的に理解する。	メッセージ
	到達目標 1. 様々な子どもや青少年の神経発達障害や精神病性障害を取り上げ、発達過程における問題行動の発生の原因と不適応な行動パターンを理論的に理解する。 2. 適応的発達と不適応的発達を左右する要因（発達課程、環境、多様な出来事など）について理解を深め、個々の問題を発達、生物、心理、社会の4つの視点から考察することができるようになる。 3. 神経発達障害のアセスメント、診断基準、症状の発展、経過を発達の理論に基づいて理解し、支援の方法を考案することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 発達臨床心理学とは？	
	2	子どもの精神病理学～発達-システム理論の観点から	
	3	発達の諸理論	
	4	認知、知能、情報処理能力の発達	
	5	感情と社会性の発達	
	6	自己アイデンティティの発達	
	7	DSM-5、知的能力障害（知的発達症）限局性学習症	
	8	注意欠如・多動性障害	
	9	治療効果研究－ADHDの心理社会的支援 エビデンスに基づく臨床実践	
	10	自閉スペクトラム症	
	11	重篤気分調節症 秩序破壊的	
	12	摂食障害と気分障害	
	13	子どもの自殺	
	14	子どもの虐待	
	15	子どもの貧困	
	16	学期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキストブック使用しません。講義の進行に合わせて適宜プリント資料を配布します。 参考文献 ・発達臨床心理学ハンドブック 大石史博 他、ナカニシヤ出版・人間発達の生態学 エコロジー－発達心理学への挑戦 川島書店・臨床心理学 丹野義彦 他 2015年 有斐閣・DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会 2014年・John W. Santrock (2013). Child Development (14th ed.). ・ Mash, J E. & Barkley, R A. (2014). Child Psychopathology 3rd ed.		
	学びの手立て		
	評価 1. 学期末試験35% 2. ミニレポート20% 3. グループワーク30% 4. 出欠状況15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	犯罪心理学	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山入端 津由	2年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人はなぜ犯罪や非行を犯すのか。又は、多くの人はなぜ、犯罪や非行を犯さないのか。こうした問いかけを通して、犯罪や非行の理解及び人間理解を深める。また、犯罪・非行からの立ち直りや犯罪や非行の抑止に係る社会政策や対人方略についての学びを深める。	日常、社会で発生する犯罪や非行に関心をもって、どうして人は犯罪や非行を犯すのか、あるいは、どうして自分や多くの人は犯罪や非行を犯さないのかについて論究する構えをもって授業に臨んでいただきたい。
到達目標	犯罪や非行を定義する。犯罪や非行を理解するモデル（理論）を学ぶ。特に犯罪や非行について、どうして人が犯罪や非行を犯すのか、あるいは犯さないのか、また、どのような状況で犯罪が発生したのかについて、理解を深める。同時に、われわれは、人々の犯罪や非行についてどのように向き合うのか、犯罪や非行からの立ち直り（更生）にどのように掛り合うのかについて考えを深める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	予習及び復習
	2	わが国の犯罪動向（1）	同
	3	非行・派内の諸理論（2）	同
	4	非行。犯罪の原因（3）	同
	5	重大少年犯罪（4）	同
	6	沖縄の少年非行（5）	同
	7	非行・犯罪からの立ち直り（6）	同
8	社会・文化差と犯罪Ⅰ（ビデオ視聴）	同	
9	社会・文化差と犯罪Ⅱ（ビデオ視聴）	同	
10	犯罪の個人及び環境要因論	同	
11	暴力犯罪（攻撃理論の視点から）	同	
12	ホワイトカラー犯罪	同	
13	凶悪犯罪Ⅰ（永山則夫）	同	
14	凶悪犯罪Ⅱ（宅間守）	同	
15	犯罪被害は修復できるか	同	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	参考文献 ①大淵憲一、心理学の世界・専門編4『犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるか』培風館、2006 ②細江達郎、『最新 犯罪心理学』ナツメ社、2012 ③その他、適宜配布する資料、について、理解できるようにする。		
学びの手立て	各回について、テーマを与え、かつキーワードを呈示し、予習・復習を行ないやすいようにする。授業中、適宜、与えたテーマについて小グループで討議を行ない、理解を深めやすいようにする。毎回、授業後にリアクションペーパーを書いてもらい、次の授業に活用しつつ、各自の疑問や関心に応えるようにする。		
評価	毎回の出席実績（20点）、リアクションペーパーの内容（30点）、レポートと試験（50点）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容を基盤として、心理臨床・福祉など、専門領域の研究の展開に役立てることができるようになりたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉英語 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ロビンソン サイモン	2年	Please talk to me after class.	

学びの準備	ねらい Students will learn how to introduce themselves, giving details about their personality, life situation and interests, and they will learn how to generate conversation.	メッセージ This is a fun course with lots and lots of talking, so it's very practical and useful too.
	到達目標 By the end of this course students will be able to give a detailed self-introduction and have a "getting to know you" conversation with a partner.	

学びの準備	到達目標 By the end of this course students will be able to give a detailed self-introduction and have a "getting to know you" conversation with a partner.

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	First meetings	none
	2	How are you - communicative answers	none
	3	Free time 1 - listening	prepare content
	4	Free time 2 - conversation	none
	5	Occupation and part-time jobs 1 - listening	none
	6	Occupation and part-time jobs 1 - talking	prepare content
	7	Past 1- listening	none
	8	Past 2 - basic conversation	none
	9	Past 3 - advanced conversation	prepare content
	10	Past 4 - free conversation	none
	11	Future 1 - listening	none
	12	Future 2 - basic conversation	none
	13	Future 3 - advanced conversation	prepare content
	14	Future 4 - free conversation	prepare content
	15	Exam preparation	practice exam
16	Exam	none	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など There is no textbook for this class - we will use photocopied materials prepared by the teacher.
-------	--

学びの実践	学びの手立て There will be lots of talking in this class - whole class interview activities, group activities, and conversations in pairs. I will teach you everything you need to know to have these conversations, but please come ready to try hard to talk in English.
-------	---

学びの実践	評価 Students will be assessed on their attendance, participation in class activities, and on a final exam where they have a short self-introduction conversation with me.
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉行財政と福祉計画	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 鍛	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>従来の福祉実践は、国が立案する社会福祉制度の枠組みに基づき実施されてきたが、1990年以降の市町村を中心とするサービス提供が展開されるなど、実施主体が幅広い参入が促進されてきた。こうした社会福祉基礎構造改革後の動向についてまとめるとともに、社会福祉制度の基盤について学習、財政の動向及びこれらの具体的な実施計画である福祉計画の仕組み、実態について学ぶ。</p>	<p>これまで学習してきた福祉行政について振り返り、国会や地方自治体で取り組まれている福祉の在り方について自分なりに問題、課題を整理しておくこと。</p>
到達目標	<p>上記の学習の入り口において気づいた各論について本科目をとおしてまとめていく各分野の現状の課題について掘り下げていく。将来、社会福祉士や福祉の現場に就いていくとき、時代、個人の課題等への適切な相談・支援のできる資質を獲得していく。また、単に知識を身に着けるだけでなく、クライアント心に寄り添う人としての思いやりや配慮の醸成に努めてもらいたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	福祉とは、社会福祉とは、について考える。	学習予定ページの要点を整理する。
	2	社会福祉制度の展開過程について	以下同
	3	国と地方自治体の関係、行政改革のうごきについて	
	4	社会福祉基礎構造改革について	
	5	福祉財政について(1)	
	6	同(2)	
	7	福祉専門機関とその役割について	
8	相談体制と専門職の役割について		
9	福祉計画の目的・意義について		
10	各福祉計画の概要について		
11	福祉援助の現場と福祉計画の検証(1)		
12	同(2)		
13	福祉計画における住民参加の意義とありかたについて		
14	福祉計画の目的・意義について評価について		
15	まとめ		
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・社会福祉士養成講座10「福祉行財政と福祉計画」 中央法規出版を準備しておくこと。</p>		
学びの手立て	<p>・履修にあたって・・・後段の福祉計画については、福祉行政の実践源流において、社会福祉士の役割が期待される事項である。したがって、高齢者、児童、障がい者、地域の各福祉計画のいずれかを入手し、事前にその概要について閲覧しておくこと。</p>		
評価	<p>・到達目標の判定にすするため、期末テスト70%、レポート及び出席状況30%により評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>・社会に出た際、社会福祉士等としてさまざまなケースの相談・支援に遭遇します。相手が何を聞いてほしいのか、を徹底して聞く態度を培い、地域福祉行政の中核をなす立場にあることを自覚して活動してほしいと思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 福祉サービス組織と経営	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 神谷牧人（8）大城篤志（8）	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			原則、授業終了語に教室で受け付けます。ただし、必要に応じて時間外での相談も可能。	

学びの準備	ねらい 平成18年10月の障害者自立支援法の施行以降、福祉事業が保障よりサービスへと変革され、福祉サービスを提供する事業所は従来型の受け身体制ではなく、市場原理のなか利用者や地域から選ばれるサービス展開を主体的に行っていかなければならない。当科目では、マーケティングや差別化戦略等、ひろく経営の観点から福祉を理解する。	メッセージ 学生自身が福祉サービス事業所を開設（もしくは民間の会社として起業）するための企画書ならびに事業計画書を作成。理念や顧客定義、差別化戦略、予算書等の企画立案の手法の獲得を目指す。一方的な講義はほとんどなく、それぞれの手法の説明をおこない、あとはグループでの企画が主な講義スタイルとなる。講義の中から実際に起業家が生まれることを期待している。
	到達目標 到達目標はズバリ「経営者視点」である。福祉サービス提供者として、各々の法人種別毎の意義や目的を理解し、ソーシャル・ミッションを実現するための手法を学び、実際に福祉サービスを提供している法人の経営者と同じ視点の獲得が当科目の到達目標となる。そのような経営者と同じ視点を獲得することは、単純に当科目の評価基準となるだけではなく、社会人として（福祉サービス従事者のみならず）、「何をやっているのか？」ではなく「何のためにやっているのか？」を理解した上で働くことに通ずる。到達目標に対する評価に関しては、企画立案（起業するための事業計画の作成）に「正しいゴール」はないため、講義内での課題に対して能動的に取り組むことで、広義の意味で「プレゼン力（言語化・可視化する力）」や「考える力」「表現する力」の獲得があげられる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	福祉サービスの制度	
	2	社会市場における経営とは	
	3	福祉サービスにかかわる組織の違い	
	4	事業所見学	事前にグループで事業所を見学
	5	事業所を開設する「サービスの決定」	
	6	事業所を開設する「収入と支出を算出する」	
	7	事業所を開設する「予算書の作成」	
	8	中間発表	
	9	事業所を開設する「マーケティング」	
	10	事業所を開設する「差別化戦略」	
	11	事業所を開設する「市場調査」	グループで市場調査を実施
	12	事業所を開設する「市場調査」	グループで市場調査を実施
	13	事業所を開設する「事業計画書作成」	
	14	プレゼン資料の作成	
	15	プレゼン資料の作成	
16	事業計画の発表		

実践	テキスト・参考文献・資料など 使用する教科書「新・社会福祉士養成講座 1 1 福祉サービスの組織と経営 第4版」中央法規 定価2,200円（税別）
----	--

学びの手立て	1、履修の心構え：一方的な講義はほとんどなく、グループ毎に「考える」「議論する」内容がほとんどになります。そのため、他人まかせの受動的な姿勢では望まないように。 2、学びを深めるために：アルバイトでも福祉実習でも、どのようなカタチでも一度、経営者と話す機会を作ると、より一層学びが深まると考える。
--------	---

評価	評価配分：最終プレゼン40点満点 / 事業計画書28点満点 / 出席率32点満点 評価基準：出席率に関しては、16講義×2点の計算となります。最終プレゼンや事業計画における評価基準は、マーケティングや市場分析などにおいて、主観ではなく実際に足を運んで可能な限り客観的なデータ（資料）を集めているのか等が評価の基準となる。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：社会調査の基礎、福祉行財政と福祉計画 (2) ディプロマポリシー：地域福祉の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につける。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉の思想	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	2年	講義終了時に教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は福祉の専門職を志す人を対象に、福祉についてやや広い視野から考えることを目的とします。社会には社会福祉の制度が必要だというのは決して自明なことではありません。社会福祉の必要を考えるにはそれなりの理論的根拠が必要です。本講座ではこれをあらためて考え直すとともに、福祉を人間同士の関係と見て、人間同士が触れ合うことについても哲学的に考察するつもりです。</p>	<p>人間福祉学科の専門科目ですので、受講希望者のなかに福祉に何の興味もないという人はいないでしょう。哲学の方はどうでしょうか。あたりまえに感じられることをあらためて最初から考え直すのが哲学という学の特徴です。ですからここでも社会福祉の必要を自明視せず、あらためて最初から考える姿勢を求めたいと思います。そのような関心に耐える心構えがさしあたりの準備です。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉についてどのような考えがあったのか、その概略が説明できるようになる。 ・社会福祉について、漠然と良いことと思う以上の理論的根拠を自分自身で考えられる。 ・人間の関係についての現代の哲学的考察や議論の一部を知り、説明できるようになる。 ・人間同士、あるいは他人同士が触れ合うことの意味を、深く考えられるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	福祉についての自分の理解を確認する。	講義後の復習をするように。
	3	近代の福祉思想：義務と功利性①。	事典類にあたってみるように。
	4	近代の福祉思想：義務と功利性②。	事典類にあたってみるように。
	5	福祉と社会制度：福祉国家のプラン。	事典類にあたってみるように。
	6	福祉への反省①：正義について考える。	学生同士の議論を勧めたい。
	7	福祉への反省②：自由について考える。	学生同士の議論を勧めたい。
	8	福祉と善：共同体と徳について考える。	学生同士の議論を勧めたい。
	9	あらためて福祉とは何かを考える。	講義後の復習をするように。
	10	近代の人間観①：「私」と他者。	講義後の復習をするように。
	11	近代の人間観②：「私」と身体。	講義後の復習をするように。
	12	近代の人間観③：「私-たち」と他者。	講義後の復習をするように。
	13	共同体・人間・社会。	学生同士の議論を勧めたい。
	14	福祉と社会的分業：職業としての福祉。	学生同士の議論を勧めたい。
15	あらためて福祉と社会。	自分の理解を再検討する。	
16	テスト。	自分の理解を確認する。	

テキスト・参考文献・資料など
 教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典を引く習慣を身につけるように。

学びの手立て
 受講者の人数にもよりますが、こちらから皆さんにも質問します。活発な議論となることを望みます（皆さんの専門分野なので、すでに皆さん自身にも何か自分の意見があることでしょう）。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。

評価
 最終回にテストをし、同時に小レポートも提出してもらって、その両方によって評価します。配点はテスト75点、小レポート25点の予定です（多少ズレるかもしれませんが）。平常点をどう評価するかは受講者の人数によります（あまり多いと全員の様子を把握できないため）が、積極的に参加してほしいと思います。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので、出席それ自体を取りたてて高く評価することはありません。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 物事の背景思想を学ぶことはすぐに役立つわけではありませんが、その物事を深く考えるためにはぜひとも必要ことです。福祉について漠然と興味があった人が、なぜ社会福祉が必要なのか、あるいはどの程度の規模が適切なのかを、自分で探求するためのヒントとなれたら幸いです。そのような探求ができるようになれば、あとは皆さんひとりひとりが自分の問題を見つけて進んでいけば良いのです。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-久場 勝子	2年	講義修了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>科目「福祉レクリエーション理論」での学びと平行しながら、レクリエーションの技法を基礎を修得する 受講生同士が協力して、それぞれのレクリエーション技術を磨き、将来実践かとしての素養を磨く</p>	<p>講義の全体が身体的な活動を中心とすることから、服装やレクリエーション技法に必要とされる道具等の事前準備が必要である。 受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めること</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① レクリエーション技術の全体像を理解する ② 基礎的なレクリエーション技法を実践できるレベルまで修得する ③ 自らの計画に基づくレクリエーション実践ができる素養を修得する ④ 場を盛り上げ、参加者の雰囲気・気持ちを読み取る基礎を修得する ⑤ レクリエーション技術の基礎について十分な理解を深める 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション、自己紹介	指示された事項について事前学習
2	アイスブレイクの実践		同上
3	場面に応じたレクリエーション支援		同上
4	レクリエーションプログラムの組み立て		同上
5	グループ運営の技法		同上
6	グループ活動の応用		同上
7	手作りイベントの作り方		同上
8	レクリエーション活動とリスクマネジメント		中間のまとめ
9	児童を対象としたレクリエーション		同上
10	高齢者を対象としたレクリエーション		同上
11	グループを対象としたレクリエーション例		同上
12	様々な道具を使用するレクリエーションの例		同上
13	レクリエーションとコミュニケーション能力		同上
14	レクリエーションリーダーの相互支援		同上
15	まとめ、受講生による学習成果の報告、評価		報告レジメ・PP等の作成
16			
テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> ① 必要に応じて資料を配布する。 ② 参考分件等も必要に応じて提示する。 		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> ① これまでの国内外の大災害時の状況や公私の対応の状況などについて調べておくこと ② 社会福祉関連法をはじめ災害関連の法規について事前に目を通しておくこと ③ 特に、社会的弱者に対する対応のあり方・現状の施策等について調べておくこと ④ 沖縄県における災害時のあり方について政策提言(案)を作成できることを目指すこと ⑤ その他、積極的・自主的取り組みを期待する 		
評価	以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。 ①出欠状況10%、②参加態度10%、③情報収集能力20%、④洞察力20%、⑤まとめる力20%、⑥プレゼン能力20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義内容をもとに、国内外の規則・制度・施策の状況把握につとね、公私の災害時対応のあり方についての政策提言ができるレベルまで考察を深めこと、また、特に社会福祉の対象者への対応については、専門職として対応できる知識・技量を深めることを期待する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-久場 勝子	2年	講義修了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	科目「福祉レクリエーション理論」及び「福祉レクリエーション技術Ⅰ」での学びの成果をもとに、レクリエーション実践の担い手となれるよう、技術やリーダーとしての資質について理解を深める	講義の全体が身体的な活動を中心とすることから、服装やレクリエーション技法に必要とされる道具等の事前準備が必要である。受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めること
到達目標	① レクリエーション技術の全体像を理解する ② 基礎的なレクリエーション技法を実践できるレベルまで修得する ③ 自らの計画に基づくレクリエーション実践ができる素養を修得する ④ 場を盛り上げ、参加者の雰囲気・気持ちを読み取る基礎を修得する ⑤ レクリエーション技術の基礎について十分な理解を深める	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション、自己紹介	指示された事項について事前学習
	2	アイスブレイキング（モデル、技法、進め方）	同上
	3	リーダーの資質（動き、声、視線、態度、進め方など）	同上
	4	コミュニケーション技法の実際と実践	同上
	5	歌・音楽・ダンス等を取り入れたレクリエーションの実際	同上
	6	様々な道具を使用するレクリエーションの例	同上
	7	自然を活用したレクリエーションの実際	同上
8	中間報告・ディスカッション・課題の明確化	中間のまとめ	
9	高齢者施設等における室内レクリエーションの実際	同上	
10	子どもを対象とした羽交いでのレクリエーションの実際	同上	
11	障がい者向けのレクリエーションの実際	同上	
12	相互交流・信頼関係をつくるレクリエーションの実際	同上	
13	小グループによる実践例、世代を超えた実践例	同上	
14	受講生によるレク実践の企画、期待される成果等のまとめ	同上	
15	まとめ、受講生による学習成果の報告、評価	報告レジメ・PP等の作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など	① 必要に応じて資料を配布する。 ② 参考分件等も必要に応じて提示する。		
学びの手立て	① これまでの国内外の大災害時の状況や公私の対応の状況などについて調べておくこと ② 社会福祉関連法をはじめ災害関連の法規について事前に目を通しておくこと ③ 特に、社会的弱者に対する対応のあり方・現状の施策等について調べておくこと ④ 沖縄県における災害時のあり方について政策提言(案)を作成できることを目指すこと ⑤ その他、積極的・自主的取り組みを期待する		
評価	以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。 ①出欠状況10%、②参加態度10%、③情報収集能力20%、④洞察力20%、⑤まとめる力20%、⑥プレゼン能力20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義内容をもとに、国内外の規則・制度・施策の状況把握につとね、公私の災害時対応のあり方についての政策提言ができるレベルまで考察を深めこと、また、特に社会福祉の対象者への対応については、専門職として対応できる知識・技量を深めることを期待する。
-------	---

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に、大学で学ぶことの意義、大学機能の理解、大学生活の特徴を学びます。演習形式の特徴を活かし、ゼミ生が共に切磋琢磨しながら教養を深め視野を広げることを目的とします。	高校までの学びと大学での学びは大きく異なります。そこで、大学で学ぶことの意義、学ぶためにどのように大学の機能を活用するか、大学で学ぶ上で身につけたい技術（主にレポート作成）について共に学びましょう。
到達目標	①大学で学ぶことの意義を理解することができる ②大学の機能を理解することができる ③レポートの書き方を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	自己紹介①	
	3	自己紹介②	
	4	大学で学ぶことの意義①大学の歴史から考える	
	5	図書館オリエンテーション	
	6	大学で学ぶことの意義②高校までの学びとの相違	
	7	1日研修のオリエンテーション	
	8	大学の機能を理解する①キャリアセンター	
	9	大学の機能を理解する②国際交流センター	
	10	大学の機能を理解する③福祉・ボランティア支援室	
	11	大学の機能を理解する④キャンパス相談室	
	12	大学の機能を理解する⑤トレーニング室/グラウンド	
	13	社会福祉専攻専門科目の特徴を理解する～海外社会福祉演習、ボランティア関連科目等～	
14	レポートの書き方①レポート作成のポイントと心得		
15	レポートの書き方②レポート作成過程の発表		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。		
学びの手立て	①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。出席も重視します。 ②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、大学サービスを活用しましょう。		
評価	レポート（50%）、演習への主体的参加状況（50%）、		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきましよう。 ②関連科目：1年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	1年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、図書館の利用法・障害者スポーツの理解・大学で学ぶ意義を学んでいきます。	メッセージ この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。
	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。この演習の目標として図書館の利用法、一日研修において他学生との仲間意識の向上、障害者スポーツなどを理解するなどがあげられる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	グループ発表①準備	配付資料の精読
	3	グループ発表①	
	4	図書館オリエンテーション (予定)	
	5	一日研修のための合同ゼミ (予定)	
	6	合同研修の感想等を作成	
	7	合同ゼミ (ボランティア支援室概要等の説明予定)	
	8	グループ発表②準備	配付資料の精読
	9	グループ発表②	配付資料の精読
	10	グループ発表②	配付資料の精読
	11	グループ発表②	配付資料の精読
	12	社会人講師による講話 (予定)	
	13	その他	
14	その他		
15	前期のまとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。			
学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。			
評価 出席の状況 (50%)、発表・提出物の状況 (40%)、その他 (10%) として評価を行う。 日々の講義態度も評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「専門演習 I」につながります。「専門演習 I」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの先生から学びたいかを判断してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年		

学びの準備	ねらい 人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。
	テキスト・参考文献・資料など それぞれの授業のなかで紹介していく。
	学びの手立て
	評価 ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 コミュニケーションの技能の修得と実戦的学習を重視し、豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。	大学生生活初年次は、とにかく緊張感を伴います。この講義はその緊張感を少しでもほぐし、後期のグループ学習や討論に向けた人間関係の基礎づくりを行います。大学生活をお互いに支えていく仲間づくりをしましょう。
到達目標	福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。自己覚知と他者覚知を目指す。ゼミの枠を超えた専攻全体での仲間づくり。コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑う者も多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。 また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。
	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。 適宜紹介する。
	学びの手立て
	<履修上の心構え> ゼミは学籍番号順を原則にクラス分けが行われる。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。 5月中旬ごろに行われる新入生一合同研修には必ず参加すること。（研修は出席回数3回分に相当する） 個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること。 必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。
	評価
	全体を100点満点とした場合、そのうち平常点（受講姿勢等）が20点、提出物の提出状況が20点、グループでのディスカッションやプレゼンテーションへの取り組み姿勢が60点という配点で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：基礎演習（1年次後期） 次のステージ：同ゼミではコミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につけることを目標にしており、1年次後期の「基礎演習」で目標とする社会福祉に関する基礎的な課題やグループ学習・討論へと取り組めるように準備すること。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、図書館の利用法・障害者スポーツの理解・大学で学ぶ意義を学んでいきます。	メッセージ この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	グループ発表①準備	配付資料の確認
	3	グループ発表①	
	4	図書館オリエンテーション（予定）	
	5	一日研修のための合同ゼミ（予定）	
	6	合同研修の感想等を作成	
	7	合同ゼミ（ボランティア支援室概要等の説明予定）	
	8	グループ発表②準備	配付資料の確認
	9	グループ発表②	配付資料の確認
	10	グループ発表②	配付資料の確認
	11	グループ発表②	配付資料の確認
	12	社会人講師による講話（予定）	
	13	その他	
	14	その他	
15	前期のまとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。			
学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。			
評価 出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。 日々の講義態度も評価します			

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分ごとの福祉分野に興味があるかを認識してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療サービス	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国における保健医療サービスの現状を知り、また、今後の動向について学ぶ。また、高齢社会を背景として、今後さらに進展する保健・医療・福祉の連携のもとで展開される地域包括ケアシステムについて学ぶ。	保健・医療に関する社会的出来事に常に関心をもつことをこころがける。また、わからない医療用語等はすぐに調べるようにする。
到達目標	到達目標は以下2点である。①我が国の保健医療サービスの現状を知り、他者に説明することができる。②今後の我が国の保健医療サービスのあり方を理解し、他者に説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・保健医療サービスとは	保健医療とは
	2	保健医療サービスとその構成要素	人・もの・財と保健医療サービス
	3	医療資源①	医療従事者の種類
	4	医療資源②	
	5	医療資源③	医療施設の種類の
	6	医療資源④	医療法という法律
	7	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療ソーシャルワーカー	MSWの役割を調べる
8	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカー		
9	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス①	クリティカルパスとは	
10	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス②		
11	緩和ケア①	悪性新生物ステージ・末期	
12	緩和ケア②	緩和ケアとホスピス	
13	保健・医療・福祉の連携	地域包括ケアシステムとは	
14	医療の出口に福祉有り		
15	講義の振り返り		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 新・社会福祉養成講座17「保健医療サービス」(中央法規) *「国民衛生の動向」「厚生労働白書」等を参照することが望ましい。図書館及び厚生労働省ホームページから参照することができます。		
学びの手立て	人間福祉学科では、保健学・医療学・医学を学ぶ科目は少ないため、日頃からマスコミなどで話題となる用語などには関心をもつこと。		
評価	評価については、先ず出席回数が16回の3分の2以上であること、また、客観試験点数が中間試験及び期末試験のいずれかが60点以上であった場合を評価の対象とする。講義への出席を重視するため、客観試験が60点以上であったとしても、出席数が3分の2以上なかった場合には「不可」とするので気をつけてください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 保健・医療に関する科目は本科目のみであるため、履修後は、マスメディアで騒がれる保健・医療問題に関心をもつ必要があろう。なお、関連科目としては、「人体の構造及び機能と疾病」がある。将来、医療ソーシャルワーカーを目指す学生は履修することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 人間福祉学科の生徒を主な対象とし、実践的活動を重視した教育として、幅広い視野を持つための講義と位置付けます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ボランティア・NPO論	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。ptt514@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。	これから社会へ飛び出す学生諸君一人ひとりが自らを見つめ直すきっかけづくりをしていただきたい。そこから市民社会を考え、ボランティア・NPOへの見識を深めて、実際、何らかのアクションを起こせるようになってほしい。
到達目標	自らの役割を認識しつつ、ボランティア、NPO、市民社会等についての見識を深められるようになります。また、オルタナティブな社会を垣間見ながら、実社会のあり方を考えられるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	NPO、ボランティアとは	レジュメをよく読むこと
	3	社会の発展	同上
	4	自己とは	同上
	5	社会のしくみ	同上
	6	市民社会とは	同上
	7	メディアリテラシー	PCの操作を把握しておくこと
	8	リサーチリテラシー	同上
	9	地域を知る方法	同上
	10	地域を変える方法①	同上
	11	地域を変える方法②	同上
	12	地域を支える経済的しくみ①	同上
	13	地域を支える経済的しくみ②	同上
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①	同上	
15	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②	同上	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。		
学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、ボランティア・NPO活動を行っている学生、行いたい学生の履修が望まれる。		
評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「ボランティア論」、「協働社会論」があるが、併せて履修するのが望ましい。 実際、ボランティア、NPO活動に取り組みながら、肌でボランティア、NPOを感じていただきたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ボランティア演習	通年	土1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-砂川 亜紀美	1年	ppt814@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、①実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援するリーダーとして活動できる人材を育成することを目的とする。取り組み方法としては、ボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げ、特に大学</p> <p>到達目標 福祉の現場では、多様な専門職との連携していくための高い専門性や幅広いネットワークが求められている。本演習では、ボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げ、特に大学と地域が連携する事業に協力し積極的に取り組む。また、実践したことから得られた成果や課題等を明確にするために活動報告会及び報告書作成を行う。</p>	<p>①実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援するリーダーとして活動できる人材を育成することを目的とする。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	シラバスを良く確認しておく
	2	ボランティア活動とは	ボランティアに関する文献にあたる
	3	地域のニーズ発掘・調査の検討①	学内外での情報収集
	4	地域のニーズ発掘・調査の検討②	同上
	5	地域のニーズ発掘・調査の計画①	同上
	6	地域のニーズ発掘・調査の計画②	同上
	7	地域ニーズ調査の実施①	学内外での情報収集、進捗の確認
	8	地域ニーズ調査の実施②	同上
	9	地域ニーズ調査の実施③	同上
	10	地域ニーズ調査の実施④	同上
	11	調査のまとめと支援企画・設計①	各グループごとのまとめ
	12	調査のまとめと支援企画・設計②	同上
	13	調査のまとめと支援企画・設計③	同上
	14	報告書のまとめ	同上
	15	前期まとめ・夏季休暇の取組みについて	各取組みについての報告
	16	後期オリエンテーション	
	17	地域連携活動の実践/課題別取り組み①	各グループごとの取り組み
	18	地域連携活動の実践/課題別取り組み②	同上
	19	地域連携活動の実践/課題別取り組み③	同上
	20	中間報告①	レポートの作成
	21	地域連携活動の実践/課題別取り組み④	同上
	22	地域連携活動の実践/課題別取り組み⑤	同上
	23	地域連携活動の実践/課題別取り組み⑥	同上
	24	中間報告②	レポートの作成
	25	地域連携活動の実践/課題別取り組み⑦	同上
	26	地域連携活動の実践/課題別取り組み⑧	同上
	27	地域連携活動の実践/課題別取り組み⑨	同上
	28	地域連携活動の実践/ふり取り	取り組みと資料整理
	29	地域連携活動の実践/まとめ	同上
30	地域連携活動の実践/報告書の作成	同上	
31	全体のまとめ	報告書の作成	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。資料を配布します。参考文献は講義の中で適宜紹介していきます。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組み、自己アピールができる者を優先する。 ② 土曜日2限目にボランティア活動ができる者を優先する。 ③ 時間を守り、責任を持ってボランティア活動ができる者を優先する。 ④ 人間福祉学科以外の学生も履修可能とする。 ⑤ 時間外での活動（自主学习、イベント、フィールドワーク）の時間を設定するため、積極的に活動に参加すること。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業への参加態度（積極性、リーダー性など） ②活動への参加態度（積極性、リーダー性など） ③活動報告書提出状況 ④レポート提出等
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業が終了した後も、自ら地域の課題やニーズに気づき、課題達成について深く考え地域貢献活動へ積極的に取り組んでほしい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大嶺 歩	2年	ptt717@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床心理学の歴史や諸理論、諸技法についてふれ、さまざまな心の問題のとらえ方やアプローチ法などを実践的に学び、対人援助のための基礎的態度を身につけます。	臨床心理学は実践から学ぶことも多い学問です。人の心の働きや行動を多面的に理解し、関わるための手立てを一緒に考えていきましょう。対象のことを考えるためには、こちら側（自分）の心の動きに気づくことも大切です。気づきや疑問を自主的に調べ、質問するなど積極的に講義に臨んでほしいと思います。
到達目標	毎回のテーマ（理論、技法、心の問題）について理解し、自分の言葉で説明できるようにする。臨床心理学的な視点から対人援助の姿勢を学び、実践の場で生かせるようにする。自ら問題意識をもって主体的に学習を深めることが出来るようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	臨床心理学とは	関心のあるテーマを絞る
	3	臨床心理学の実践	関心のある分野を絞る
	4	臨床心理学の理論と実践(1)精神分析療法、クライアント中心療法など	課題：各理論についてのまとめ
	5	臨床心理学の理論と実践(2)不安障害・PTSDについて	同上
	6	臨床心理学の理論と実践(3)家族療法、コミュニティ心理学など	同上
	7	アセスメント(1)検査法	課題：各検査法についてのまとめ
	8	アセスメント(2)知能検査法	課題
	9	発達障がいについて(1)	配布資料を読む
	10	発達障がいについて(2)	同上
	11	臨床心理学の対象となる心の問題(1)	小テスト
	12	臨床心理学の対象となる心の問題(2)	同上
	13	臨床心理学の対象となる心の問題(3)	同上
14	臨床心理学の研究活動	関心のある研究方法を絞る	
15	臨床心理学の社会的専門性	課題：架空事例について	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しません。毎回、資料を配布します。		
学びの手立て	履修の心構え 毎回のテーマについて身近な問題としてとらえ、関わり方について主体的に考える姿勢で臨んでほしい。コメントシートには、毎回の質問や感想を記入し提出する。やむを得ず、遅刻する場合には事前に申し出ること。		
評価	試験50%、課題30%、小テストなど20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学Ⅱ」では、Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題などについての理解をより深めるため、架空事例を中心に解説します。また、予防的観点からの取り組みについても紹介します。継続して受講されることをお勧めします。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	牛田 洋一	2年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい 臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。	メッセージ 講義は真剣に、しかし臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。
	到達目標 ・臨床心理学の、歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの基礎的な知識を広範囲に学ぶことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを確認すること
	2	臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域	配布資料の確認と別途文献での確認
	3	臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準	同上
	4	臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）	同上
	5	臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティ障害など）	同上
	6	臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）	同上
	7	臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）	同上
	8	臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）	同上
9	臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）	同上	
10	臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティの評価）	同上	
11	臨床心理学的方法：心理療法1（来談者中心療法・認知療法など）	同上	
12	臨床心理学的方法：心理療法2（箱庭療法・芸術療法など）	同上	
13	臨床心理学的方法：心理療法3（家族療法・短期療法）	同上	
14	臨床心理学的方法：心理療法4（家族療法・短期療法）	同上	
15	臨床心理学的方法：まとめ	全ての配布資料の再確認	
16	試験	総合評価60点未満で不可	
	テキスト・参考文献・資料など 各講義毎に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。 講義のなかで適宜紹介する。特に指定はないが、臨床心理学の入門書あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧める。		
	学びの手立て 履修の心構え： ・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。 ・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多数になることがあります。出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。		
	評価 基本的に試験の結果を重視します（90%）。その他レポート、授業への参加姿勢など（10%）を加味し総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・臨床心理学Ⅰの内容は、臨床心理学Ⅱで知見を深めていくための基礎的な知識を獲得しておく。関連科目としては「心理面接法」「犯罪心理学」「学校臨床心理学」などがあるが、臨床の学問である以上、全ての科目が関連科目となりうる。
-------	--

科目基本情報	科目名 臨床心理学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 牛田 洋一	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい 「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。	メッセージ 講義は真剣に、しかし臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。
	到達目標 ・「臨床心理学Ⅰ」で学んだ、臨床心理学の歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの広範囲な基礎的な知識の中から、いくつかのテーマを取り上げ、少し理解を深めていくことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを確認すること
	2	臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害1：特徴について	配布資料の確認と別途文献での確認
	3	臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害2：対応について	同上
	4	臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割	同上
	5	臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析	同上
	6	臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー	同上
	7	臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト	同上
	8	臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）	同上
	9	臨床心理学的トピック1：治療的コミュニケーションの語用論	同上
	10	臨床心理学的トピック2：短期療法と治療言語	同上
	11	臨床心理学的方法：短期療法1（MRIアプローチ）	同上
	12	臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）	同上
	13	臨床心理学的トピック3：心と現代の脳科学	同上
	14	臨床心理学的トピック4：虐待（性被害）の臨床	同上
	15	全体のまとめ	全ての配布資料の再確認
16	試験	総合評価60点未満で不可	

テキスト・参考文献・資料など
講義のなかで適宜資料を配布する。
講義のなかで適宜紹介する。特に指定はないが、臨床心理学の入門書あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧める。

学びの手立て
履修の心構え：
・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。
・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多数になることがあります。出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。

評価
基本的に試験の結果を重視します（90%）。その他レポート、授業への参加姿勢など（10%）を加味し総合的に評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目
・臨床心理学Ⅱではより臨床心理学の知見を深め、より実践的な学習を進めるための基礎的な知識を獲得しておく。関連科目としては「心理面接法」「犯罪心理学」「学校臨床心理学」などがあるが、臨床の学問である以上、全ての科目が関連科目となりうる。

※ポリシーとの関連性

臨床心理学の実践的な知識と技法を幅広く学び、対人援助の基本的な視点を身につけることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大嶺 歩	2年	ptt717@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床心理学Ⅰで紹介した諸理論、諸技法、心の問題などについての理解をより深めるため、架空事例を中心に解説する。また、予防的観点からの取り組みについても紹介します。この講義を通して、対人援助の基礎や柔軟な視点を持つように学んでほしい。	臨床心理学は実践から学ぶことも多い学問です。人の心の働きや行動を多面的に理解し、関わるための手立てを一緒に考えていきましょう。対象のことを考えるためには、こちら側（自分）の心の動きに気づくことも大切です。気づきや疑問を自主的に調べ、質問するなど積極的に講義に臨んでほしいと思います。
到達目標	毎回のテーマについて、身近な問題としてとらえ、援助者として自分なりの考えをもち、自分の言葉で説明できるようにする。臨床心理学的な視点から対人援助の姿勢を学び、実践の場で生かせるようにする。自ら問題意識をもって主体的に学習を深めることが出来るようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	自我の発達論	配布資料を読んでおく
	3	青年期の課題	同上
	4	検査法(1)質問紙法	小テスト
	5	検査法(2)投影法	小テスト
	6	発達障がいについて	配布資料を読んでおく
	7	強迫性障害について	各障害についての小レポート
8	統合失調症について	同上	
9	うつ病・双極性障害について	同上	
10	人格障害について	同上	
11	自殺予防の取り組み	関心のある取り組みについて絞る	
12	依存症について	配布資料を読んでおく	
13	社交不安障害について	小レポート	
14	解決志向アプローチ	同上	
15	まとめ		
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しません。毎回、資料を配布します。	
学びの手立て	履修の心構え 毎回のテーマについて身近な問題としてとらえ、関わり方について主体的に考える姿勢で臨んでほしい。コメントシートには、毎回の質問や感想を記入し提出する。やむを得ず、遅刻する場合には事前に申し出ること。		
評価	試験50%、小レポート35%、小テスト15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題などについての理解をより深めるため、架空事例を中心に解説します。臨床心理学Ⅰから継続して受講されることをお勧めします。受講終了後は、より実践的な学習を通して、じっくり事例と向き合う対人援助力を身につけるため、自己研鑽に励んでほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床面接法 I	前期	水 2	2
	担当者 平山 篤史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理臨床の支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取る。講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見える力、考える力を伸ばす。	講師の話を一方的に聞くだけでなく、学生が相互に意見を交換できる講義である。単に知識の吸収だけでなく、心理学を通して自分を成長させるという意欲をもって臨んでほしい。
	到達目標	
	①各発達段階における心理的支援の基本的な留意点、特徴について理解できる。 ②心理療法（カウンセリング）の事例についてのグループディスカッションを通し、他者の意見を聴き、自分で考え、意見を述べることができる。 ③心理学的視点から人間の生きる営みを捉えることができるようにする。（心理学的視点＝心理学の知識、共感的な姿勢、多角的な視点など）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理臨床的援助のモデル①	リフレクションシートの作成
	2	心理臨床的援助のモデル②	リフレクションシートの作成
	3	心理臨床的援助の過程	リフレクションシートの作成
	4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）	リフレクションシートの作成
	5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）	リフレクションシートの作成
	6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）	リフレクションシートの作成
	7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）	リフレクションシートの作成
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）	リフレクションシートの作成	
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）①	リフレクションシートの作成	
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）②	リフレクションシートの作成	
11	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）	リフレクションシートの作成	
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）	リフレクションシートの作成	
13	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）	リフレクションシートの作成	
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）	リフレクションシートの作成	
15	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）	リフレクションシートの作成	
16	まとめ	最終レポート	
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義のなかで適宜紹介する。 講義の中では毎回資料を用意する。		
	学びの手立て		
	「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。 ①心理臨床的援助の基本事項→②事例についてディスカッションという流れで講義を展開します。 また、毎回の講義で、学んだことを自分の日常体験や社会的現象と結び付けてリフレクションシートにまとめて提出してもらいます。講義ではそれをいくつかピックアップし、匿名で紹介します。 他の受講生の考えを知ることができる講義であるため様々なものの見方が広がる。そのため積極的に考え・意見を述べて（記述して）ほしい。		
	評価		
	リフレクションシート…50% 最終レポート…50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「臨床面接法Ⅱ」で基本的な関わり技法について実践的に学ぶ 「行動療法」「動作法」「ストレスマネジメント」「芸術療法」で各心理療法の理論と実践を学ぶ 「発達臨床心理学」「学校臨床心理学」で各領域での支援の実践を学ぶ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床面接法Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。	メッセージ カウンセリング技法を身につけるための講義。毎回少しずつステップアップしながら、実践的なスキルの修得を目指していく。
	到達目標 臨床面接技法の理論を学ぶ。 実践的な臨床面接技法を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに（臨床面接の技法）	
	2	クライアントの話	配布資料の復習
	3	感情の反射	配布資料の復習
	4	焦点づけ	配布資料の復習
	5	クライアントの質問	配布資料の復習
	6	カウンセラーの質問（1）	配布資料の復習
	7	話し手と聞き手	応答練習（ロールプレイ）
	8	対話分析	配布資料の復習
	9	クライアントへの応答	応答練習（ロールプレイ）
	10	カウンセラーの質問（2）	配布資料の復習
	11	カウンセラーの質問（3）	配布資料の復習
	12	ケース理解（グループディスカッション）	
	13	カウンセリングの実際	課題レポート作成・提出
	14	援助的応答（1）	配布資料の復習
	15	援助的応答（2）	学期末試験に向けた総復習
	16	学期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、資料とワークシートを配布する。 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 面接技法を身につけるため、段階的に講義を積み重ねていくので、遅刻・欠席厳禁。 やむなく欠席した場合は、必ず前回資料を受け取り、次週までに自学自習をして臨むこと。		
	評価 毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。 関連科目は「臨床面接法Ⅰ」である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	レクリエーション理論	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良昌徳（2回） 細田奈々（13回）	2年	講義修了後に教室で。又は保良研究室	

学びの準備	ねらい 講義を通して、レクリエーションの歴史・概念、生活におけるレクリエーションの意義とその内容、さらに福祉現場におけるレクの有用性等について理解する	メッセージ 自分を見つめ、自分のコミュニケーション能力、他人との交流のあり方、グループ活動におけるリーダーシップ等について考え、社会活動におけるレクリエーションの意義や効用、可能性等について整理しておくこと
	到達目標 ① レクリエーションの定義・概念等について理解する ② 社会におけるレクリエーションの歴史・変遷について理解する ③ 社会生活におけるレクリエーションの意義・効用について理解する ④ レクリエーションの種類・分離・内容等について理解する ⑤ レクリエーションと福祉的支援について理解する ⑥ その他	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	
	2	これからの社会とレジャー・レクリエーション	
		時間外学習の内容	
	3	レクリエーションとは何か	講義の趣旨の理解
	4	レクリエーション運動の歴史とその背景	指示された課題・内容の準備
	5	レクリエーション支援の考え方	指示された課題・内容の準備
	6	ライフスタイルとレクリエーション	指示された課題・内容の準備
	7	高齢社会と課題とレクリエーション	指示された課題・内容の準備
	8	福祉レクリエーションの内容	指示された課題・内容の準備
	9	コミュニケーションの基本	指示された課題・内容の準備
	10	レクリエーション事業	指示された課題・内容の準備
	11	レクリエーション活動の安全管理	指示された課題・内容の準備
	12	ホスピタリティの考え方	指示された課題・内容の準備
	13	アイスブレイキングの意義及びプログラミング	指示された課題・内容の準備
	14	レジャー・レクの国際比較・余暇能力	指示された課題・内容の準備
	15	まとめ、成果の発表	指示された課題・内容の準備
	16		
	テキスト・参考文献・資料など ① 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』 ② その他、必要に応じて資料を配付する		
	学びの手立て ① いろいろな生活場面でのレクリエーション技術の活用を考える ② 様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める ③ 自分の特技や趣味を活かした独自のレクリエーション技術を見つけること ④ 学校や職場など様々な生活場面で、どのようなレクリエーション技術が活かせるかを常に考える ⑤ 講義の内容から、レクリエーション支援の意味を十分理解し、将来に備えること ⑥ その他、積極的・自主的取り組みを期待する		
	評価 以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。 ①出欠状況20%、②参加態度20%、③課題レポート20%、④レク運営能力30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ① 本科目は、レクリエーション技術Ⅰ・Ⅱの修得をもって完結するものであり、受講生はⅠ・Ⅱも受講すること ② 本科目においてレクリエーションの意味や意義、その概要等について理解し、技術Ⅰ及びⅡの受講に備えること
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年学概論Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	2年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こる様々な問題を解決するための学問である。高齢者の取り巻く現状、加齢に関する身体的・心理的な諸問題などについて学んでいきます。</p>	<p>本講義は、老年学の概論を説明するものとなります。高齢社会の現状、加齢とは何かなどを学んでいきます。</p>

到達目標	心身の加齢変化を追うには成長期から見て行く必要があります、社会的な側面では高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び問題解決のためのスキルを身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	世界の高齢化の現状と課題	テキスト、資料の精読
	3	日本の高齢社会	テキスト、資料の精読
	4	高齢社会の歴史と老化のイメージ	テキスト、資料の精読
	5	加齢の生物学的理論1	テキスト、資料の精読
	6	加齢の生物学的理論2	テキスト、資料の精読
	7	加齢の生物学的理論3	テキスト、資料の精読
	8	加齢と障害の理解1	テキスト、資料の精読
	9	加齢と障害の理解2	テキスト、資料の精読
	10	健康長寿：国際的な展望1	テキスト、資料の精読
	11	健康長寿：国際的な展望2	テキスト、資料の精読
	12	加齢の心理的側面1	テキスト、資料の精読
	13	加齢の心理的側面2	テキスト、資料の精読
	14	認知症の理解1	テキスト、資料の精読
15	認知症の理解2	テキスト、資料の精読	
16	期末試験		

学びの手立て	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005)『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。 必要に応じて、参考文献・資料などを紹介します。</p>
--------	---

学びの手立て	<p>テキストや配付資料は事前に読み込んでから受講すること。グループワークや各学生の意見記述課題等も予定しているので必要な情報については積極的に収集はこなうこと。 また、期末試験を行うのでテキスト、配付資料は紛失せず管理をすること。</p>
--------	--

評価	出席状況(20%)、課題レポートの内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は「老年学概論Ⅱ」へとつながる。また、講義受講後や閉講して関連する「高齢者に対する支援と介護保険制度」や統計データを閲覧する上での基礎知識となる「社会統計基礎」を受講してもらいたい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保険についての専門的な知識を習得し、高齢社会において活躍できる人材を育成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年学概論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	トナルド クレイグ ウィルコックス (2) 安次富 (2) 他オムニバス	2年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 老年学についての各種専門分野について学び、理解をする。	メッセージ この講義は、オムニバス形式で進める。老年学に関連する分野に関する専門的な知識を持つ方々に講義を行っていただく。受講前に事前資料がある場合はきちんと読んでから講義に臨むこと。
	到達目標 老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追いには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む公衆衛生学・予防医学的な視点を学び、批判的思考と問題解決のためのスキルを身につけることを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	個人の老いと社会の老い	
	3	個々の加齢に伴う社会的側面	
	4	医療・福祉と介護Ⅰ	
	5	医療・福祉と介護Ⅱ	
	6	沖縄、日本、世界の長寿研究Ⅰ	
	7	沖縄、日本、世界の長寿研究Ⅱ	
	8	高齢者の活動とライフスタイル	
	9	社会的、文化的文脈におけるサクセスフルエイジング	
	10	高齢者の心理と加齢、ストレス、対応、適応、自殺	
	11	死ぬこととホスピス	
	12	社会的不平等と健康Ⅰ	
	13	社会的不平等と健康Ⅱ	
	14	家族、友人とソーシャルサポート（ソーシャルキャピタル）	
	15	アンチエイジングメディスンと糖化と酸化ストレスについて	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, 宮内康二 編訳 (2005) 『ジェロントロジー ―加齢の価値と社会の力学―』 きんざい その他必要に応じて、資料・参考文献などを紹介する。		
	学びの手立て 事前に読んでおく資料は、授業前には読んでおくこと。		
	評価 出席状況 (30%) ・課題等の内容、提出状況 (30%) ・期末試験の結果 (30%) ・講義中の議論など授業への参加意欲 (10%) を総合的に判断して評価します。 期末試験については、講義の内容・配付資料内から問題を出題予定です。各講義の資料等はなくさずに保管しておくこと。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義受講後や閉講して関連する「高齢者に対する支援と介護保険制度」や統計データを閲覧する上での基礎知識となる「社会統計基礎」を受講してもらいたい。
-------	---